

平成 20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



2011

水戸市教育委員会

平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2011

水戸市教育委員会



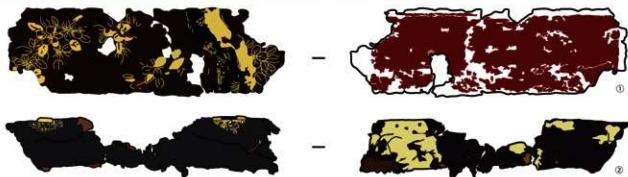
軍民坂遺跡（第 4 地点）SK007 繩文土器深鉢出土狀況



台渡里遺跡（第 43 次）3121 型式軒丸瓦検出状況



釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土
黒地蒔絵箱物出土状況



釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土黒地蒔絵箱物実測図(S=1/3)



①表面(補強処理後)



①裏面(補強処理後)

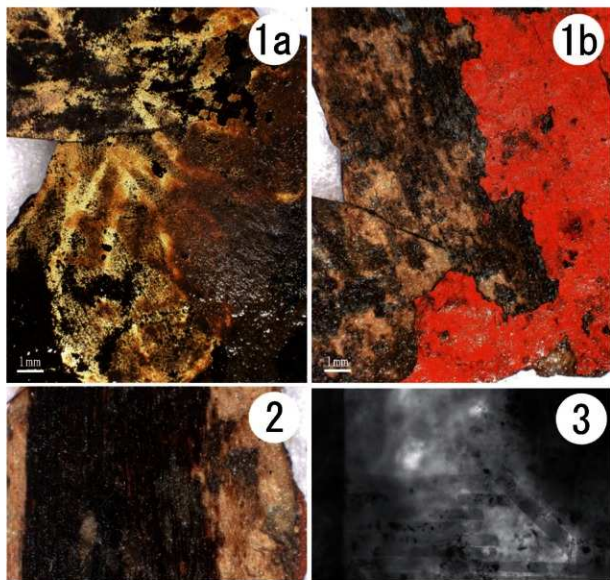


②表面(補強処理後)



②裏面(補強処理後)

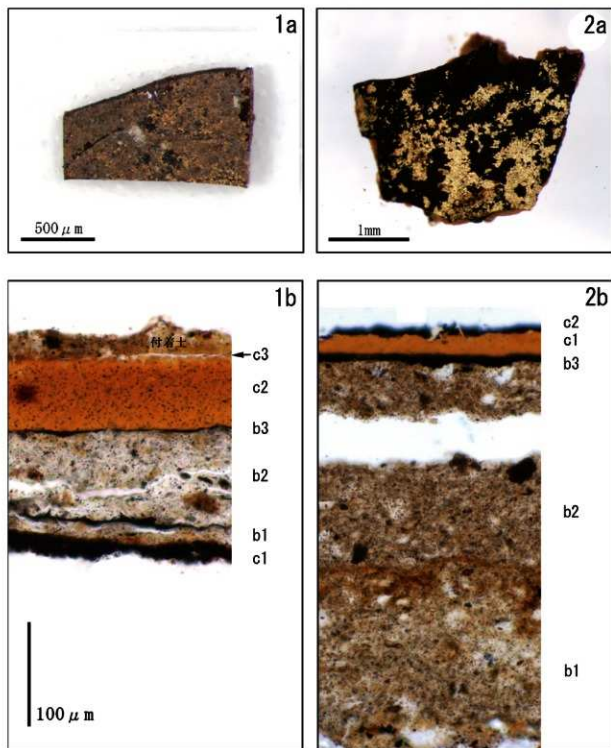
釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土黒地蒔絵箱物補強処理後写真(S=1/3)



釜神町遺跡（第4地点）第1号遺構出土黒地蒔絵箱物漆塗膜片および木胎材組織の顕微鏡写真

1a. 箱物外面（蒔絵） 1b. 箱物内面

2. 木胎部の木材片 3. 木胎木片の顕微鏡写真（針葉樹放射断面）



釜神町遺跡（第4地点）第1号遺構出土黒地蒔絵箱物漆塗膜と塗膜薄片の顕微鏡写真（スケール共通）

1a. 部材Aの塗膜片 1b. 部材Aの塗膜薄片の顕微鏡写真と塗膜構造

2a. 部材Bの塗膜片 2b. 部材Bの塗膜薄片の顕微鏡写真と塗膜構造

ごあいさつ

歴史的文化的遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成20年度に水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成20年度に実施した試掘・確認調査は86件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は9件実施しました。この数は県内でもトップクラスです。本書には、これらの調査によって得られた先土器時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果が盛り込まれております。

大足町に位置する寺内遺跡では、先土器時代の石器が2点出土しました。旧内原地区ではこれまで先土器時代の遺跡はほとんど見つかっておらず、貴重な発見と言えます。

上国井町に位置する軍民坂遺跡では、本書の表紙を飾る東北地方と関東地方の文様が折衷した深鉢形土器が出土しました。北関東と南東北の地域間交流を示すものです。

渡里町一帯に広がる台渡里遺跡では、役所に関わるとみられる溝跡から多量の須恵器とともに、那賀御衝正倉院の屋根に葺かれていたものと同じ文様を持つ軒丸瓦が出土しました。この瓦と同じ文様のものはこれまでも台渡里廃寺跡（長者山地区）から出土してはいましたが、文様の全容がわかる状態の良い資料はなく、大変貴重な資料です。

備前町に位置する釜神町遺跡では、幕末に倍楽園下で生産されていた七面焼とともに、市内では初の発見例となる江戸時代の黒地蒔絵箱物が出土しました。備前町一帯は水戸藩の武家屋敷が存在した地域で、武家の調度品と考えられる資料です。本資料についてはその重要性を鑑み、表面にみられる鮮やかな蒔絵を恒久的に保存し、市民の皆様へ展示・公開できるよう保存強化処理を施しました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねることにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、郷土の歴史的資源を生かした風格のあるまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさついたします。

平成23年3月

水戸市教育委員会
教育長 鯨岡 武

例 言

1. 本書は平成20年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査対象となった周知の遺跡は、下記のとおりである。
赤塚遺跡・疔遺跡・合ノ田遺跡・池上遺跡・一戦塚遺跡・稲荷塚古墳群・茨城高等学校遺跡・上野遺跡・江川館跡・榎甚遺跡・大串遺跡・大城遺跡・大塚新地遺跡・大鋸町遺跡・加倉井原遺跡・釜神町遺跡・釜久保遺跡・神生館跡・雁沢遺跡・河和田城跡・崩れ橋遺跡・軍民坂遺跡・小仲根遺跡・山王遺跡・下荒句遺跡・下荒句古墳群・下本郷遺跡・新田遺跡・スワ遺跡・仙光内遺跡・台渡里遺跡・台渡里庵寺跡・高原遺跡・長者山遺跡・寺内遺跡・寺山遺跡・塔ノ上遺跡・東原原遺跡・中大野遺跡・中河内遺跡・中台遺跡・成沢大塚遺跡・東大野遺跡・福沢古墳群・藤田東湖生涯の地・舞台遺跡・堀遺跡・見川城跡・水戸城跡・向原遺跡・向山遺跡・葉王院東遺跡・谷田古墳群・吉田古墳群・米沢町遺跡・渡里町遺跡
3. 上記の遺跡のほかに、国指定史跡「吉田古墳」、茨城県指定史跡「台渡里庵寺跡（長者山地区）」および日新塾跡において、史跡整備に係る確認調査を行ったが、吉田古墳については、『吉田古墳Ⅲ 一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書』に調査成果を掲載している。また、台渡里庵寺跡（長者山地区）についても、『台渡里3—平成19～21年度長者山地区範囲確認調査概報』に調査成果を掲載している。
日新塾跡については、平成21年度以降も継続して確認調査を行うため、これらの調査成果については、平成21年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。
4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

(平成20年度)

	鮎岡 武	水戸市教育委員会教育長
事 務 局	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
	仲田 立	水戸市教育委員会事務局文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会事務局文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係長
	萩谷慎一	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係主査
	緑川義規	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係主事
	関口慶久	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係文化財主事
	渥美賢吾	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係文化財主事
	金子千秋	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係埋蔵文化財嘱託員
	五上義隆	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長
	飛田邦夫	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	山戸祐子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	大津郁子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員
現場担当者	川口武彦	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員

(平成21年度)

	鮎岡 武	水戸市教育委員会事務局教育長
事 務 局	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会事務局文化課長
	五上義隆	水戸市教育委員会事務局文化課長補佐
	萩谷慎一	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係長
	緑川義規	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係主事
	関口慶久	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事
	渥美賢吾	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事
	米川暢敬	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事
	金子千秋	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係埋蔵文化財嘱託員
	宮崎賢司	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園所長

	山戸祐子	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	大津郁子	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員
	荒蒔周平	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員
整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員

(平成 22 年度)

事務局	館岡 武	水戸市教育委員会事務局教育長
	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会事務局文化課長
	五上義隆	水戸市教育委員会事務局文化課長補佐兼芸術文化係長
	萩谷慎一	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係長
	渥美賢吾	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事
	海老澤里枝	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係主事
	宮崎賢司	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター所長
	米川暢敬	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター文化財主事
	山戸祐子	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター嘱託員
	大津郁子	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員 (平成 22 年 9 月 30 日まで)
	金子千秋	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員
	田中恭子	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員
	三浦健太	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員 (平成 22 年 10 月 1 日から)
整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター主幹
	色川順子	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

5. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

岡見知紀(東京学芸大学大学院生)、佐藤佑香(茨城大学大学院生)、石川侑子、岡 沙織、樋口 碧(以上、茨城大学学部生)、石川 勉、石崎寿子、石崎洋子、榎澤由紀江、海老原四郎、岡野政雄、小山司農夫、片西登美江、加藤利男、川又恵美子、河原井俊吉郎、久保木きよ子、久保田馨、栗原芳子、黒須秀昭、鈴木潤一、高柳悦子、高安幸且、飛田とし子、富田 仁、中山忠雄、廣水一真、福原雅美、三浦健太、皆川明子、皆川幸子、村上巧兒、山崎武司、渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子、飯田貴代子、小澤弥代、柏千枝子、齊藤千左乃、杉崎明美、鈴木加代子、須藤裕美、田上雪枝、橋本祥子、人見よね子、平根真由美、広瀬文子、深澤貞子、三浦悦子

6. 本書の執筆は各現場の担当者が分担して行い、全体の編集には川口・色川・田中・三浦があたった。遺構図のデジタルトレースおよび地図作成は、川口・渥美・三浦が分担して行った。出土遺物については図化および観察表作成、解説文執筆は色川・川口が分担し、古墳～平安時代の遺物解説文執筆については渥美の、中・近世の遺物解説文執筆については関口(教育委員会事務局文化課世界遺産推進室係長)の助言を得た。

7. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。

8. 遺構の写真撮影は現場担当者が行い、遺物の写真撮影は川口が行った。

9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です(五十音順・敬称略)。

【個人】

青山俊明、荒井秀規、石川 功、稲田健一、今尾文昭、大塚初重、大橋泰夫、大森隆志、岡本東三、川崎純徳、川尻秋生、瓦吹 堅、黒澤彰哉、越川欣和、小杉山大輔、後藤一成、後藤孝行、後藤道雄、斎藤弘道、佐々木義則、曾根俊雄、高島英之、田所清孝、田中 裕、谷口陽子、長谷川 聡、畑野経夫、日高 慎、吹野富美夫、松本太郎、三井 猛、宮内良隆、山路直充、山中敏史、横倉要次、吉村武彦

【機関】

文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸八幡宮

凡 例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
2. 遺跡の位置図のうち、第1図は川口が『茨城県遺跡地図』（茨城県教育委員会編 2001）をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし、1:60,000の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は、三浦が水戸市都市計画図1:20,000白図（TIFF形式）を部分的に切りとったものに遺跡の範囲や調査地点を加筆した。
3. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
4. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2000年版）に従った。
5. 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
6. 表紙に使用した遺物の実測図は、軍民坂遺跡（第4地点）出土の縄文土器である。実測及び浄書は色川が行った。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成20年度の発掘調査と概要	1
--------------------	---

第2章 開発に伴う試掘調査

2-1 坏遺跡（第8地点）	9
2-2 坏遺跡（第9地点）	10
2-3 合ノ田遺跡（第1地点）	11
2-4 一戦塚遺跡（第1地点）	12
2-5 稲荷塚古墳群（第1地点）	14
2-6 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）	15
2-7 上野遺跡（第1地点）	16
2-8 江川館跡（第3地点）	17
2-9 大串遺跡（第9地点）	18
2-10 大城遺跡（第1地点）	19
2-11 大塚新地遺跡（第6地点）	19
2-12 大塚新地遺跡（第7地点）	20
2-13 大塚新地遺跡（第8地点）	21
2-14 大鋸町遺跡（第9地点）	21
2-15 大鋸町遺跡（第10地点）	23
2-16 釜神町遺跡（第4地点）	23
2-17 雁沢遺跡（第1地点）	26
2-18 河和田城跡（第6地点）	28
2-19 崩れ橋遺跡（第1地点）	28
2-20 軍民坂遺跡（第4地点）	30
2-21 小仲間遺跡（第2地点）	31
2-22 山王遺跡（第1地点）	32
2-23 下荒匂遺跡（第4地点-2次）	33
2-24 周知外（安楽寺遺跡近接）	34
2-25 新田遺跡（第1地点-2次）	35
2-26 仙光内遺跡（第2地点）	37
2-27 台渡里遺跡（第43次）	38
2-28 台渡里遺跡（第47次）	42
2-29 台渡里遺跡（第50次）	44

2-30	台渡里廃寺跡 (第 49 次)	45
2-31	長者山遺跡 (第 3 地点)	46
2-32	寺内遺跡 (第 2 地点)	48
2-33	東前原遺跡 (第 1 地点)	50
2-34	塔ノ上遺跡 (第 2 地点)	51
2-35	中河内遺跡 (第 3 地点)	52
2-36	東大野遺跡 (第 1 地点)	53
2-37	舞台遺跡 (第 5 地点)	54
2-38	堀遺跡 (第 8 地点)	55
2-39	堀遺跡 (第 13 地点)	57
2-40	堀遺跡 (第 15 地点)	57
2-41	水戸城跡 (第 16 次)	58
2-42	向原遺跡 (第 6 地点)	59
2-43	向山遺跡 (第 2 地点)	60
2-44	薬王院東遺跡 (第 2 地点)	61
2-45	谷田古墳群 (第 9 地点)	62
2-46	米沢町遺跡 (第 11 地点)	63
2-47	渡里町遺跡 (第 9 地点)	64
第 3 章 個人住宅建築に伴う本発掘調査		
3-1	大串遺跡 (第 9 地点)	66
3-2	大鋸町遺跡 (第 10 地点)	70
3-3	軍民坂遺跡 (第 3 地点)	74
3-4	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	76
3-5	東大野遺跡 (第 1 地点)	80
第 4 章 開発に伴う工事立会調査		
4-1	水戸城跡 (第 20 次)	82
第 5 章 開発に伴う踏査と採集遺物		
5-1	周知外 (河和田町 636 番地)	84
5-2	駒形端古墳群	85
第 6 章 釜神町遺跡 (第 4 地点) 出土黒地時絵箱物の保存処理と分析		
6-1	保存処理の方法と経過	93
6-2	塗膜分析	94
引用・参考文献 97		

図版目次

第 1 図	調査対象となった遺跡の位置	5
第 2 図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (1)	6
第 3 図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (2)	7
第 4 図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (3)	8
第 5 図	坏遺跡 (第 8・9 地点) の位置	9
第 6 図	坏遺跡 (第 8 地点) のトレンチ配置	9
第 7 図	坏遺跡 (第 8・9 地点) 出土遺物	10
第 8 図	坏遺跡 (第 9 地点) のトレンチ配置	10
第 9 図	合ノ田遺跡 (第 1 地点) の位置	11
第 10 図	合ノ田遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	11
第 11 図	合ノ田遺跡 (第 1 地点) 出土遺物	11
第 12 図	一戦塚遺跡 (第 1 地点) の位置	12

第13図	一戦塚遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・13	第60図	周知外(安楽寺遺跡近接)のトレンチ配置・・・34
第14図	稲荷塚古墳群(第1地点)の位置・・・14	第61図	新田遺跡(第1地点・2次)の位置・・・35
第15図	稲荷塚古墳群(第1地点)のトレンチ配置・・・14	第62図	新田遺跡(第1地点・2次)のトレンチ配置・・・35
第16図	茨城高等学校遺跡(第1地点・2次)の位置・・・15	第63図	仙光内遺跡(第2地点)の位置・・・37
第17図	茨城高等学校遺跡(第1地点・2次)のトレンチ配置・・・15	第64図	仙光内遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・37
第18図	茨城高等学校遺跡(第1地点・2次)出土遺物・・・16	第65図	台渡里遺跡(第43・47・50次)の位置・・・38
第19図	上野遺跡(第1地点)の位置・・・16	第66図	台渡里遺跡(第43次)のトレンチ配置・・・38
第20図	上野遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・16	第67図	台渡里遺跡(第43次)の調査位置と周辺 の調査成果・・・39
第21図	江川館跡(第3地点)の位置・・・17	第68図	台渡里遺跡(第43次)出土遺物(1)・・・40
第22図	江川館跡(第3地点)のトレンチ配置・・・17	第69図	台渡里遺跡(第43次)出土遺物(2)・・・41
第23図	大串遺跡(第9地点)の位置・・・18	第70図	台渡里遺跡(第47次)のトレンチ配置・・・43
第24図	大串遺跡(第9地点)のトレンチ配置・・・18	第71図	台渡里遺跡(第50次)のトレンチ配置・・・44
第25図	大城遺跡(第1地点)出土遺物・・・18	第72図	台渡里廃寺跡(第49次)の位置・・・45
第26図	大城遺跡(第1地点)の位置・・・19	第73図	台渡里廃寺跡(第49次)のトレンチ配置・・・45
第27図	大城遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・19	第74図	長者山遺跡(第3地点)の位置・・・46
第28図	大塚新地遺跡(第6～8地点)の位置・・・19	第75図	長者山遺跡(第3地点)のトレンチ配置・・・46
第29図	大塚新地遺跡(第6地点)のトレンチ配置・・・20	第76図	長者山遺跡(第3地点)出土遺物・・・47
第30図	大塚新地遺跡(第6地点)出土遺物・・・20	第77図	寺内遺跡(第2地点)の位置・・・48
第31図	大塚新地遺跡(第7地点)のトレンチ配置・・・20	第78図	寺内遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・49
第32図	大塚新地遺跡(第8地点)のトレンチ配置・・・21	第79図	寺内遺跡(第2地点)出土遺物・・・50
第33図	大鋸町遺跡(第9・10地点)の位置・・・21	第80図	東前原遺跡(第1地点)の位置・・・50
第34図	大鋸町遺跡(第9地点)のトレンチ配置・・・22	第81図	東前原遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・51
第35図	大鋸町遺跡(第9地点)出土遺物・・・22	第82図	塔ノ上遺跡(第2地点)の位置・・・51
第36図	大鋸町遺跡(第10地点)のトレンチ配置・・・23	第83図	塔ノ上遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・52
第37図	釜神町遺跡(第4地点)の位置・・・23	第84図	中河内遺跡(第3地点)の位置・・・52
第38図	釜神町遺跡(第4地点)のトレンチ配置と トレンチ1の土層断面・・・24	第85図	中河内遺跡(第3地点)のトレンチ配置・・・53
第39図	釜神町遺跡(第4地点)出土遺物(1)・・・24	第86図	東大野遺跡(第1地点)の位置・・・53
第40図	釜神町遺跡(第4地点)出土遺物(2)・・・25	第87図	東大野遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・54
第41図	雁沢遺跡(第1地点)の位置・・・26	第88図	舞台遺跡(第5地点)の位置・・・54
第42図	雁沢遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・26	第89図	舞台遺跡(第5地点)のトレンチ配置・・・55
第43図	雁沢遺跡(第1地点)出土遺物・・・27	第90図	舞台遺跡(第5地点)出土遺物・・・55
第44図	河和田城跡(第6地点)の位置・・・28	第91図	堀遺跡(第8・3・15地点)の位置・・・55
第45図	河和田城跡(第6地点)のトレンチ配置・・・28	第92図	堀遺跡(第8地点)のトレンチ配置・・・56
第46図	崩れ橋遺跡(第1地点)の位置・・・28	第93図	堀遺跡(第13地点)のトレンチ配置・・・56
第47図	崩れ橋遺跡(第1地点)の測量図とトレンチ配置・・・29	第94図	堀遺跡(第15地点)のトレンチ配置・・・56
第48図	崩れ橋遺跡(第1地点)のトレンチ西壁土層断面・・・29	第95図	堀遺跡(第15地点)出土遺物・・・56
第49図	崩れ橋遺跡(第1地点)出土遺物・・・30	第96図	水戸城跡(第16次)の位置・・・58
第50図	軍民坂遺跡(第4地点)の位置・・・30	第97図	水戸城跡(第16次)のトレンチ配置・・・58
第51図	軍民坂遺跡(第4地点)のトレンチ配置・・・31	第98図	向原遺跡(第6地点)の位置・・・59
第52図	小中根遺跡(第2地点)の位置・・・31	第99図	向原遺跡(第6地点)のトレンチ配置・・・59
第53図	小中根遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・32	第100図	向山遺跡(第2地点)の位置・・・60
第54図	山王遺跡(第1地点)の位置・・・32	第101図	向山遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・60
第55図	山王遺跡(第1地点)のトレンチ配置・・・32	第102図	向山遺跡(第2地点)出土遺物・・・60
第56図	下荒句遺跡(第4地点・2次)の位置・・・33	第103図	薬王院東遺跡(第2地点)の位置・・・61
第57図	下荒句遺跡(第4地点・2次)のトレンチ配置・・・33	第104図	薬王院東遺跡(第2地点)のトレンチ配置・・・61
第58図	下荒句遺跡(第4地点・2次)トレンチ土層断面・・・33	第105図	谷田古墳群(第9地点)の位置・・・62
第59図	周知外(安楽寺遺跡近接)の位置・・・34	第106図	谷田古墳群(第9地点)のトレンチ配置・・・62

第 107 図	米沢町遺跡 (第 11 地点) の位置・・・63	第 125 図	軍民坂遺跡 (第 3 地点) の本調査遺構配置・・・75
第 108 図	米沢町遺跡 (第 11 地点) のトレンチ配置・・・63	第 126 図	軍民坂遺跡 (第 3 地点) 土坑土層断面・・・75
第 109 図	渡里町遺跡 (第 9 地点) の位置・・・64	第 127 図	軍民坂遺跡 (第 3 地点) 出土遺物・・・76
第 110 図	渡里町遺跡 (第 9 地点) のトレンチ配置・・・64	第 128 図	軍民坂遺跡 (第 4 地点) の位置・・・76
第 111 図	渡里町遺跡 (第 9 地点) 出土遺物・・・65	第 129 図	軍民坂遺跡 (第 4 地点) の本調査範囲・・・77
第 112 図	大串遺跡 (第 9 地点) の位置・・・66	第 130 図	軍民坂遺跡 (第 4 地点) の本調査区遺構配置・・・78
第 113 図	大串遺跡 (第 9 地点) の本調査範囲・・・66	第 131 図	東大野遺跡 (第 1 地点) の位置・・・80
第 114 図	大串遺跡 (第 9 地点) の本調査区遺構配置・・・67	第 132 図	東大野遺跡 (第 1 地点) の本調査区遺構配置・・・80
第 115 図	大串遺跡 (第 9 地点) SI01 土層断面・・・67	第 133 図	東大野遺跡 (第 1 地点) 出土遺物・・・81
第 116 図	大串遺跡 (第 9 地点) 土坑土層断面・・・68	第 134 図	水戸城跡 (第 20 次) の位置・・・82
第 117 図	大串遺跡 (第 9 地点) 本調査出土遺物・・・69	第 135 図	水戸城跡 (第 20 次) 出土遺物・・・83
第 118 図	大鋸町遺跡 (第 10 地点) の位置・・・70	第 136 図	周知外 (河和田町 636 番地) の位置・・・84
第 119 図	大鋸町遺跡 (第 10 地点) の本調査範囲・・・70	第 137 図	周知外 (河和田町 636 番地) 採集遺物・・・84
第 120 図	大鋸町遺跡 (第 10 地点) の本調査区遺構配置・・・71	第 138 図	駒形端古墳群の位置・・・85
第 121 図	大鋸町遺跡 (第 10 地点) 遺構土層断面・・・72	第 139 図	駒形端古墳群踏査採集遺物・・・85
第 122 図	大鋸町遺跡 (第 10 地点) 出土遺物・・・73	第 140 図	黒地時絵箱物塗膜の赤外線分光分析と X線分析結果・・・96
第 123 図	軍民坂遺跡 (第 3 地点) の位置・・・74		
第 124 図	軍民坂遺跡 (第 3 地点) の本調査範囲・・・74		

写真目次

写真 1	SD02 出土 3121 型式軒丸瓦当面・・・42	写真 16	SI001 調査状況 (北東から)・・・78
写真 2	SI01 調査状況 (北から)・・・69	写真 17	SK007 土層断面 (南から)・・・78
写真 3	SK01 土層断面 (南から)・・・69	写真 18	SK007 覆土遺物出土状況 (南西から)・・・79
写真 4	SK02 土層断面 (南東から)・・・69	写真 19	SK007 底面遺物出土状況 (南から)・・・79
写真 5	完掘状況 (南東から)・・・69	写真 20	SK012 遺物出土状況 (東から)・・・79
写真 6	SI01 土層断面 (南東から)・・・72	写真 21	SK011 遺物出土状況 (南から)・・・79
写真 7	SI03・SD01 遺物検出状況 (西から)・・・72	写真 22	SK011 完掘状況 (南東から)・・・79
写真 8	SI02 土層断面 (北西から)・・・72	写真 23	調査風景 (南西から)・・・79
写真 9	完掘状況 (南東から)・・・72	写真 24	調査区完掘状況 (西から)・・・79
写真 10	SK01 土層断面 (北西から)・・・75	写真 25	調査区完掘状況 (南から)・・・79
写真 11	SK01 完掘状況 (北西から)・・・75	写真 26	SD01・SK01 検出状況 (南西から)・・・81
写真 12	完掘状況 (南東から)・・・75	写真 27	SD01・SK01 土層断面 (南西から)・・・81
写真 13	完掘状況 (東から)・・・75	写真 28	完掘状況 (南西から)・・・81
写真 14	SB001-P2 遺物出土状況 (南から)・・・78	写真 29	完掘状況 (西から)・・・81
写真 15	SB001-P4 完掘状況 (南から)・・・78		

表目次

第 1 表	開発に伴う試掘・確認調査一覧・・・1/3	第 7 表	銭貨観察表・・・92
第 2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧・・・4	第 8 表	漆器内面付着黒色物と塗膜分析結果・・・94
第 3 表	開発に伴う工事立会調査一覧・・・4	第 9 表	塗膜の各層のエネルギー分散型 X 線 分析結果・・・95
第 4 表	土器・瓦・陶磁器観察表・・・86/91	第 10 表	生漆の赤外吸収位置とその強度・・・95
第 5 表	石器観察表・・・92		
第 6 表	金属器観察表・・・92		

第1章 平成20年度の発掘調査と概要

平成20年度の水戸市内遺跡発掘調査は、57遺跡86地点(周知外3地点含む)がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査87件であった。

開発に係わる試掘調査では、27遺跡37地点で遺構が検出され、37遺跡52地点(周知外1地点含む)で遺物が出土した(第1表)。事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、大半は工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは慎重工事の扱いとなり、本調査の実施が必要であると判断されたものは9件であった(第2表)。

本調査の対象となった9件のうち、軍民坂遺跡(第3地点)は平成19年度の後半に試掘・確認調査を行い、平成20年度に記録保存を目的とした本調査を実施することとなったものである。台渡里遺跡(第41次)および山王遺跡(第1地点)については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、本書の紙幅を大幅に超えることから、本書では第2表に調査の概要のみを記し、次年度以降に刊行を予定している報告書にその成果を収録する。堀遺跡(第9地点)についても、区画毎に報告すると、全体像が不鮮明になるため、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行を予定している報告書に収録する。

大車遺跡(第9地点)、大舘町遺跡(第10地点)、軍民坂遺跡(第3・4地点)、東大野遺跡(第1地点)の調査成果については本書に収録した。また、工事立会の扱いとなり、立会調査の際に遺物が出土した地点が3箇所ある(第3表)。遺構・遺物が検出されなかった遺跡(地点)の詳細な位置は第2～4図のとおりである。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	赤塚遺跡 (第5地点・1次)	河和町3丁目2536 (市営河和町住宅40～49号棟)	1月28日	市営住宅建替	—	館口慶久	○	—
2	坪遺跡 (第8地点)	河和町3丁目2370-1	4月21日	共同住宅建築	36.6	麗美賢吾	○	○
3	坪遺跡 (第9地点)	河和町1丁目1615-1	7月9日	個人住宅建築	6.15	館口慶久	—	△
4	坪遺跡 (第10地点)	河和町1丁目1707-16	10月1日	個人住宅建築	13.6	麗美賢吾	—	—
5	合ノ田遺跡 (第1地点)	大舘町字合ノ田709	11月6日	個人住宅建築	17.51	館口慶久	○	○
6	池上遺跡 (第2地点)	大塚町1959-3	4月21日	個人住宅建築	12	麗美賢吾	—	—
7	一軒塚遺跡 (第1地点)	牛伏町181-1外	6月2日～5日	墓地造成工事	124	麗美賢吾	○	○
8	稲荷塚古墳跡 (第1地点)	大塚町1757	3月23日	宅地造成工事	342	館口慶久	○	○
9	茨城高等学校校跡 (第1地点)	八幡町8-54 (水戸八幡宮)	3月16日	仮洋館設置	10	館口慶久	—	△
10	上野遺跡 (第1地点)	築崎町地内 (常盤8-1067号棟)	10月28日	側溝新設工事	3.04	麗美賢吾	—	△
11	江川副跡 (第3地点)	内藤町639-1	3月23日	個人住宅建築	15	館口慶久	○	—
12	根巻遺跡 (第2地点)	田島町橋巻211-1	10月21日	個人住宅建築	12.5	麗美賢吾	—	—
13	大車遺跡 (第9地点)	大車町字原野598-2	5月12日	個人住宅建築	45.9	麗美賢吾	○	○
14	大塚遺跡 (第1地点)	大舘町舟塚1277-1	6月5日	個人住宅建築	23	麗美賢吾	—	○
14	大塚新地遺跡 (第6地点)	大塚町字表467	5月30日	個人住宅建築	10	麗美賢吾	○	○
15	大塚新地遺跡 (第7地点)	大塚町544-10	6月23日	個人住宅建築	13.8	麗美賢吾	—	△
16	大塚新地遺跡 (第8地点)	大塚町字表484	12月11日	個人住宅建築	10.5	麗美賢吾	○	—
17	大塚新地遺跡 (第9地点)	大塚町544-9	3月17日	個人住宅建築	2	館口慶久	—	—
18	大舘町遺跡 (第9地点)	元吉田町2339-4	12月11日	店舗建設	26	麗美賢吾	○	○
19	大舘町遺跡 (第10地点)	元吉田町2280-9、2280-10	8月6日	個人住宅建築	10	麗美賢吾	○	○

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
20	加倉井原遺跡 (第5地点)	加倉井町字草 1347-1	10月1日	携帯電話通信基地 局建設	12	菅美賢吾	—	—
21	釜神町遺跡 (第4地点)	鎌前町 754-4・11・12	3月13日	個人住宅建築	15	関口慶久	○	○
22	釜久保遺跡 (第4地点)	大塚町字釜久保 1595-10	4月22日	個人住宅建築	24.25	関口慶久	—	—
23	神生遺跡 (第1地点)	飯富町 4633-1	8月6日	個人住宅建築	28.3	関口慶久	—	—
24	藤沢遺跡 (第1地点)	元石川町字藤沢 909-1・4・6・8・ 12、910-1	6月9日～13日	伐後工事	475	菅美賢吾	○	○
25	河和田城跡 (第6地点)	河和田町 552	5月7日	個人住宅建築	12.2	関口慶久	—	△
26	河和田城跡 (第7地点)	河和田町 1102	7月9日	携帯電話通信基地 局建設	15	関口慶久	—	—
27	河和田城跡 (第8地点)	河和田町 468-1	9月11日	個人住宅建築	8	菅美賢吾	—	—
28	河和田城跡 (第9地点)	河和田町 1172-1 地先～911 地先 (認定外遺跡)	12月8日	道路舗装工事	—	関口慶久	—	—
29	河和田城跡 (第10地点)	河和田町字中城 895-4	2月3日	個人住宅建築	14	関口慶久	—	—
30	掛白麻遺跡 (第1地点)	内原町 4304-33 (主要地方道石岡常北線)	9月16日～25日	旧道拡幅工事	12.04	関口慶久、菅美賢吾、金 子千秋	○	○
31	華民坂遺跡 (第4地点)	土岡井町 3585-1	11月20日	個人住宅建築	10	菅美賢吾	○	○
32	小舟遺跡 (第2地点)	元石川町字尻屋 1892-1	4月16日	個人住宅建築	16	関口慶久	—	△
33	山王遺跡 (第1地点)	赤尾町町字山王 582-1	11月26日	個人住宅建築	7.5	菅美賢吾	○	○
34	下荒勾遺跡 (第4地点・2次)	双葉台 4丁目 238	6月10日	個人住宅建築	76.1	関口慶久	○	△
35	下荒勾古墳跡 (第1地点)	関江町字向井原 116-4の一部	6月10日	渠築建設	8	関口慶久	—	—
36	下本郷遺跡 (第3地点)	千波町 47-2	6月2日	個人住宅建築	6	関口慶久	—	—
37	関知外 (安楽寺遺跡近傍)	元吉田町 2506	2月2日	個人住宅建築	12	関口慶久	—	△
38	関知外 (西門町地内)	酒門町 535-3	6月12日	個人住宅建築	2	関口慶久	—	—
39	関知外 (伝吉沢両端跡)	元吉田町字一里塚東 1816-2	9月9日	宅地造成工事	89.4	関口慶久、金子千秋	—	—
40	新田遺跡 (第1地点・2次)	今隈町 1366-1	7月28日～8月1日	水槽建設	219.4	菅美賢吾	○	○
41	久夕遺跡 (第1地点)	内原町 1463-66	5月9日	個人住宅建築	6	関口慶久、金子千秋	—	—
42	仙光内遺跡 (第2地点)	飯島町字畑場 527-4	9月12日	個人住宅建築	9	菅美賢吾	○	○
43	台渡里遺跡 (第43次)	渡里町 3009-1	7月10日	個人住宅建築	49.68	菅美賢吾	○	○
44	台渡里遺跡 (第47次)	渡里町字館屋敷 2987-4、-14	10月9日	共同住宅建築	24	菅美賢吾	○	○
45	台渡里遺跡 (第50次)	渡里町 3001-3	12月3日	範囲確認	15.4	川口武彦	—	○
46	台渡里麻寺跡 (第49次)	渡里町 3058-3	10月31日	個人住宅建築	8.24	菅美賢吾	—	○
47	高原遺跡 (第2地点)	大塚町字沢田 1002-1	5月12日	個人住宅建築	13.2	菅美賢吾	—	—
48	長沼山遺跡 (第3地点)	渡里町 3151-4、3151-6	8月21日～26日	範囲確認	89.75	川口武彦	○	○
49	寺内遺跡 (第2地点)	大塚町字寺前 1189-3・4・5、1190-1・2	1次 10月29日～30日 2次 1月13日～14日	墓地造成	185.95	関口慶久	○	○
50	寺山遺跡 (第1地点)	関江町 334-4、325-3、334-3	1月29日	宅地造成工事	18	関口慶久	—	—
51	塔ノ上遺跡 (第2地点)	小林町字小林 1200-1	1月29日	個人住宅建築	16.5	関口慶久、金子千秋	—	△
52	東前原遺跡 (第1地点)	鎌前町 2-57・60	11月11日	個人住宅建築	71.5	関口慶久	—	△
53	中大野遺跡 (第1地点)	中大野 691 地先～660-2 地先 (認定外遺跡)	12月19日	道路舗装工事	—	関口慶久	—	—

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
54	中河内遺跡 (第3地点)	中河内町 194-1・3～6	11月6日	個人住宅建築	7.5	裾美賢吾	—	○
55	中台遺跡 (第1地点)	熊岡町字四ノ割 2458-8	2月10日	個人住宅建築	21	関口慶久	—	—
56	成沢大塚遺跡 (第1地点)	成沢町字大塚 411-2・5、412-1・2・3	2月10日	個人住宅建築	10.5	裾美賢吾	—	—
57	東大野遺跡 (第1地点)	東大野 137-2	8月30日	個人住宅建築	37.5	川口武彦	○	○
58	福沢古墳群 (第1地点)	米沢町字上組 415-1、415-7	3月13日	個人住宅建築	9	関口慶久	—	—
59	福沢古墳群 (第2地点)	米沢町字上組 415-12、417-11	3月13日	個人住宅建築	9	関口慶久	—	—
60	藤田東湖生誕の地	梅香 1-2-20 (好文カレッジ跡地)	12月24日	建物解体工事	28	関口慶久	—	—
61	舞台遺跡 (第5地点)	三瀬町字舞台 466	9月24日	個人住宅建築	9	裾美賢吾	—	○
62	舞台遺跡 (第6地点)	三瀬町字行人山 587-3	11月26日	個人住宅建築	9	裾美賢吾	—	—
63	飯道跡 (第8地点)	畑町字馬場東 295	3月23日	個人住宅建築	24.9	裾美賢吾	○	△
64	飯道跡 (第9地点区画No.1)	渡里町字高野台 3309-9	7月17日	個人住宅建築	18	裾美賢吾、川口武彦	○	○
65	飯道跡 (第9地点区画No.2)	渡里町字高野台 3309-10	2月24日	個人住宅建築	16	裾美賢吾	○	○
66	飯道跡 (第9地点区画No.4)	渡里町字高野台 3309-3	12月22日	個人住宅建築	17.5	裾美賢吾	—	○
67	飯道跡 (第9地点区画No.5)	渡里町字高野台 3309-8	10月21日	個人住宅建築	16.3	裾美賢吾	○	○
68	飯道跡 (第9地点区画No.6)	渡里町字高野台 3309-4	9月12日	個人住宅建築	8	裾美賢吾	○	○
69	飯道跡 (第9地点区画No.12)	渡里町字高野台 3314-2	12月22日	個人住宅建築	10.5	裾美賢吾	—	○
70	飯道跡 (第9地点区画No.7)	渡里町字高野台 3309-7	4月14日	個人住宅建築	25	裾美賢吾、川口武彦	○	○
71	飯道跡 (第13地点)	渡里町字野木 3224-1の一部	4月9日	個人住宅建築	29.25	裾美賢吾	○	○
72	飯道跡 (第15地点)	畑町 327-1	7月11日	個人住宅建築	21	裾美賢吾	○	○
73	見川城跡 (第9地点)	見川3丁目 998-2地先～1007-1地先 (認定外遺跡)	12月8日	道路舗装工事	—	関口慶久	—	—
74	水戸城跡 (第16次)	三の丸1丁目6 (三の丸小学校)	4月4日	学校校舎改築	24	関口慶久	—	△
75	向原遺跡 (第6地点)	有賀町字於中原 483-2、5	1次 8月26日 2次 10月31日	個人住宅建築	6.87 7.5	裾美賢吾	○	○
76	向山遺跡 (第2地点)	大車町字塚 121-7	8月20日	個人住宅建築	14	裾美賢吾	○	○
77	桑王坂東遺跡 (第2地点)	元吉田町字桑組 573-2・10・11・12	1月28日	宅地造成工事	82.5	関口慶久・金子千秋	○	○
78	谷田古墳群 (第9地点)	谷田町 805-10、805-3	7月3日	個人住宅建築	16.4	裾美賢吾	○	○
79	吉田古墳群 (第4地点)	元吉田町字西組 207-15	10月9日	個人住宅建築	4	関口慶久	—	—
80	吉田古墳群 (第5地点)	元吉田町字西組 120-1	10月22日	銀行店舗建設	63	関口慶久	—	—
81	吉田古墳群	元吉田町地内 (飯南 207 号線)	12月12日	舞臺新設および道路舗装工事	—	裾美賢吾	—	—
82	米沢町遺跡 (第10地点)	元吉田町字一本松 226-1	9月8日	宅地造成工事	115	関口慶久	—	—
83	米沢町遺跡 (第11地点)	千波町字中道南 1502-14	9月9日	個人住宅建築	15.4	関口慶久、金子千秋	—	○
84	米沢町遺跡 (第12地点)	元吉田町 200-1	10月9日	集合住宅建築	12	関口慶久	—	—
85	渡里町遺跡 (第4地点)	渡里町 2373-3	4月1日	個人住宅建築	2	川口武彦	—	—
86	渡里町遺跡 (第9地点)	渡里町 2568-1	1月15日	共同住宅建築	76.3	裾美賢吾	○	○

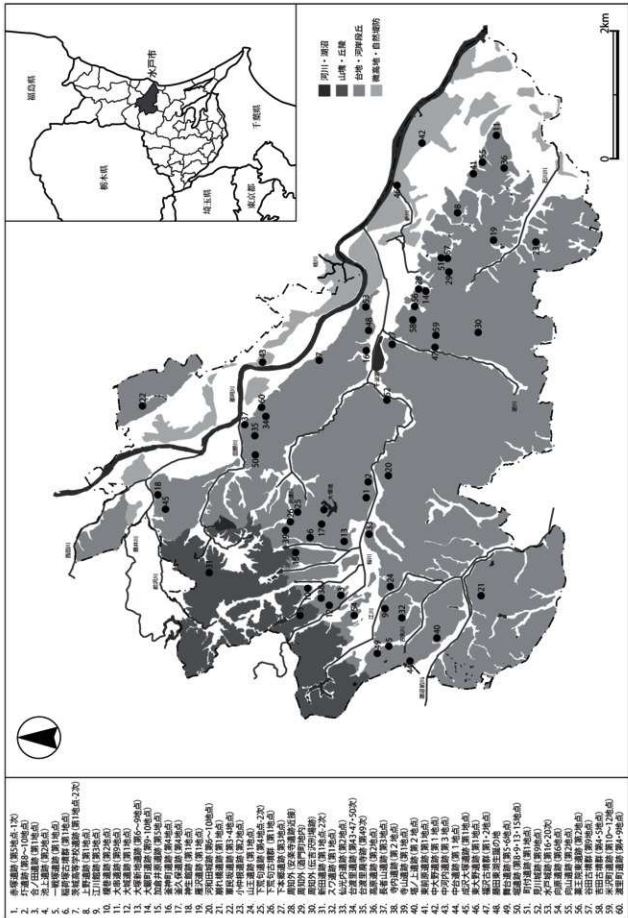
※遺物欄の○は遺構確認および遺構複土中からの出土遺物、△は表土・覆層中からの出土遺物を示す。

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	大串遺跡 (第9地点)	大串町字原野 598-2	7月31日～ 8月12日	103.34	川口武彦		
2	大淵町遺跡 (第10地点)	元吉田町 2280-10	11月4日～ 11月19日	135.37	堀美賢吾		
3	軍民坂遺跡 (第3地点)	上岡井町 3667-1・5	6月25日～ 7月3日	57.04	川口武彦		
4	軍民坂遺跡 (第4地点)	上岡井町 3585-1	1月22日～ 3月19日	66	堀美賢吾、色川順子		
5	山王遺跡 (第1地点)	赤尾間町字山王 582-1	2月9日～ 3月11日	66	関口慶久、金子千秋		
6	台渡里遺跡 (第41次)	渡里町字野久保 2771-12	4月30日～ 6月4日	90.22	川口武彦、色川順子		
7	東大野遺跡 (第1地点)	東大野 137-2	9月4日～ 9月8日	45.6	川口武彦		
8	坂遺跡 (第9地点区画 No.3)	渡里町 3316-6、3317-1	4月9日～ 5月2日	80.7	川口武彦、色川順子		
9	坂遺跡 (第9地点区画 No.7)	渡里町高野台 3309-7	1月31日～ 2月22日	96.21	川口武彦		

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

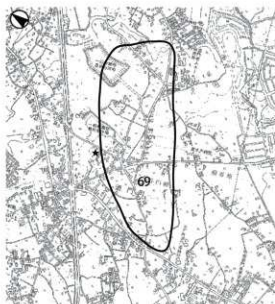
No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺物
1	大塚新地遺跡 (第6地点)	大塚町字表 467	8月22日	個人住宅合併浄 化槽埋設工事	4.5	堀美賢吾	
2	町付遺跡 (第1地点)	酒門町 638-1	6月18日	個人住宅	—	堀美賢吾	土師器
3	水戸堀跡 (第20次)	三の丸1-6-29(弘道館)	12月8日	丹戸屋形修築	—	堀美賢吾	



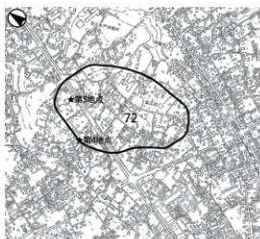
第1図 調査対象となった遺跡の位置



中台遺跡(第1地点)



周知外(酒門町地内)



吉田古墳群(第4・5地点)



中大野遺跡(第1地点)



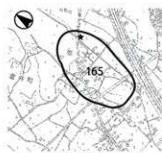
成沢大塚遺跡(第1地点)



寺山遺跡(第1地点)



疋遺跡(第10地点)



加倉井原遺跡(第5地点)



見川城跡(第9地点)



神生館跡(第1地点)



周知外(伝吉沢刑場跡)

第2図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(1)



高原遺跡(第2地点)



福沢古墳群(第1・2地点)



下荒匂古墳群(第1地点)



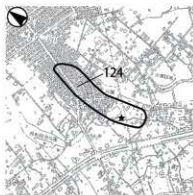
藤田東湖生誕の地



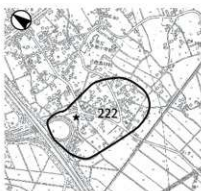
下本郷遺跡(第3地点)



池上遺跡(第2地点)



釜久保遺跡(第4地点)



大塚新地遺跡(第9地点)



スワ遺跡(第1地点)



渡里町遺跡(第4地点)

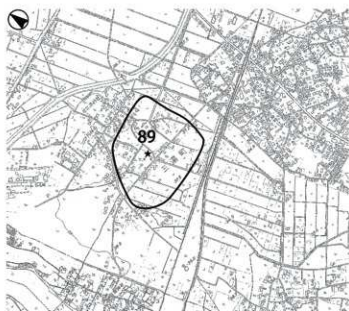


河和田城跡(第7～第10地点)



榎巻遺跡(第2地点)

第3図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(2)



舞台遺跡(第6地点)



米沢町遺跡(第10-12地点)

第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(3)

第2章 開発に伴う試掘調査

試掘調査は、周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は、開発予定地内に数㎡の大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）および人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構が否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

2-1 坏遺跡（第8地点）

所在地 水戸市河和田3丁目2370-1

開発面積 645.73㎡

調査期間 平成20年4月21日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第6図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 9.5m × 2m。地表下150cmで湧水が認められ、調査の続行が困難となった。部分的に黄褐色土の存在は確認出来たが、遺構の存在は希薄であると判断した。遺物は縄文土器片が少量出土した。

トレンチ2 4.4m × 4m。当該トレンチは塩ビ管やコンクリート片等が混じる現代の攪乱が及んでいたが、南壁に沿って、遺構とみられるプランSX01を確認した。プラン上面から縄文土器片が少量出土していることから、縄文時代中期の遺構もしくは遺物包含層である可能性が高い。（渥美）

(2) 出土遺物

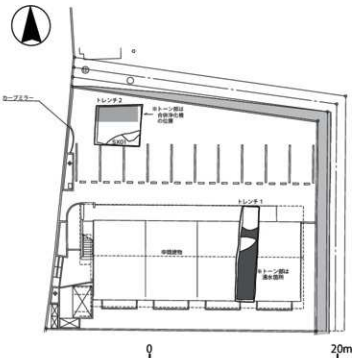
第7図-1～7は縄文土器である。1は隆帯に沿って1列の角押文が施文されている。3は隆起線文、4～6は沈線文、7は条線文が施されている。1は中期前半「阿玉台1b式」、2は中期後半「加曾利E1～2式」、3・4は「加曾利E2式」、5・6は「加曾利E3～4式」に位置付けられる。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

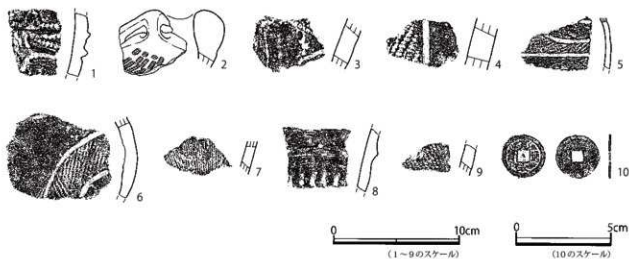
トレンチ2で遺構は確認されたものの、遺構SX01については保護できるとの観点から埋蔵文化財専門職員による工事立会が相当であるとした。（渥美）



第5図 坏遺跡（第8・9地点）の位置



第6図 坏遺跡（第8地点）のトレンチ配置



第7図 環遺跡（第8・9地点）出土遺物（1～7:第8地点,8～10:第9地点）

2-2 環遺跡（第9地点）

所在地 水戸市河和田1丁目1615-1

開発面積 302㎡

調査期間 平成20年7月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分及び浄化槽埋設予定部分に2本のトレンチを設定し、重機により関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第8図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 6.5m×0.6m。地表下85cmの深さで関東ローム層上面が確認された。遺物は表土層から縄文土器片が少量出土した。

トレンチ2 1.5m×1.5m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認された。遺物は表土層から縄文土器片と寛永通宝1枚（第7図-10）が出土した。

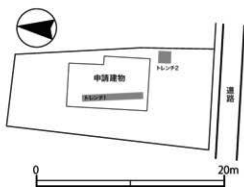
（2）出土遺物

第7図-8・9は縄文土器である。8は中期中葉「阿玉台I b式」、9は中期の土器である。10は寛永通宝（新寛永）である。

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構は確認されず、基礎の掘削も関東ローム層上面まで及ばないことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第8図 環遺跡（第9地点）のトレンチ配置

2-3 合ノ田遺跡（第1地点）

所在地 水戸市大足町字合ノ田709番地

開発面積 314㎡

調査期間 平成20年11月6日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第10図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 6.5m×1.5m。地表下30cmの深さで竪穴建物跡1棟が確認された(SI01)。SI01の広がり把握するため、3.2m×1.8mの範囲を拡張した。調査の結果、最初に確認された竪穴建物跡と切り合う、主軸の異なる竪穴建物跡1棟(SI02)、円形のピット1基、楕円形プランの土坑1基(SK01)が確認された。遺物はSI01の覆土上層より奈良・平安時代の土師器・須恵器が多数出土した。

トレンチ2 2m×1m。地表下50cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

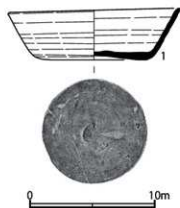
（関口）

（2）出土遺物

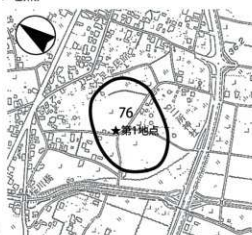
第11図-1はSI01の覆土上層より出土した須恵器無台杯である。胎土の特徴から木葉下窯跡群の製品とみられ、技術的・形態的特徴から8世紀後葉頃の製品とみられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

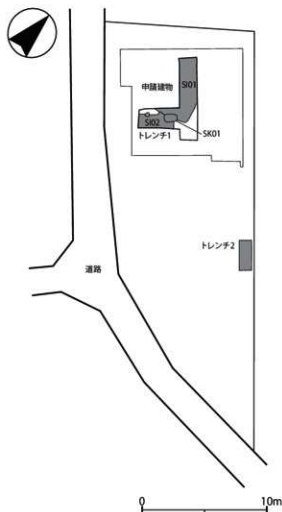
トレンチ1において竪穴建物跡や土坑とみられる遺構が確認されたが、設計変更により、現況地盤に30cmの盛土を行い、保護層を確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第11図 合ノ田遺跡（第1地点）出土遺物



第9図 合ノ田遺跡（第1地点）の位置



第10図 合ノ田遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-4 一戦塚遺跡（第1地点）

所在地 水戸市牛伏町 181-1, 182, 185, 186の一部

開発面積 2,982.3㎡

調査期間 平成20年6月2日～6月5日

調査原因 墓地造成工事

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを5箇所設定し（第13図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 10m×3m。地表下20cmの深さで竪穴建物跡が2棟確認された（S101・S102）。確認面から土師器・須恵器が出土していることから、奈良・平安時代の遺構とみられる。遺物の出土量は多い。

トレンチ2 4m×2m。地表下20cmで竪穴建物跡が1棟確認された。位置関係からトレンチ1で確認されたS101の延長部分とみられる。遺物の出土量は多い。

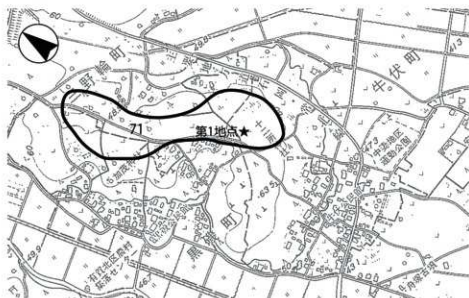
トレンチ3 13m×3m。地表下20cmで竪穴建物跡が1棟確認された（S103）。トレンチ1で確認されたS102と主軸が一致することから、奈良・平安時代の遺構とみられる。遺物の出土量は多い。

トレンチ4 7m×3m。地表下70～80cmで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物の出土量はトレンチ1～3に比べて少ない。

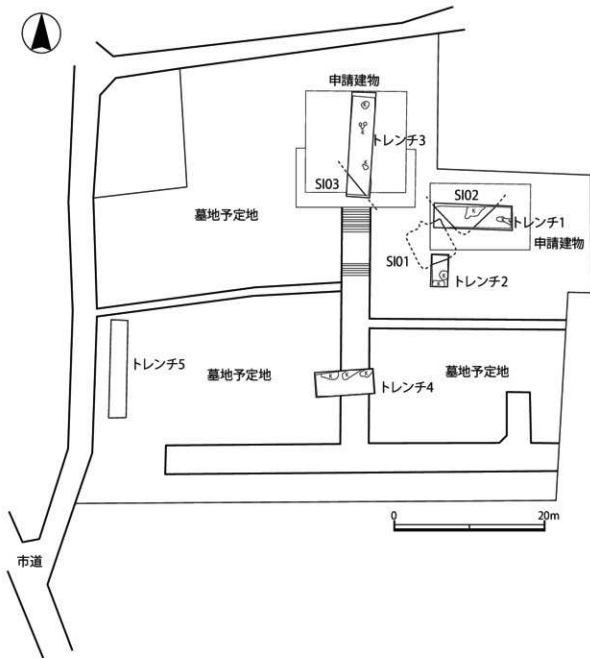
トレンチ5 13m×2m。地表下70～80cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物の出土量は少ない。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

トレンチ1～3において竪穴建物跡が確認され、30cm以上の保護層を確保することが困難であることから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（渥美）



第12図 一戦塚遺跡（第1地点）の位置



第13図 一戦塚遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-5 稲荷塚古墳群（第1地点）

所在地 水戸市大塚町 1757
 開発面積 5,563 m²
 調査期間 平成 21 年 3 月 23 日
 調査原因 宅地造成工事
 調査担当 関口慶久
 調査概要 開発対象地内にトレンチを 4 箇所を設定し、関東ロー

ム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 15 図）。また、3 基の古墳の規模・位置とトレンチの位置関係を把握する必要があったことから、南から 1 号墳・2 号墳・3 号墳と命名し、墳裾の範囲を測量した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 82m × 1.5m。地表下 45 ～ 65cm で関東ローム層上面が確認され、擾乱が著しかったものの、東端で第 1 号墳の周溝が、西端で時期・性格不明の溝跡が 1 条検出された。遺物は土師器の細片が若干出土している。

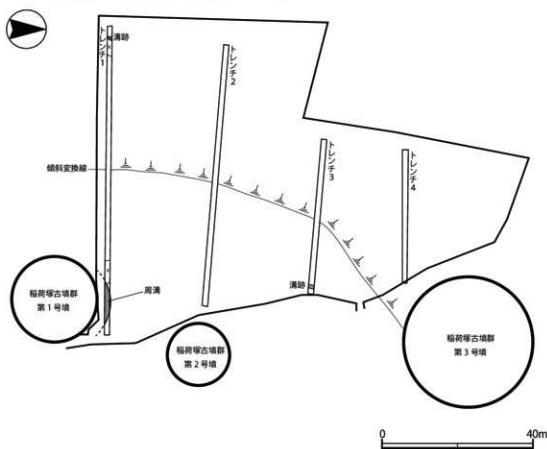
トレンチ 2 70m × 1.5m。地表下 30 ～ 85cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構は検出されなかった。遺物は土師器の細片が若干出土している。

トレンチ 3 41m × 1.5m。地表下 20 ～ 35cm で関東ローム層上面が確認されるとともに、東端で時期・性格不明の溝跡が 1 条検出された。遺物は土師器の細片が若干出土している。

トレンチ 4 35m × 1.5m。地表下 100 ～ 110cm で関東ローム層上面が確認されたが、擾乱が著しく、遺構は検出されなかった。遺物は土師器の細片が若干出土している。



第 14 図 稲荷塚古墳群（第 1 地点）の位置



第 15 図 稲荷塚古墳群（第 1 地点）のトレンチ配置

(2) 古墳の規模

墳塚の測量調査の結果、第1号墳が直径23m、第2号墳が直径17m、第3号墳が直径34mを測ることが判明した。第1号墳については、トレンチ1において周溝が確認されており、周溝の外径は推定28mに及ぶことが明らかとなった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

トレンチ1において第1号墳の周溝が、トレンチ1と3において溝跡が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、埋蔵文化財専門職員による工事立会が相当であるとした。(関口)

2-6 茨城高等学校遺跡(第1地点-2次)

所在地 水戸市八幡町8-54

開発面積 126㎡

調査期間 平成21年3月16日

調査原因 仮拝殿設置

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第17図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 3m×1m。地表下35cmで灰褐色の硬化面が、地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。硬化面および関東ローム層上面から遺構・遺物は検出されなかった。表土層からは奈良・平安時代の土師器片および近世～近代にかかる陶磁器・土器が出土した。

トレンチ2 7m×1m。地表下35cmで灰褐色の硬化面が、地表下40cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。(関口)

(2) 出土遺物

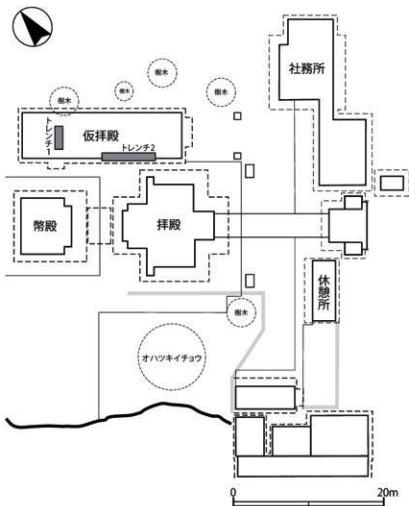
第18図-1～4は近世～近代にかかる時期の陶磁器類である。1は在地産の磁器端反碗、2は瀬戸・美濃産の碗で国民食器、3は肥前産の仏飯具、4は瀬戸・美濃産の陶器白泥梅文碗である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

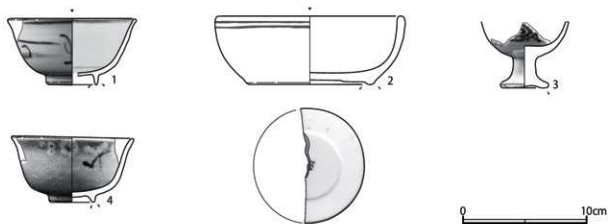
近世に遡る遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。(関口)



第16図 茨城高等学校遺跡(第1地点-2次)の位置



第17図 茨城高等学校遺跡(第1地点-2次)のトレンチ配置



第18図 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）出土遺物

2-7 上野遺跡（第1地点）

所在地 水戸市栗崎町地内（市道常澄8-1067号線）

開発面積 1,346.42㎡

調査期間 平成20年10月28日

調査原因 側溝新設工事

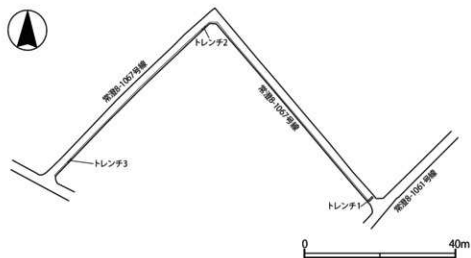
調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し（第20図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5m × 0.65m。地表下30～40cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 1.5m × 0.6m。地表下45cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。トレンチの南壁沿いにイモ穴とみられる攪乱があり、底部に糸切り痕を残すロクロ成形カワラケ片が出土した。



第20図 上野遺跡（第1地点）のトレンチ配置

トレンチ3 1.8m × 0.65m。地表下46cmで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-8 江川館跡 (第3地点)

所在地 水戸市内原町 639-1

開発面積 715.4 m²

調査期間 平成21年3月23日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し(第22図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

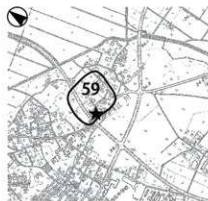
(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m × 3m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認され、円形のプランが検出された。井戸跡とみられる。覆土の様相や掘方の形状から近代以降の所産と考えられる。

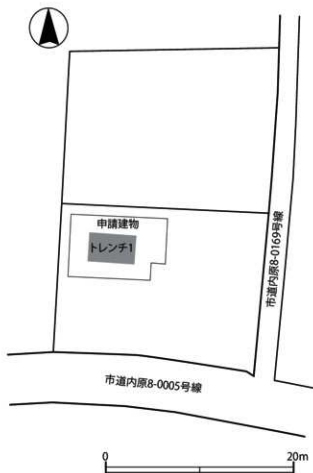
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

近世以前の遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(関口)



第21図 江川館跡(第3地点)の位置



第22図 江川館跡(第3地点)のトレンチ配置

2-9 大串遺跡（第9地点）

所在地 水戸市大串町字原坪 598-2

開発面積 165.06 m²

調査期間 平成20年5月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第24図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 14.3m × 3m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が確認され、竪穴建物跡1棟（S101）と土坑1基（SK01）が検出された。遺物は表土から陶器片1点が出土した。

トレンチ2 2m × 1.5m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が確認され、土坑1基（SK02）が検出された。



第23図 大串遺跡（第9地点）の位置

（渥美）

（2）出土遺物

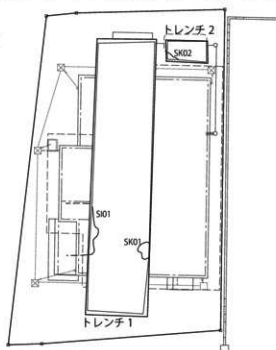
第25図-1は近世の陶器である。底面に糸切痕を残す。

（色川）

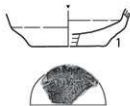
（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物は確認され、30cm以上の保護層を確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本調査の成果については本書「3-1 大串遺跡（第9地点）」を参照願いたい。

（渥美）



市道 常澄 8-1504号線



0 10cm

第25図 大串遺跡（第9地点）出土遺物



第24図 大串遺跡（第9地点）のトレンチ配置

2-10 大城遺跡 (第1地点)

所在地 水戸市大足町字舟塚 1277-1

開発面積 474 m²

調査期間 平成20年6月5日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第27図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

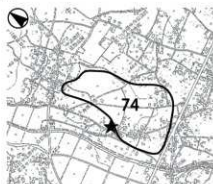
(1) トレンチの概要

トレンチ1 6m×3m。地表下50cmで湧水がみられ、調査の続行は不可能であった。遺構・遺物は確認されなかった。

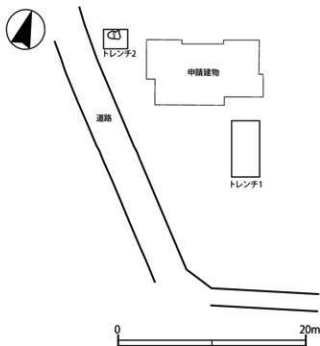
トレンチ2 2m×2.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が確認され、黒い落ち込みが1基が検出された。性格を把握するため、サブトレンチを設定し、一部掘削したところ、10cmもせず到底面が確認され、明確なプランを持たないことから、遺構とは認定できなかった。遺物は土師器片が少量出土したが、これらは流れ込みと判断した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相応であるとした。(渥美)



第26図 大城遺跡(第1地点)の位置



第27図 大城遺跡(第1地点)のトレンチ配置

2-11 大塚新地遺跡 (第6地点)

所在地 水戸市大塚町字表 467

開発面積 226.81 m²

調査期間 平成20年5月30日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し(第29図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m×2m。地表下60～70cmで竪穴建物跡1棟(S101)が検出された。その推定規模は一边5m程度と中型のもので、白色粘土と焼土粒子がトレン



第28図 大塚新地遺跡(第6～8地点)の位置

子の北壁沿いに飛散していることから、本遺構に伴う竈がトレンチ北のブロック崩直下へ潜り込んでいる可能性がある。遺物は土師器が多く出土しており、その技術的・形態的特徴から7世紀末～8世紀前葉の年代が与えられる。

(渥美)

(2) 出土遺物

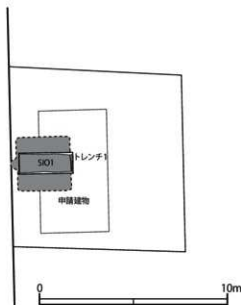
第30図-1は弥生土器である。RをS巻きした原体(軸不明)による縄文が施されている。2～4はSI01に伴う遺物で、すべて土師器である。2は坏、3・4は甕である。時期は8世紀前葉に位置付けられる。

(色川)

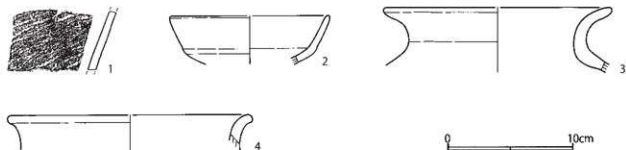
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)



第29図 大塚新地遺跡(第6地点)のトレンチ配置



第30図 大塚新地遺跡(第6地点)出土遺物

2-12 大塚新地遺跡(第7地点)

所在地 水戸市大塚町 544-10

開発面積 252 m²

調査期間 平成20年6月23日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第31図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 4.4m×2m。地表下150cmで関東ローム層上面が検出されたが、トレンチャーによる攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 2.5m×2m。当該トレンチの周辺は関東ロームの第一黒色帯付近まで攪乱が及んでいる状況が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。



第31図 大塚新地遺跡(第7地点)のトレンチ配置

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-13 大塚新地遺跡 (第8地点)

所在地 水戸市大塚町字表 484

開発面積 1,316.17 m²

調査期間 平成 20 年 12 月 11 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し (第 32 図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 4m × 1.5m。地表下 60cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

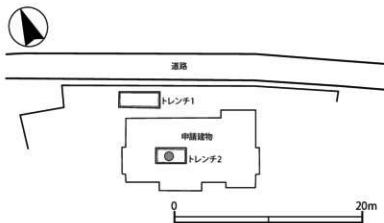
トレンチ 2 3m × 1.5m。地表下 60cm で関東ローム層上面が検出される

とともに、中央部において焼土粒子が飛散する範囲があり、土師器・須恵器等の遺物が出土した。遺構は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)



第 32 図 大塚新地遺跡 (第 8 地点) のトレンチ配置

2-14 大鋸町遺跡 (第9地点)

所在地 水戸市元吉田町 2339-4

開発面積 408 m²

調査期間 平成 20 年 12 月 11 日

調査原因 店舗建設

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 3 箇所設定し (第 34 図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

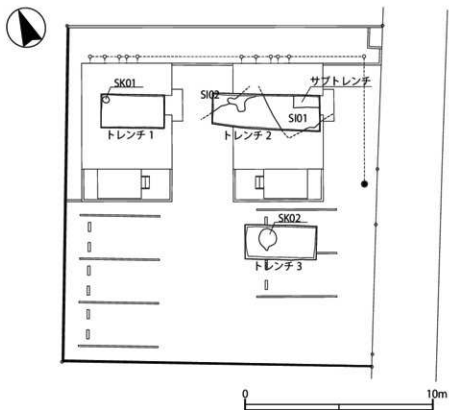
トレンチ 1 3.4m × 2m。地表下 30cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、北西隅において土坑が確認された (SK01)。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ 2 5.8m × 2m。地表下 10 ~ 20cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡 2 棟が確認された (S101・S102)。これらのうち、南東にある S101 にはサブトレンチを掘削して床面 (硬化面) を確認した。S102 の一部には現代の攪乱が及んでいる。出土した須恵器の技術的・形態的特徴から、S101 の帰属時期は 8 世紀前葉と考えられる。また、位置関係から考えて、S102 は S101 と切り合い関係を持つ可能性が高いが、遺構の主軸方向がほぼ同一と考えられることから 8 世紀後半 ~ 9 世紀前半のうちのいずれかにおさまるものと判断される。

トレンチ 3 3.8m × 2m。地表下 30 ~ 40cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、北東隅において土坑が確認された (SK02)。その確認プランの形状から、掘立柱建物跡を構成する柱穴とみられる。従って、当該トレ



第 33 図 大鋸町遺跡 (第 9・10 地点) の位置



第 34 図 大鋸町遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置



第 35 図 大鋸町遺跡（第 9 地点）出土遺物

ンチの外に遺構が広がっているものとみられる。

（渥美）

(2) 出土遺物

第 35 図 -1 は弥生土器である。付加条第 2 種 R×R による縄文が施されている。時期は後期後半「十王台式」に位置付けられる。

（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されたが、30cm 以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。

（渥美）

2-15 大鋸町遺跡 (第10地点)

所在地 水戸市元吉田町 2280-9, 2280-10
 開発面積 559.37㎡
 調査期間 平成20年8月6日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 渥美賢吾
 調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し

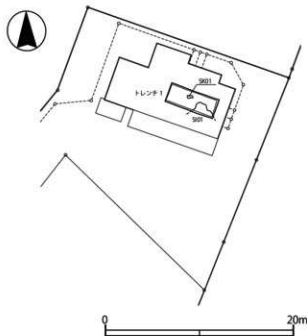
(第36図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m×2m。地表下40～80cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡1棟(SI01)と土坑1基(SK01)が確認された。遺物は土師器片や弥生土器片が少量出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認され、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本調査の成果については本書「3-2 大鋸町遺跡 (第10地点)」を参照願いたい。(渥美)



第36図 大鋸町遺跡 (第10地点) のトレンチ配置

2-16 釜神町遺跡 (第4地点)

所在地 水戸市備前町 754-4, 754-11, 754-12
 開発面積 366.5㎡
 調査期間 平成21年3月13日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 関口慶久
 調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し (第38図)、

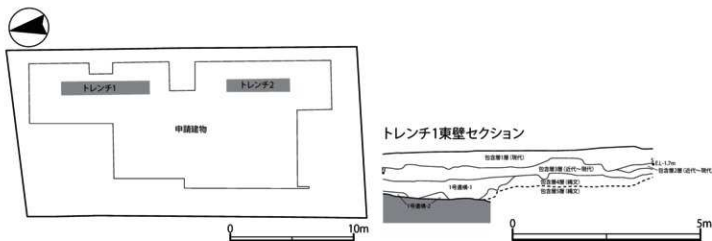
関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

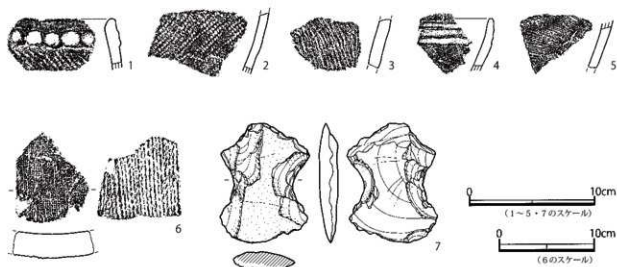
トレンチ1 7m×1m。遺物包含層が4層確認されている (第38図)。包含層1層～3層 (層厚58cm) は近代以降の所産である。第37図 釜神町遺跡 (第4地点) の位置
 包含層4層は縄文時代の遺物包含層であるが、4層上面は硬化しており、本層から第1号遺構 (18世紀後半～19世紀前半) が検出されたことから、この硬化面が近世の確認面と判断される。なお、硬化面以下の包含層4層からは縄文土器しか検出されていない。トレンチ1の北側約2.6mまでは関東ローム層上面が確認できたが、それより南側では急速に落ち込んでいる。上市台地の縁辺部がかつてはこの地点まで及んでいたことが窺われる。トレンチ1で検出された遺構は第1号遺構である。本遺構からは18世紀後半～19世紀前半の近世陶磁器・金属器・木製品が多量に出土した。掘方が不整形であり、また土質の状況から近世の一括廃棄土坑 (ごみ穴) であることは間違いない。出土遺物は瀬戸・美濃産の磁器を中心に七面焼も一定量出土している。本遺跡が立地する備前町じゃ江戸期の地割りがほぼそのまま残っており、古地図との照合が可能な地域である。本地点は武家屋敷跡であり、鳥居氏・萩昇氏の屋敷地に比定される。これらの遺物は武家地における遺物組成を窺ううえでの好資料となる。また、遺構底面からは金箔を貼った漆塗りの木片が検出された (原色図版2～4)。黒地時絵箱物 (武家の調度品) の断片と思われる。詳細については第6章を参照願いたい。

トレンチ2 5m×1m。地表下200cmで縄文時代の遺物包含層 (トレンチ1で確認された包含層4層・5層) が確





第38図 釜神町遺跡(第4地点)のトレンチ配置とトレンチ1の土層断面



第39図 釜神町遺跡(第4地点)出土遺物(1)

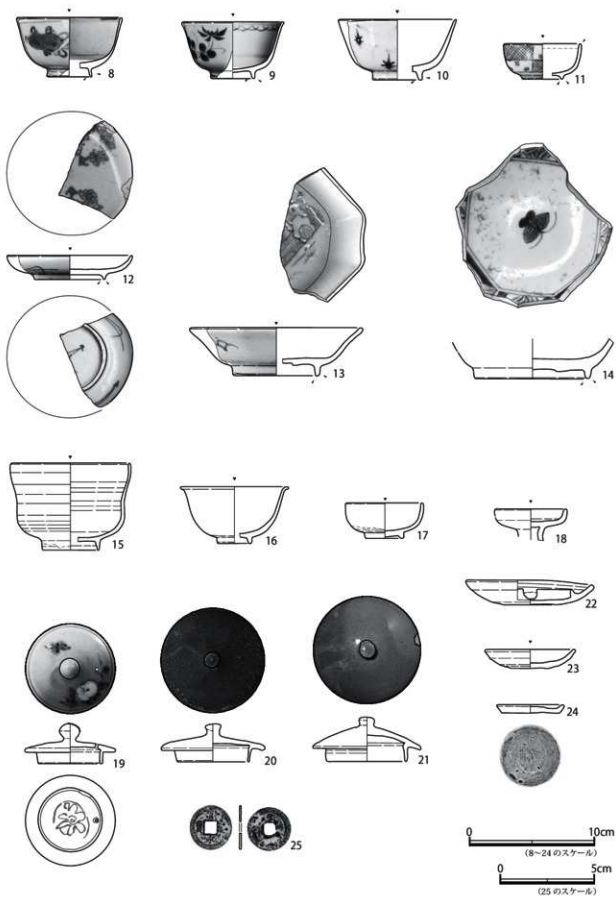
認められた。それより上層は全て近代以降の盛土層である。遺構は認められなかったが、縄文土器片が相当量出土している。その出土量から勘案すれば、本地点付近に縄文時代の集落が広がっている可能性が高い。(関口)

(2) 出土遺物

第39図1～5は縄文土器である。1・2は後期中葉「加曾利B式」、4・5は晩期に位置付けられる。6は奈良時代の平瓦である。凹面に布目圧痕、凸面に長縄叩きの痕跡がみられる。側面の角度から桶巻き作りによるものと考えられる。7は分銅形打製石斧で、石材はホルンフェルスである。第40図・8～14は磁器、15～19・22は焼締陶器、20・21・23は陶器である。15～23は笹楽園下に営まれた七面製陶所産の製品であり、1838年以降の年代が与えられるものである。中でも19は内面に花卉文の墨書がみられる興味深い資料である。24はかわらけ、25は寛永通宝(新寛永)である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できることから、慎重工事が相当であるとした。(関口)



第40図 釜神町遺跡（第4地点）出土遺物（2）

2-17 雁沢遺跡（第1地点）

所在地 水戸市元石川町字雁沢 909-1, -4, -6, -8, -12,
910-1

開発面積 2,899.77 m²

調査期間 平成20年6月9日～6月13日

調査原因 伐抜工事

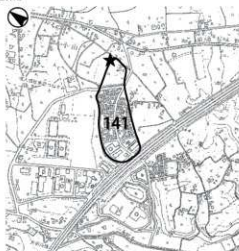
調査担当 深美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを7箇所設定し（第42図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

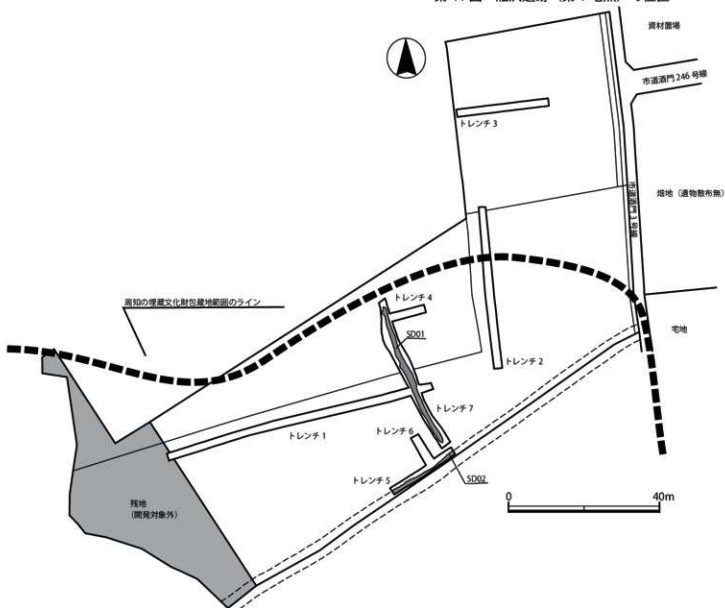
（1）トレンチの概要

トレンチ1 72m × 2m、地表下30～40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西端から62mの地点で溝跡が確認された（SD01）。SD01の上面からは縄文土器が出土した。

トレンチ2 43m × 2m、地表下40～50cmで関東ローム層上面



第41図 雁沢遺跡（第1地点）の位置



第42図 雁沢遺跡（第1地点）のトレンチ配置

が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 25m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西端で幅50cm程の細い溝状のプランが確認された。その性格や構造を把握するため、サブトレンチを設けて掘削したところ、遺物の出土もみられず30cmで底面に至った。断面形状からも近現代に何らかの管を埋設したような痕跡と判断されたことから、埋蔵文化財とは認定しなかった。

トレンチ4 8m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 19m×2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ南半から溝跡が確認された(SD02)。SD02は隣地境界線の直下を中心に幅4m前後で東北東から西南西に向かって走っていると推定される。当該境界線は水戸市市制施工前から酒門町(石川村)と常澄村(大場村)との境であったとの聞き取り結果があること、現在の公団にある地割りどおりに溝が検出されたことから、近世村落の境溝(区画溝)である可能性が高い。

トレンチ6 6m×2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ7 43m×3m。SD01の全容を把握するため、設定した。地表下30～40cmでSD01が検出された。SD01は幅1.3m、長さ39mにわたるものであることが判明した。断面構造や深さを把握するため、サブトレンチを設定し、掘削したところ深さ70cm程度とやや浅く、覆土からは遺物は殆ど出土しないが、逆台形の掘方を持つ細い溝であることが明らかとなった。

(渥美)

(2) 出土遺物

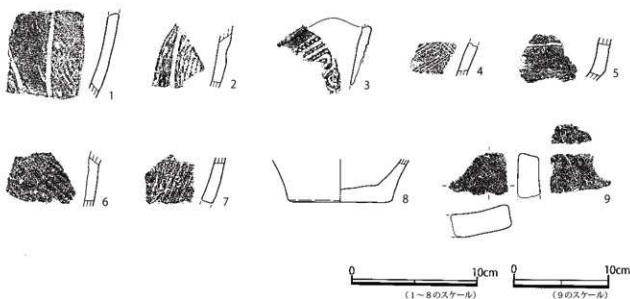
第43図-1～8は縄文土器である。時期は後期前半「堀之内式」に位置付けられる。9は平瓦である。凹面に布目圧痕、凸面にヘラ削りの痕跡がみられる。側面の角度から桶巻き作りによるものと考えられる。

(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認され、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。なお、本発掘調査は平成20年10月29日～11月21日の期間に毛野考古学研究所が実施し、記録保存を終えている(宮田・渥美 2009)。

(渥美)



第43図 雁沢遺跡(第1地点)出土遺物

2-18 河和田城跡 (第6地点)

所在地 水戸市河和田町 552

開発面積 435.01 m²

調査期間 平成20年5月7日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第45図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

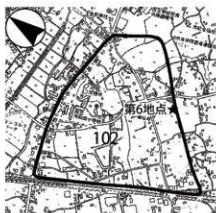
トレンチ1 10m×1m。地表下85cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 2m×1m。地表下85cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土から印判手の磁器片が1点出土した。

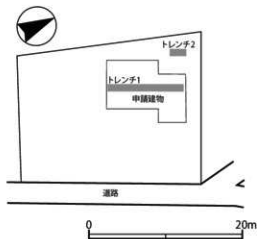
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(関口)



第44図 河和田城跡(第6地点)の位置



第45図 河和田城跡(第6地点)のトレンチ配置

2-19 崩れ橋遺跡 (第1地点)

所在地 水戸市内原町 4304-33 (主要地方道石岡常北線)

開発面積 64 m²

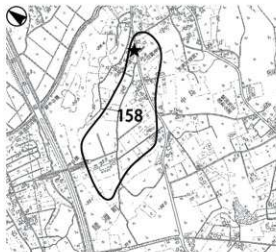
調査期間 平成20年8月11日・9月17・24・25日

調査原因 県道拡幅工事

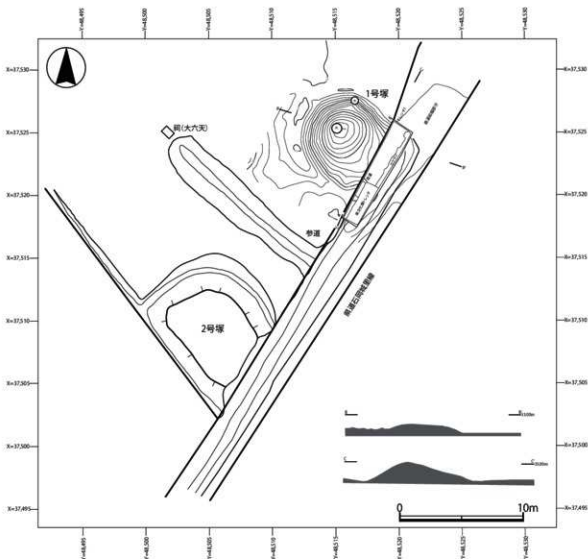
調査担当 関口慶久、後藤一成・山口憲一(県教育庁文化課)

調査概要 今般の道路改良工事に伴う塚(近世)への影響は狭い範囲に限られることから、通常の発掘調査での対応は困難であると判断された。市教育委員会は水戸土木事務所と調整・協議を重ね、次の3点について合意した。

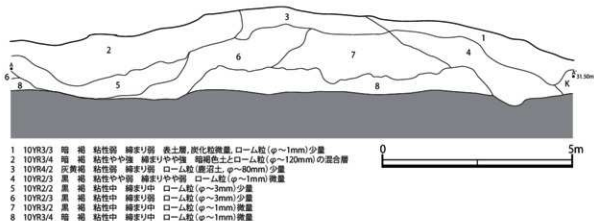
- ① 開発工事前に今般の土木工事により影響を受ける1号塚の詳細な地形測量を水戸土木事務所の委託業務として実施する(2号塚については影響を受けないため略測に留める)。
- ② 工事によって影響が及ぶ盛土状の高まりが、古墳あるいは塚なのか明確でないことから、遺跡の有無および取扱



第46図 崩れ橋遺跡(第1地点)の位置



第47図 崩れ橋遺跡（第1地点）の測量図とトレンチ配置



第48図 崩れ橋遺跡（第1地点）のトレンチ西壁土層断面

いの可否を判断するために、工事着手前に確認調査を市教育委員会の協力を得て実施する。

- ③開発範囲内において、特殊な構造および遺物がみられないこと、開発範囲外が狭小であることなどから、通常の発掘作業は困難であるが、確認調査および現況の測量調査によって、開発に伴い削平される範囲の記録を残すことができる。

以上のことから、平成20年8月11日に水戸土木事務所から委託された茨城県建設技術公社によって、現況の地形測量が実施され（第47図）、県教育庁文化課および市教育委員会が確認のために立会い、同年9月17・24・25日に工事によって影響を受ける範囲の確認調査を実施した。開発対象地内にトレンチを1箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第47図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 8.6m × 1.4m。土層断面（第48図）の観察から、人為的な堆積状況が確認され、盛土状の高まりは塚であることが判明した。塚の周囲には周溝状の窪みが認められることから、塚としての形状を維持するために、これまで長い期間にわたって塚周囲の土を掘り溜めて塚へ持ってきたことが考えられる。

(2) 出土遺物

第49図-1・2は磁器の碗である。3は寛永通宝（新寛永）である。

（色川）



第49図 崩れ橋遺跡（第1地点）出土遺物

2-20 軍民坂遺跡（第4地点）

所在地 水戸市上国井町 3585-1

開発面積 668 m²

調査期間 平成20年11月20日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第51図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

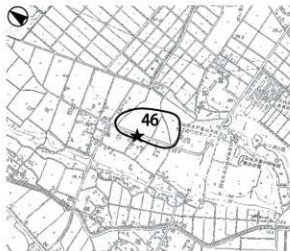
(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m × 2m。地表下85～95cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、縄文時代中期の竪穴状遺構2基と土坑3基が確認された。なお、南側の竪穴状遺構内には、被熱した粘土貼りのピット状遺構が確認された。跡あるいは竈である可能性が高い。遺物は縄文土器を中心に多量に出土している。

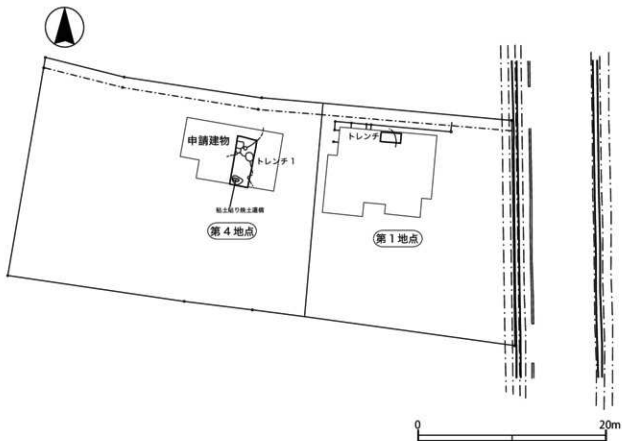
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本調査の概要については本書「3-4 軍民坂遺跡（第4地点）」を参照願いたい。

（渥美）



第50図 軍民坂遺跡（第4地点）の位置



第51図 軍民坂遺跡（第4地点）のトレンチ配置

2-21 小仲根遺跡（第2地点）

所在地 水戸市元石川町 1892-1

開発面積 454㎡

調査期間 平成20年4月16日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第53図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

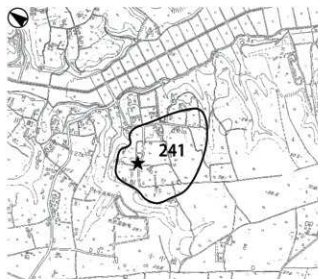
（1）トレンチの概要

トレンチ1 7m×2m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が数点出土した。

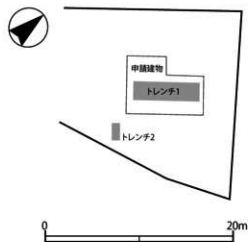
トレンチ2 2m×1m。地表下15cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第52図 小仲根遺跡（第2地点）の位置



第53図 小仲根遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-22 山王遺跡（第1地点）

所在地 水戸市赤尾岡町山王 582-1

開発面積 191.15㎡

調査期間 平成20年11月26日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

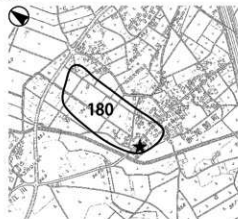
調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第55図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

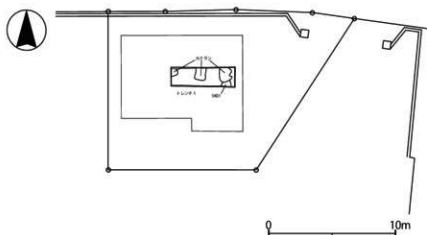
トレンチ1 5m × 1.5m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ南壁東側に沿って、円形の土坑プランが確認された。遺物は古墳時代前期の土師器等が少量出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（渥美）



第54図 山王遺跡（第1地点）の位置



第55図 山王遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-23 下荒勾遺跡（第4地点-2次）

所在地 水戸市双葉台 4-238

開発面積 238.69 m²

調査期間 平成20年6月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し（第57図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



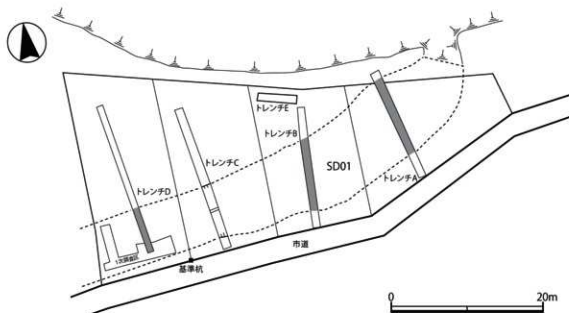
第56図 下荒勾遺跡（第4地点-2次）の位置

(1) トレンチの概要

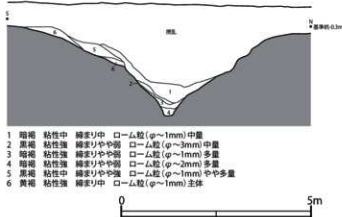
トレンチ A 15m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、遺物は確認されなかった。

トレンチ B 16m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、遺物は縄土器片が数点表土層から出土した。

トレンチ C 19.6m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、



第57図 下荒勾遺跡（第4地点-2次）のトレンチ配置



第58図 下荒勾遺跡（第4地点-2次）トレンチ C 土層断面

遺物は確認されなかった。部分的に掘削したところ、幅7m、確認面からの深さ2.3mの規模であることが確認された。プランは南側の道路に概ね並行して走っており、トレンチAより西側へ5m付近から北側斜面地に向かって屈曲し、耕作地に接している。覆土の大半は現代の埋め土である。これは平成19年度に実施した第1次調査の際に確認された産業廃棄物を撤去し、埋め戻したものである。近世以前とみられる覆土は6層にわたって確認され、とくに2～4層は水気が多く、流水・帯水があった可能性がある（ただし、水性作用の痕跡は認められなかったため、恒常的なものではなかった可能性が高い）。

トレンチD 20.5m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀(SD01)が確認されたが、遺物は確認されなかった。

トレンチE 5m × 1m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（関口）

2-24 周知外（安楽寺遺跡近接）

所在地 水戸市元吉田町 2056

開発面積 264.46 m²

調査期間 平成21年2月2日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し(第60図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

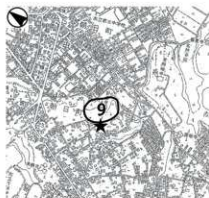
(1) トレンチの概要

トレンチ1 6m × 2m。地表下30cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から縄文土器片が数点出土した。

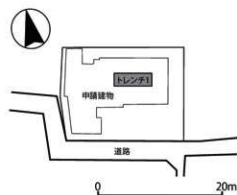
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第59図 周知外（安楽寺遺跡近接）の位置

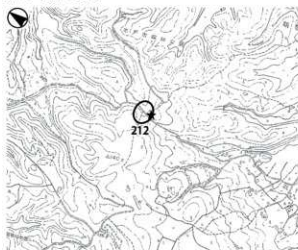


第60図 周知外（安楽寺遺跡近接）のトレンチ配置

2-25 新田遺跡 (第1地点-2次)

所在地 水戸市全隈町 1366-1
 開発面積 2,300 m²
 調査期間 平成 20 年 7 月 28 日～ 8 月 1 日
 調査原因 吐水槽建設
 調査担当 渥美賢吾
 調査概要 平成 19 年度に 7 箇所のトレンチを設定し

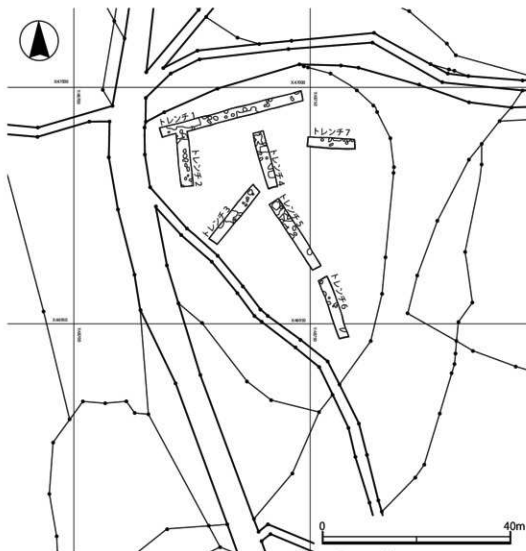
て試掘調査を行ったが(1次)、開発対象地内は山林で伐採が行われていなかったため、人力による掘削にとどまり調査面積は限定されていた(川口・色川編 2010)。年度が変わって伐採が行われたため、調査面積を広げることが可能となった今年度は、開発対象地内にトレンチを7箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第62図)。



第 61 図 新田遺跡 (第 1 地点-2 次) の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 31m × 2m。地表下 40～70cm で関東ローム層上面が検出された。中央部で集石遺構が確認され



第 62 図 新田遺跡 (第 1 地点-2 次) のトレンチ配置

るとともに土坑が多数確認された。とくに東部において確認した土坑プラン内およびその周囲には炭化材や焼土粒子が飛散しており、これらには縄文時代早期の竈穴が内包されている可能性が高い。遺物は縄文土器のほかには礫が多数出土した。礫は大小様々であるが、おおむね拳大よりやや大きい程度のものが多い。中には被熱して表面が真っ赤になっているものもあった。

トレンチ2 11.4m×2m。トレンチ1西部でほぼ直交するように設定した。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。トレンチ1との交点付近では、表土および遺構確認面から一定量の縄文土器が出土した。多くは早期の貝殻条痕文系土器とみられるが、中には中期阿玉台式と思われるものもある。遺物が多量に出土した場所では、土坑状の遺構が大小確認され、中には相互に切り合っているものもあった。注目すべきは、当該トレンチの南部で須恵器2点が出土し、その周囲に直径30cmほどの土坑が点在している状況である。須恵器は平底甕の底部で、あるいは蔵骨器であった可能性も考えられる。

トレンチ3 14.7m×2m。地表下40～70cmで関東ローム層上面が検出された。当該トレンチの南端2mほどは、ローム層上面が検出されず、地山の黄褐色土層が広がっていた。この付近では出土遺物もほとんどなく、礫の出土量も少なく、遺構も確認されなかった。これより南側は傾斜角40°前後の急斜面で、現況でも人間が普通には立つことが出来ない。生活の痕跡を求めることは極めて困難である。また、須恵器窯等の生産遺跡の所在する可能性も捨てきれないが、遺物が採集された履歴のないこと、切り通しの断面観察により、現況地盤より2mほどのところで岩盤が露出していることを考慮すれば、その可能性も低いと考えられる。したがって、当該トレンチ南端付近が包蔵地の端と考えてよい。当該トレンチの中央部から北端にかけては多数の土坑が検出された。土器・礫が多量に出土したほか、確認された遺構プランの周辺には炭化物・焼土粒子が飛散していることから、そのいずれかは竈穴と考えられる。

トレンチ4 12.2m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。確認プランから遺構相互の切り合いが存在する可能性がある。

トレンチ5 16.8m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。南方へ地形が下がっていくに従って、深度はより深くなる。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。

トレンチ6 13.5m×2m。トレンチ5を南方へさらに拡張して設定したトレンチである。本来ならば、トレンチ5と同一であるべきところであるが、樹木の切り株を回避したことから、便宜的に別トレンチとした。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。ただし、南方へ地形が下がって行くに従って、深度はより深くなる。関東ローム層を被覆する表土第2層も他のトレンチとは様相が異なり、他のトレンチで暗褐色土であったものが、当該トレンチでは明褐色土が堆積している。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。特に最も北側で確認された土坑には周囲に礫が並んでいる様子が確認面からうかがえ、石組状になっている可能性がある。確認された土坑のうち、いくつかは相互に切り合っている可能性が考えられ、トレンチ南端では、炭化物・焼土粒子が多量に飛散している状況が確認されることから、確認された土坑には竈穴が含まれている可能性が高い。

トレンチ7 10.1m×2m。トレンチ4の東方の緩斜面に直交して東西方向に設定した。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。縄文土器や礫（焼礫を含む）が出土したが、他のトレンチに比べれば少ない。傾斜地を下るに従って、遺構の分布も希薄となるようである。当該トレンチも他のトレンチと同様、土坑が多数確認され、その周囲には炭化物・焼土粒子が多量に飛散していることから、確認された土坑には竈穴が含まれている可能性が高い。出土した縄文土器の中には沈線文系土器とみられる破片も含まれており、これまで確認されていた時期よりも古いものが確認される可能性がある。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたため、事業者と保存について協議を重ねたが、吐水槽建設の代替地の確保は困難であり、吐水槽建設に伴い生じる削平土を用いて水戸市道を建設することから、工事計画の変更は困難であるとの結論に達した。そのことから、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当であるとした。その後、平成21年5月1日～7月31日の期間に財団法人茨城県教育財埋蔵文化財調査部による本発掘調査が行われ、竈穴建物跡3棟、竈跡7基、陥し穴6基、土坑43基、道路跡1条、ピット群1箇所、集石7基、石器集中地点調査区3箇所が確認された。竈穴建物跡は縄文時代後期のものであることが確認された。遺物は縄文時代早期・後期の土器のほかには石

鎌や石匙、磨製石斧、奈良・平安時代の土師器・須恵器も出土している。なお、第1次調査・第2次調査で出土した遺物については、本発掘調査を担当した財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財調査部へ移管済みである。

(渥美)

2-26 仙光内遺跡 (第2地点)

所在地 水戸市飯島町字間場 527-4

開発面積 500 m²

調査期間 平成20年9月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第64図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

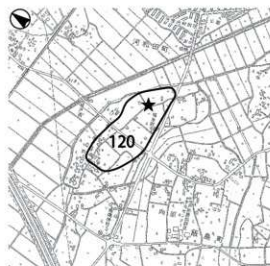
トレンチ1 4m × 1.5m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西壁沿いに竪穴建物跡(SI01)が確認された。本遺構の覆土には焼土と炭化材が含まれている。また、トレンチ中央部や東部でも円形・溝状の落ち込みが確認された。これらはサブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、遺構ではなく現代の攪乱や植栽痕であると判断された。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 4m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑2基を確認した(SK01・SK02)。トレンチ北半部では、円形状の落ち込みが確認されたが、サブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、遺構ではなく、現代の攪乱や植栽痕と判断された。遺物は土師器片が少量出土した。

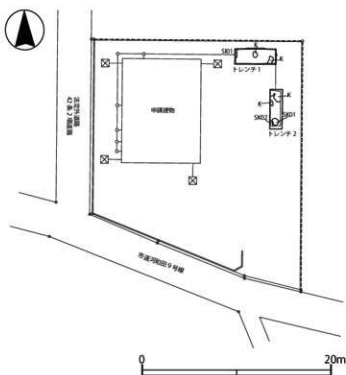
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたものの、浄化槽の埋設位置を移動できることになったため、工事立会が相当であったとした。

(渥美)



第63図 仙光内遺跡(第2地点)の位置



第64図 仙光内遺跡(第2地点)のトレンチ配置

2-27 台波里遺跡 (第43次)

所在地 水戸市波里町 3009-1

開発面積 642.86 m²

調査期間 平成20年7月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第66図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 14m×2m。ただし、浄化槽埋設位置の変更の可能性を探るため、適宜拡張を行い、最終的には幅4m弱、長さ14mにわたって掘削した。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西壁沿いに溝跡(SD01)が確認された。確認された幅は2mあり、官衝に関連する区画溝である可能性が高い。また、土坑1基(SK01)も確認されている。遺物は表土や遺構確認面から須恵器や縄文土器が多数出土した。

トレンチ2 6m×3m。地表下70cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、溝跡3条が確認された(SD02～SD04)。これらのうち、北西から南東へ貫くSD02は、その位置と方向から考えて、第8次調査や第9次調査で確認された権列SD03に連結するものとみられる(第67図)。とすればその年代は7世紀後半ということになる。SD02 確認面からは、3121 型式軒丸瓦の瓦当面がほぼ完形の状態で出土している(原色図版1)。この型式は、主として台波里廃寺跡長者山地区(那賀郡南正倉院推定地)の瓦倉に蓄かされていたものである。また、3121 型式とともに長者山地区の瓦倉の屋根に蓄かれたとみられる凸面に糸切痕を残す平瓦や凸面にヘラ削り調整の平瓦も出土しており、なぜ当該地域で出土するのかについては、今後の課題である。

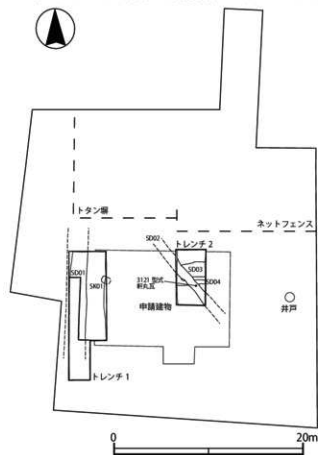
SD01についてもその位置と方向から考えて、第8次調査で確認された溝SD01に連結するものとみられる(第67図)。とすればその年代は7世紀後半ということになる。SD02と交錯するように確認された溝跡SD03およびSD04は切り合い関係は不明であるが、トレンチ2西側のトレンチ1では同遺構の延長部は確認されていないことから、トレンチ1とトレンチ2の間で屈曲するのか、中絶してしまうのか、あるいは溝ではないかのいずれかであるが、これらの問題については、遺構に対する掘り込みを行っていないため、判断としない。(渥美)

(2) 出土遺物

出土遺物は第68・69図に示した。1～4は縄文土器である。1は中期「大木8a～8b式」、2・3



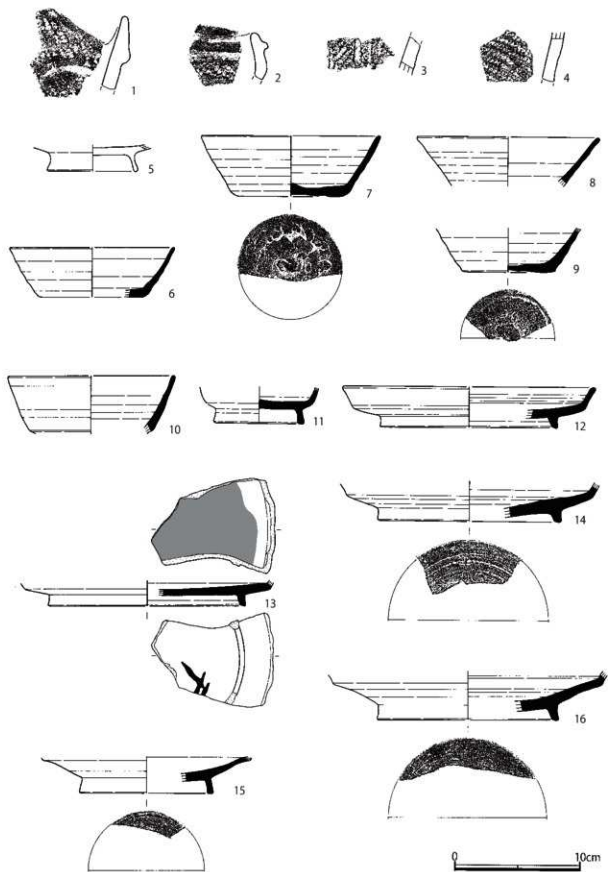
第65図 台波里遺跡(第43・47・50次)の位置



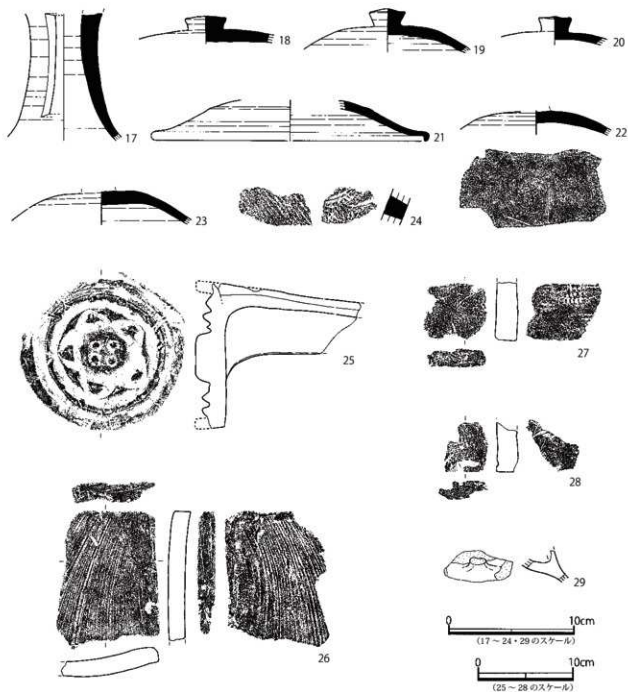
第66図 台波里遺跡(第43次)のトレンチ配置



第 67 図 台波里遺跡（第 43 次）の調査位置と周辺の調査成果



第 68 図 台波里遺跡 (第 43 次) 出土遺物 (1) (網部分は擦痕)



第69図 台波里遺跡(第43次)出土遺物(2)

は中期後半「加曾利E式」に位置付けられる。5は土師器の有台環である。内面に研磨黒色処理が施されている。時期は9世紀中葉～後葉に位置付けられる。6～24は須恵器である。6・7・9は無台環、10・11は有台環、12～16は有台盤、17は高盤、18～23は蓋、24は婁である。13は体部内面に擦痕が見られ、転用碗の可能性はある。18は8世紀前葉、6・7・10・12～14・17は8世紀中葉～後葉、19～23は8世紀後葉～9世紀前葉、8・11・15・16は9世紀前葉、9が9世紀後葉に位置付けられる。(色川)

25は3121型式軒丸瓦である。瓦当文様はほぼ完存しており、高い中房に4つの蓮子を持つ。蓮弁は楔状を呈するものが5つ、間弁は扇状を呈するものが5つ配置される。内区と外区を区画する圏線には一部破損により欠落しているものの、11の珠文が配置されており、外区外縁は素縁である。



写真1 SD02出土3121型式軒丸瓦瓦当面

中房の形状は多賀城系の重弁八弁蓮華文軒丸瓦(3117型式)と共通しており、蓮弁上にもより小さい蓮弁とみられるものが重ねられていることから、3117型式から変化したものと考えられる。瓦当面には3箇所の范傷が観察される(写真1)。8世紀前葉の年代が与えられる。26～28は平瓦である。26は凸面に糸切り痕を有する。28は側面の角度から桶巻き作りによる製品とみられる。側面の反対側は直線的に割られていることから、割製斗瓦の可能性がある。27は凸面に梯子状格子叩きが施されている。(川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたものの、設計変更により、浄化槽の埋設位置を移動できるようになったこと、申請建物については30cm以上の保護層を確保できることになったため、工事立会が相当であるとした。

(渥美)

2-28 台波里遺跡(第47次)

所在地 水戸市波里町字宿屋敷 2987-4, 2987-14

開発面積 214.06㎡

調査期間 平成20年10月9日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第70図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

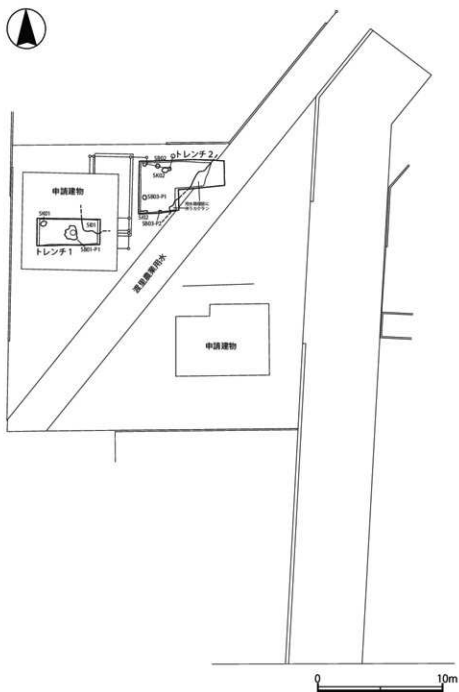
トレンチ1 5m×2m。地表下120cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑1基(SK01)、掘立柱建物跡を構成する柱穴1基(SB01-P1)、竪穴建物跡1棟(SI01)が確認された。SB01-P1とSI01はその形態から奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。なお、SI01の南側が外側に膨らんだプランを呈しているが、これは入り口ピットに関わるものとみられる。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 7m×2mで設定したが、遺構が確認されたため、3.2m×1.5mの拡張を行った。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑1基(SK02)、掘立柱建物跡1棟(SB02)、掘立柱建物跡を構成する柱穴2基(SB03-P1・P2)が確認された。SB03は柱穴の規模・形状から中世後期に帰属するものと考えられ、類似遺構は台波里遺跡や長者山遺跡におけるこれまでの調査で確認されている。東側においては波里農業用水に伴う攪乱が僅かに確認された。遺物は瓦・土師器片が少量出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたものの、設計変更により浄化槽の埋設位置を変更できるようになったこと、申請建物については30cm以上の保護層を確保できるようになったことから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)



第70図 台波里遺跡（第47次）のトレンチ配置

2-29 台渡里遺跡（第50次）

所在地 水戸市渡里町 3001-13

開発面積 195.03 m²

調査期間 平成20年12月3日

調査原因 範囲確認

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第71図)。

(1) トレンチの概要

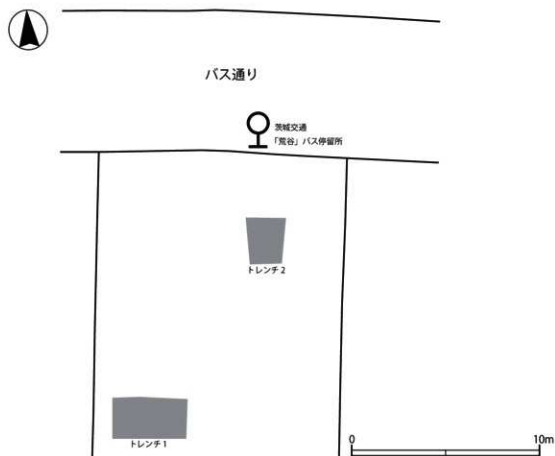
トレンチ1 3.7m × 2m。地表下80～90cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑状のプランが3基確認された。それらのうち1基は覆土の様相から現代のイモ穴とみられる。残りの2基については、覆土の様相から植栽痕と判断した。従って、遺構と判断されるものは確認されなかった。遺物は中世陶器の破片が出土した。

トレンチ2 4m × 2m。地表下90～100cmで関東ローム層上面が部分的に検出されたが、現代の攪乱が及んでおり、遺構は確認されなかった。遺物は瓦片が少量出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(川口)



第71図 台渡里遺跡（第50次）のトレンチ配置

2-30 台波里廃寺跡（第49次）

所在地 水戸市波里町 3058-3

開発面積 309.2 m²

調査期間 平成20年10月31日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第73図）。

（1）トレンチの概要

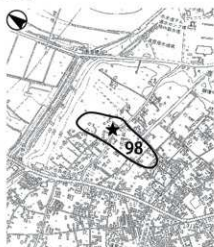
トレンチ1 2.4m × 2.6m。地表下65cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 2m × 1m。地表下70cmで関東ローム層上面が部分的に検出されたが、現代の攪乱が及んでおり、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

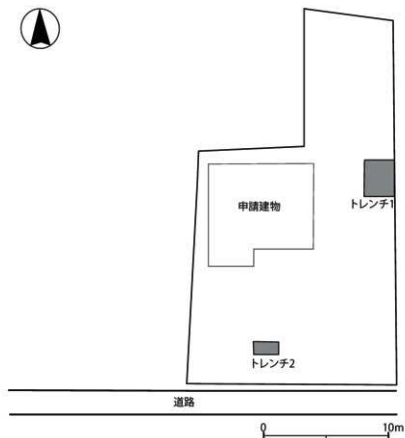
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（渥美）



第72図 台波里廃寺跡（第49次）の位置



第73図 台波里廃寺跡（第49次）のトレンチ配置

2-31 長者山遺跡（第3地点）

所在地 水戸市波里町 3151-4, 3151-6

開発面積 536.47 m²

調査期間 平成 20 年 8 月 21 日～ 26 日

調査原因 範囲確認

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを 3 箇所設定し、関東ロー
ム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 75 図）。

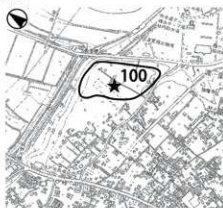
(1) トレンチの概要

トレンチ 1 8m × 3m。地表下 70 ～ 80cm で関東ローム層上
面が検出されたが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺
物は近・現代の陶磁器片、土師器片、須恵器片が少量出土した。

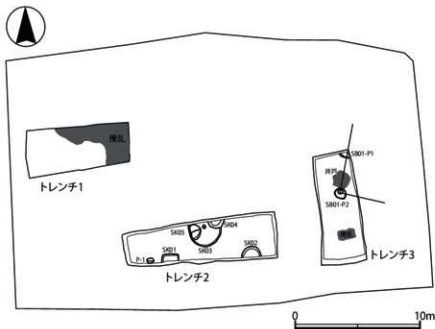
トレンチ 2 12m × 3m。地表下 70 ～ 80cm で関東ローム層上
面が検出されるとともに、縄文時代中期の土坑 3 基（SK02・SK03・SK05）、古墳時代以降の土坑 1 基（SK01）、時期
不明のピット 1 基（P-1）、中世の井戸跡 1 基（SK04）が確認された。遺物は SK02・SK03・SK05 から縄文時代中
期加曽利 E 式の土器片が多数出土している。SK03 からは底面の一部に礫が敷かれたような状態で出土しており、
SK02 や SK05 とは異なる様相を呈している。被熱の痕跡や焼土・炭化物などが確認されていないため、竪穴建物
の内部に設置される石囲炉などに伴う石ではないとみられるが、構築途中に何らかの要因で取りやめた竪穴建物跡の
可能性もある。

中世の井戸跡 SK04 は 2m の深さまで掘削したが、崩落の危険性もあるため、それ以上の確認調査は行わなかった。
最も深く掘削した面からピンボールを刺した結果、さらに 1m 以上入ってしまったことから、深さは 3m 以上あ
ると考えられる。内部に堆積していた覆土の中からはかわらけとみられる土器が数点出土していることから、中世
の長者山城跡に伴う移動と考えられる。

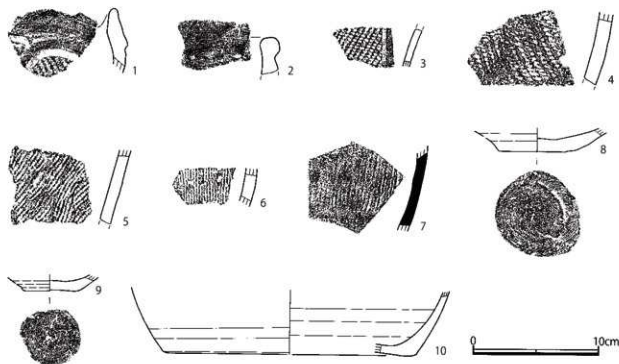
トレンチ 3 8.5m × 3.5m。地表下 70 ～ 80cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、掘立柱建物跡を構成
する柱穴 2 基（SB01-P1・P2）、近・現代の井戸跡 1 基が確認された。SB01-P1 については、断ち割り調査を行った



第 74 図 長者山遺跡（第 3 地点）の位置



第 75 図 長者山遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置



第76図 長者山遺跡（第3地点）出土遺物

ところ、掘方は直径約1.0m、深さ70cmの円形プランで、柱痕跡は直径が20cmほどであった。SB01-P2とは柱間が3m（10尺）もしくは3.3m（11尺）である。壁際にのみ柱を持つ側柱構造なのか、壁際のみならず内部にも柱を持つ総柱構造なのかは現状では判然としないが、奈良・平安時代の遺構であることは確実である。（川口）

(2) 出土遺物

第76図・1～6は縄文土器である。時期は中期後半「加曾利E式」に位置付けられる。7は須恵器の甕である。8・9はかわらけで、時期は中・近世である。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたため、改めて開発を行う場合には、遺構確認面より30cm以上の保護層を確保できれば慎重工事もしくは工事立会で対応できるとした。（川口）

2-32 寺内遺跡（第2地点）

所在地 水戸市大足町字寺前 1189-3, -4, -5, 1190-1, -2
開発面積 2,188 m²
調査期間 平成20年10月29日～30日（第1次）
平成21年1月13日～14日（第2次）
調査原因 墓地造成
調査担当 関口慶久・金子千秋
調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第78図）。

（1）第1次調査の概要

トレンチ1 63m×2mで設定したが、遺構の広がりか確認されたため、適宜拡張した。地表下45cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が1条確認された。堀跡の幅は約4m、長さは40m以上を測り、深さは約1.4mであった。人為的に丁寧に土を均しながら埋め戻した状況が土層観察より認められた。遺物は中世の土器、先土器時代の石器等が出土した。

トレンチ2 10m×1m。地表下45cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近現代の陶磁器片、土師器片、須恵器片が少量出土した。（関口）

（2）第2次調査の概要

トレンチ3 32m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出された。北側の大半は、掘乱が著しかったが、トレンチ中央よりやや南側に設定したサブトレンチからはトレンチ1で確認された堀跡の覆土が検出された。遺物は確認されなかった。

トレンチ4 31m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が2条、ピット1基が確認された。遺物は古墳時代～奈良・平安時代の土師器・土師器片、中世の土器片が出土した。

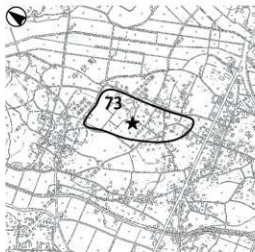
トレンチ5 31m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が2条、性格不明の土坑6基、ピット20基が確認された。遺物は他のトレンチに比べて少ないものの、古墳時代～奈良・平安時代の土師器・須恵器片、中世の土器片が出土した。（関口・金子）

（3）出土遺物

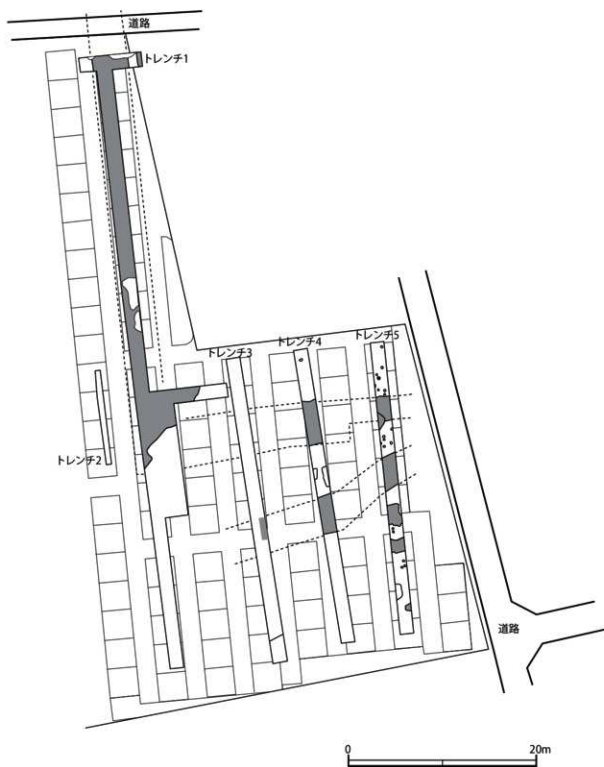
第79図-1～3は弥生土器である。1は2本同時施文具による波状文、LをZ巻きした原体（軸不明）による縄文が施文されている。時期は中期後葉～後期前葉に位置付けられる。2はLをZ巻きした原体（軸不明）とRをS巻きした原体（軸不明）で羽状縄文が構成されている。3はLをS巻きした原体（軸不明）による縄文が施文されている。2・3は後期後半に位置付けられる。4は土師器の甕で、複合口縁を呈する。時期は古墳時代前期に位置付けられる。5は土師器の無台坏である。時期は9世紀に位置付けられる。（色川）

（4）確認された埋蔵文化財の取り扱い

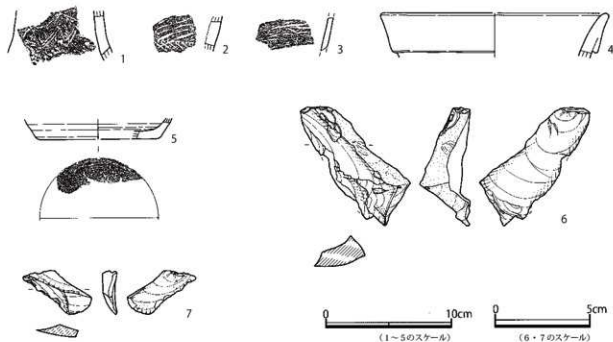
遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層を確保することができないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（関口）



第77図 寺内遺跡（第2地点）の位置



第78図 寺内遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第79図 寺内遺跡（第2地点）出土遺物

2-33 東前原遺跡（第1地点）

所在地 水戸市東前町2丁目57・60

開発面積 1,427.76㎡

調査期間 平成20年11月11日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第81図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 35m×1.5m～1m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

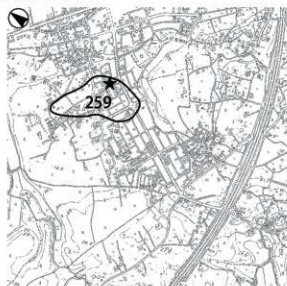
トレンチ2 9m×1m。地表下25cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 10m×1m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出され、ビット状の人為的遺構が1基確認された。セクション面および遺構基底面から柱痕跡は確認されなかった。覆土は現代の盛土に禁じていることから、近代以降の所産である可能性もある。遺物は表土より時期不明の土器の細片が出土したにとどまる。

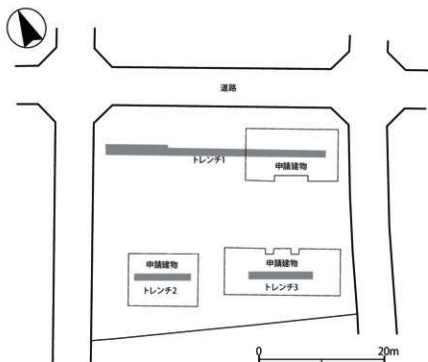
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第80図 東前原遺跡（第1地点）の位置



第 81 図 東前原遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-34 塔ノ上遺跡（第 2 地点）

所在地 水戸市小林町字小林 1200-1

開発面積 495.78 ㎡

調査期間 平成 21 年 1 月 29 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 83 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 5m × 1.5m。地表下 40cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土から土師器片 2 点が出土した。

トレンチ 2 3m × 3m。地表下 30cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

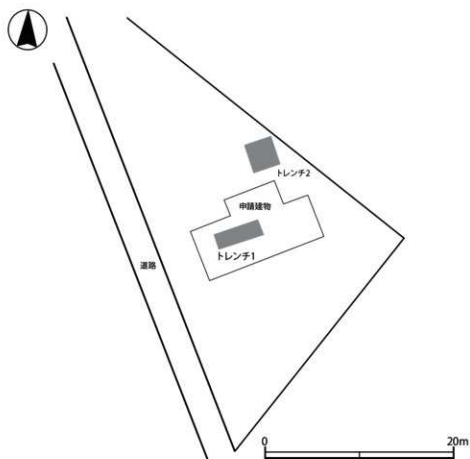
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第 82 図 塔ノ上遺跡（第 2 地点）の位置



第83図 塔ノ上遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-35 中河内遺跡（第3地点）

所在地 水戸市中河内町字中坪 194-1, -3, -4, -5, -6

開発面積 939.42㎡

調査期間 平成21年2月13日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第85図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m×1.5m。地表下90cmで粘性の強い褐色土層が検出された。当該地点是那珂川低地であることから、いわゆる関東ローム層の堆積がみられない。遺構確認面の土層は粘性の強い暗褐色土層の堆積がみられ、水田や陸田に適した土質である。トレンチ内では北側へ向かってやや傾斜しており、暗褐色土層からは、8世紀後半代～10世紀前半代にかけての土師器・須恵器片が一定量出土したが、遺構と認定できるものはなかった。また、トレンチ南半では、暗褐色土層が円形に落ち込んだプランが視認されたため、サブトレンチを設けて掘削したが、遺物の出土は見られず、明確な掘方も確認出来なかった。トレンチ全体で掘削深度が95cmを超えると著しい湧水がみられ、調査の続行は不可能であった。

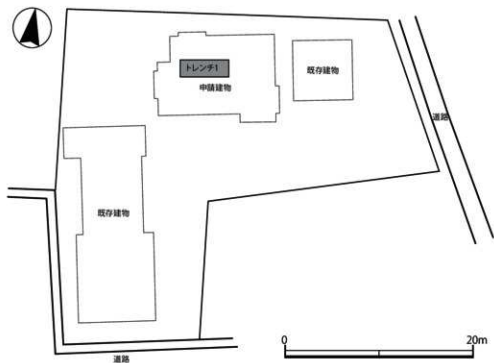
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとされた。

（渥美）



第84図 中河内遺跡（第3地点）の位置



第85図 中河内遺跡（第3地点）のトレンチ配置

2-36 東大野遺跡（第1地点）

所在地 水戸市東大野 137-2

開発面積 361.45 m²

調査期間 平成20年8月30日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第87図）。

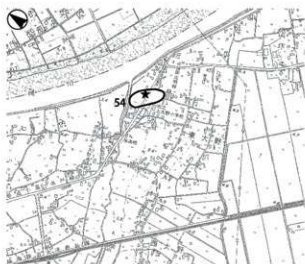
(1) トレンチの概要

トレンチ1 4m × 2m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

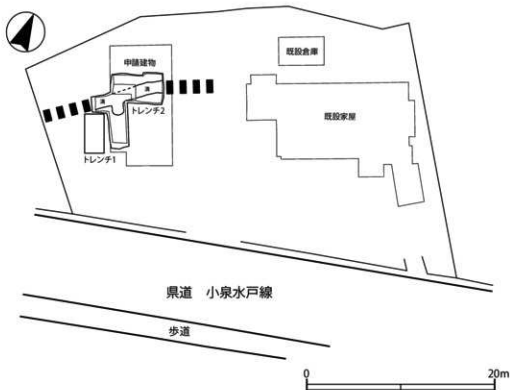
トレンチ2 5m × 2m。遺構が確認されたため、調査区の拡張を行い、最終的には29.5 m²の大きさとなった。地表下30cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、幅約1～1.1mの溝跡が確認され、奈良・平安時代の土師器片や近世の土師質土器などが遺構確認面で確認された。溝の性格を把握するため、サブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、断面はU字状を呈し、深さ50cmまで掘削すると湧水する状況が確認された。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認され、30cm以上の保護層を確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本発掘調査の概要については、本書「3-5 東大野遺跡（第1地点）」を参照願いたい。（川口）



第86図 東大野遺跡（第1地点）の位置



第 87 図 東大野遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-37 舞台遺跡（第 5 地点）

所在地 水戸市三湯町字舞台 466

開発面積 358.58 m²

調査期間 平成 20 年 9 月 24 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所を設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 89 図）。

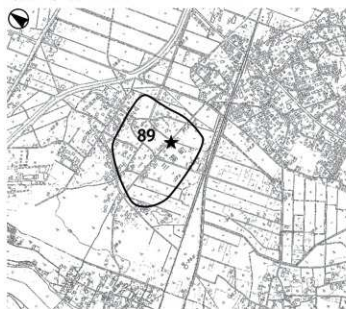
(1) トレンチの概要

トレンチ 1 3m × 1.5m。地表下 90cm まで掘削したところ湧水が認められた。現在の耕作土である暗褐色土の下に黒色土が厚く堆積しており、湧水ポイントとほぼ同一の深度で粘土層を確認した。いわゆる関東ローム層の堆積は認められなかった。黒色土中からは須恵器裏片が 1 点出土した。

トレンチ 2 3m × 1.5m。地表下 90cm まで掘削したところ湧水が認められた。現在の耕作土である暗褐色土の下に黒色土が厚く堆積しており、地表下 100cm で粘土層を確認した。いわゆる関東ローム層の堆積は認められなかった。遺物は黒色土層中から近代陶磁器片が 1 点出土した。（渥美）

(2) 出土遺物

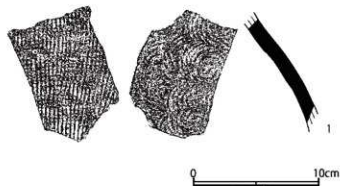
第 90 図 -1 は須恵器の裏である。外面は格子目文叩き、内面には同心円文の当て具痕が残されている。（色川）



第 88 図 舞台遺跡（第 5 地点）の位置



第 89 図 舞台遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置



第 90 図 舞台遺跡（第 5 地点）出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-38 堀遺跡（第 8 地点）

所在地 水戸市彌町字馬場東 295

開発面積 534 m²

調査期間 平成 21 年 3 月 23 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 3 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 92 図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 3m × 1.5m。地表下 70cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

トレンチ 2 9m × 2m。地表下 70cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

トレンチ 3 2m × 1.2m。地表下 80cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

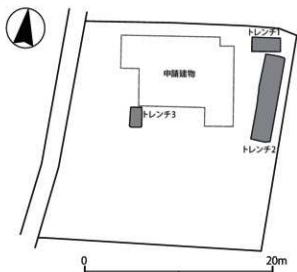
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)



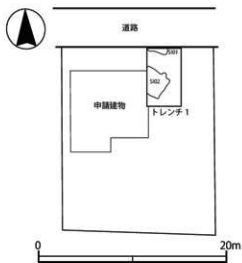
第 91 図 堀遺跡（第 8・13・15 地点）の位置



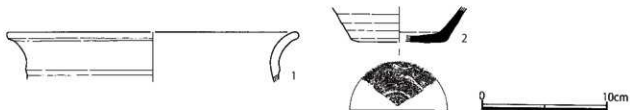
第92図 堀遺跡（第8地点）のトレンチ配置



第93図 堀遺跡（第13地点）のトレンチ配置



第94図 堀遺跡（第15地点）のトレンチ配置



第95図 堀遺跡（第15地点）出土遺物

2-39 堀遺跡 (第13地点)

所在地 水戸市渡里町字野木 3324-1 の一部

開発面積 330.61 m²

調査期間 平成20年4月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチ1箇所を設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第93図)。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 約2m幅でL字状にトレンチを設定した。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、北側において掘立柱建物跡を構成する柱穴2基(SB01・P1・P2)、幅50cmほどの溝跡1条(SD01)が、南端で性格不明遺構(SX01)が検出された。SB01については直径40cmほどの柱痕跡を持つが、8世紀代の掘立柱建物に比べると規模がやや小さいことから9世紀以降のものとみられる。SD01はトレンチ北壁に沿ってサブトレンチを設定し掘削したところ、20cmほどで底面に達し、覆土は単層であった。SX01は掘削してみたところ、柱のアタリ痕なども確認されなかった。道路境界線に近接することと、小型円形ビット状の落ち込みの周囲に、明確に掘方をもたない溝状の落ち込みが伴うことから、かつての木製電信柱等の痕跡とみられる。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できること、合併浄化槽埋設位置については埋設位置を変更できることから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)

2-40 堀遺跡 (第15地点)

所在地 水戸市壺町 327-1

開発面積 315 m²

調査期間 平成20年7月11日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所を設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第94図)。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 6m×3.5m。地表下60cm弱で関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡2棟(SI01・SI02)が検出された。SI01は確認面より出土した土師器片とプランの規模から8世紀代のものと判断される。SI02は確認面より出土した土師器片とプランの規模から9世紀前半代のものと判断される。

(2) 出土遺物

第95図-1 土師器の甕である。時期は8～9世紀に位置付けられる。2は須恵器の無台坏である。時期は9世紀に位置付けられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できること、合併浄化槽埋設位置については埋設位置を変更できることから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)

2-41 水戸城跡（第16次）

所在地 水戸市三の丸
1丁目6

開発面積 240㎡

調査期間 平成20年4
月4日

調査原因 学校校舎改築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを4箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第97図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 3m×1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が攪乱中より出土した。

トレンチ2 3m×1.5m。地表下150cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が攪乱中より出土した。

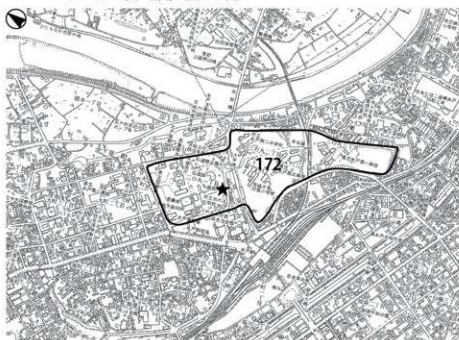
トレンチ3 3m×1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が攪乱中より出土した。なお、トレンチ中央部に円形プランが認められたが、半截調査の結果、現代の井戸跡であることが確認された。

トレンチ4 7m×1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が攪乱中より出土した。

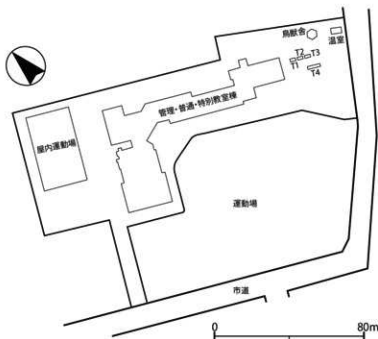
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（渥美）



第96図 水戸城跡（第16次）の位置



第97図 水戸城跡（第16次）のトレンチ配置

2-42 向原遺跡（第6地点）

所在地 水戸市有賀町字於中原 483-2, 483-5

開発面積 169.87㎡

調査期間 平成20年8月26日（第1次）

平成20年10月31日（第2次）

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第99図)。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2.5m × 1.5m。地表下90cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

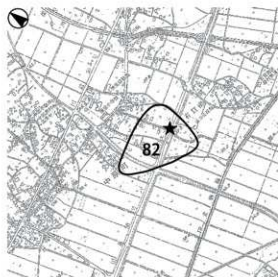
トレンチ2 2.5m × 1.25m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、溝跡が1条確認された(SD01)。SD01の覆土からは灰軸陶器壺類の胴部片のほか、古代の土器とみられる細片が出土した。

トレンチ3 6m × 1.5m。地表下90cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

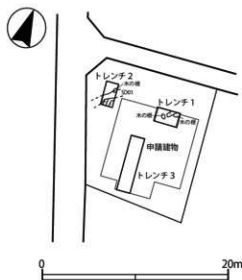
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、合併浄化槽埋設位置については配置変更を行うことになったことから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)



第98図 向原遺跡（第6地点）の位置



第99図 向原遺跡（第6地点）のトレンチ配置

2-43 向山遺跡 (第2地点)

所在地 水戸市大串町字原 121-7

開発面積 330 m²

調査期間 平成20年8月20日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した(第101図)。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 4m×2m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器が少量出土した。

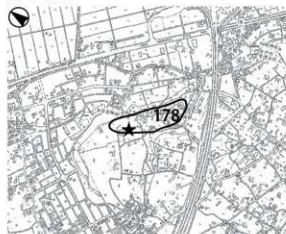
トレンチ2 4m×1.5m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡2棟が確認された(SI01・SI02)。両遺構の確認面からは縄文土器が出土しており、帰属時期を示す可能性がある。

(2) 出土遺物

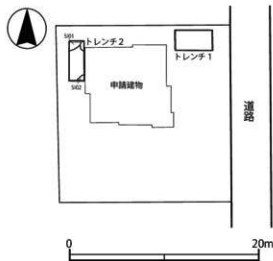
第102図-1～3は縄文土器で、胎土に繊維を含む。1は条痕文が施されている。3は半載竹管状工具による刺突文が施されている。1は早期後半、2・3は前期前半羽状縄文系土器群に位置付けられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

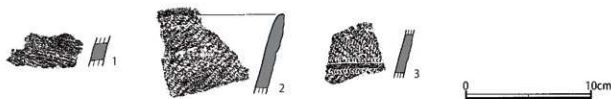
遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。(渥美)



第100図 向山遺跡(第2地点)の位置



第101図 向山遺跡(第2地点)のトレンチ配置



第102図 向山遺跡(第2地点)出土遺物

2-44 薬王院東遺跡（第2地点）

所在地 水戸市元吉田町字東組 573-2, -10, -11, -12

開発面積 1,420㎡

調査期間 平成21年1月28日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第104図）。

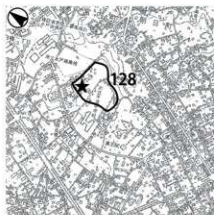
（1）トレンチの概要

トレンチ1 28m×1.5m。地表下65cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった

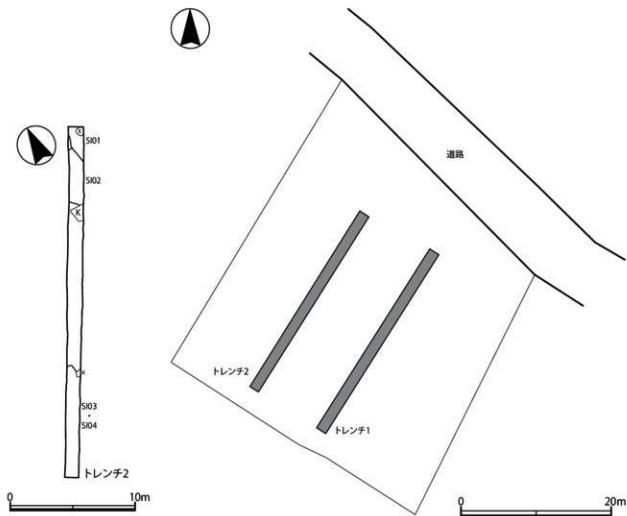
トレンチ2 27m×1.5m。地表下65cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡4棟が確認された（S10～S104）。出土遺物から S101・02 は弥生時代後期、S103・04 は8世紀後葉～9世紀前葉に位置付けられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（関口・金子）



第103図 薬王院東遺跡（第2地点）の位置



第104図 薬王院東遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-45 谷田古墳群（第9地点）

所在地 水戸市谷田町 805-3, -10

開発面積 479 m²

調査期間 平成20年7月3日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第106図）。

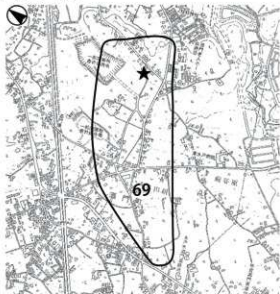
（1）トレンチの概要

トレンチ1 8m×1.3m。地表下85～136cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

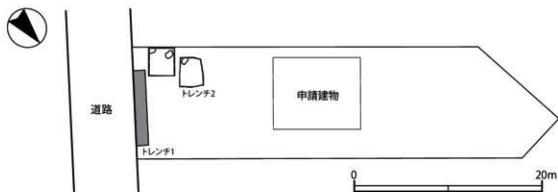
トレンチ2 3m×2mのものを2つ設定した。地表下85～136cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、東側のトレンチ南端でビット2基が確認された。ビットは長径90cm、短径54cm程度のもので、確認面より土師器片が少量出土したが、時期を特定できるような情報は得られなかった。西側のトレンチでも南端でビット1基が確認された。ビットは長径90cm、短径54cm程度のもので、確認面より土師器片が少量出土したが、時期を特定できるような情報は得られなかった。図面を整理した結果、直線的に並ぶことが判明し、掘立柱建物を構成する柱穴であることがわかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（渥美）



第105図 谷田古墳群（第9地点）の位置



第106図 谷田古墳群（第9地点）のトレンチ配置

2-46 米沢町遺跡（第11地点）

所在地 水戸市千波町字中道南 1502-14

開発面積 184.81 m²

調査期間 平成20年9月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第108図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 7m × 1.6m。地表下95cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

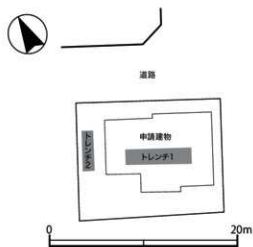
トレンチ2 4.2m × 1.1m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が3点出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（関口・金子）



第107図 米沢町遺跡（第11地点）の位置



第108図 米沢町遺跡（第11地点）のトレンチ配置

2-47 渡里町遺跡（第9地点）

所在地 水戸市渡里町 2568-1

開発面積 985.96 m²

調査期間 平成 21 年 1 月 15 日

調査原因 共同住宅建築

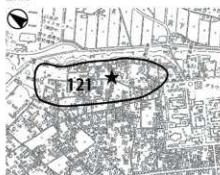
調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 3 箇所を設定し、関東ロー
ム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 110 図）。

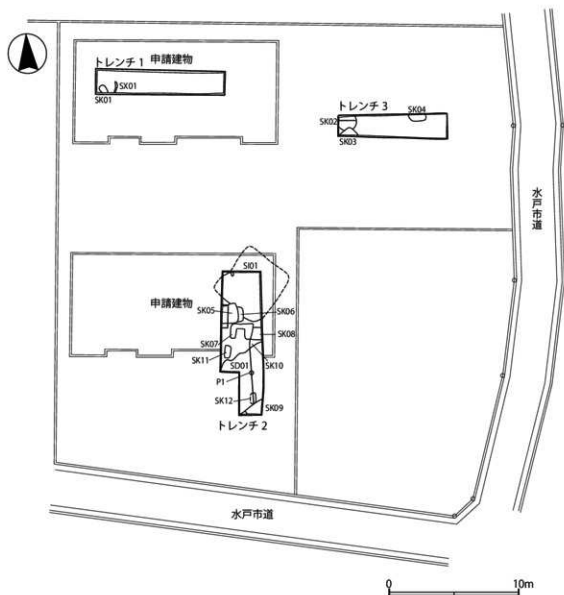
(1) トレンチの概要

トレンチ 1 10m × 2m。地表下 77cm で関東ローム層上面が
検出されるとともに、トレンチ西側で土坑（SK01）、粘土貼り焼
土遺構（SX01）が確認された。遺物は縄文土器が多数出土した。

トレンチ 2 10m × 1.5m で設定したが、西側に長さ 8m、幅 1.5m、南側に長さ 1.5m、幅 1.5m で拡張を行っ



第 109 図 渡里町遺跡（第 9 地点）の位置



第 110 図 渡里町遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置

た。地表下 78.5～93cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ北側において平安時代の竪穴建物跡 (SI01)、トレンチ南側には時期不明の溝跡 (SD01) が確認された。その両者間には複数の時期不明の土坑群が確認された (SK05～SK08, SK10・11)。これらの土坑群の周囲では、焼土や縄文土器片を含む褐色土が広がっていることから、これらの土坑群に切られて縄文時代の土坑群が広がっていると考えられる。同様の覆土をもった土坑は、溝跡 SD01 の南側でも確認されている (SK09)。

トレンチ 3 9m × 2m。地表下 67～76cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西側で土坑 (SK02・SK03) が確認された。SK02 は覆土の状況と確認面に突き刺さった土器片から縄文時代中期に帰属するものとみられる。 (渥美)

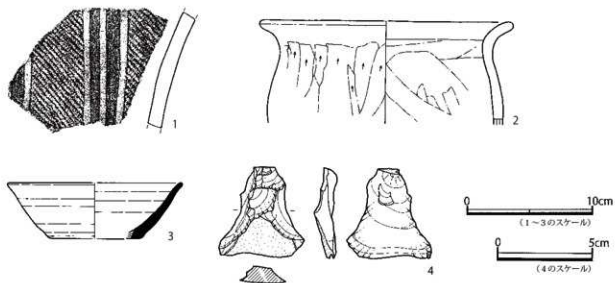
(2) 出土遺物

第 111 図 -1 は縄文土器である。中期後半「加曾利 E2 式」に相当する。2 は土師器の裏である。時期は 8 世紀に位置付けられる。3 は須恵器の無台坏である。時期は 9 世紀後葉に位置付けられる (色川)

4 はホルンフェルス製の剥片である。背面には自然面を一部残し、主要剥離面の方向と同一・直交する方向の剥離面が認められる。打面は自然面打面。 (川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm 以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。 (渥美)



第 111 図 波里町遺跡 (第 9 地点) 出土遺物

第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち、個人住宅建築に伴い本発掘調査の対象となったのは大串遺跡(第9地点)と大籠町遺跡(第10地点)、軍民坂遺跡(第4地点)、山王遺跡(第1地点)、東大野遺跡(第1地点)の5件であった。これに加えて、19年度に試掘調査を行った、軍民坂遺跡(第3地点)、台渡里遺跡(第41次)もある。台渡里遺跡(第41次)については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、1冊の報告書として刊行すべき内容であることから、本報告については次年度以降に刊行する予定である。山王遺跡(第1地点)と軍民坂遺跡(第4地点)も同様に遺構・遺物が質・量ともに充実しており、本報告の紙幅を超える内容であるため、本報告では概要を記し、遺構・遺物の詳細については、次年度の報告に譲るものとする。

本発掘調査は、地下に掘削の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機(バックホウ)により、関東ローム層上面まで表土を掘削し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

3-1 大串遺跡(第9地点)

所在地 水戸市大串町字原坪 598-2

調査面積 103.34 m²

調査期間 平成20年7月31日～8月12日

検出遺構 竪穴建物跡1, 土坑4

出土遺物 縄文土器, 土師器, 須臾器, 鉄製品(鎌・刀子)

調査担当 川口武彦

調査概要 試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレンチ1で確認された竪穴建物跡と土坑, 浄化槽埋設予定部分に設定したトレンチ2から確認された土坑を対象とした(第113図)。

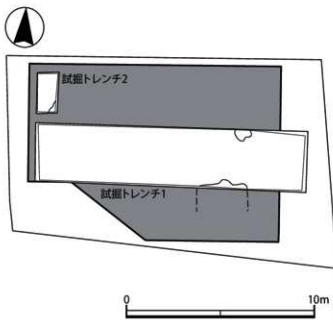
(1) 第1号竪穴建物跡(S101)

調査区の南東部に検出された(第114図)。確認できた建物跡の規模は東西3.5m, 南北3.1mの範囲で、遺構確認面から床面までの深さは34～36cmである(第115図)。南側については未詳であるが、東西および北側は周溝が全周している。覆土はロームブロックやローム粒を含んでおり、人為堆積による埋没とみられる。11層に分層された(第115図)。焼土粒や炭化粒を含んでいる層もあることから、火災による焼失あるいは人為的放火による廃絶を経ている可能性がある。床面は平坦で全体的に硬化しており、南側に見られる出入り口ピット周辺のみ硬化が見られない。

北側には竈が構築されていたが、遺存状況は良くない。

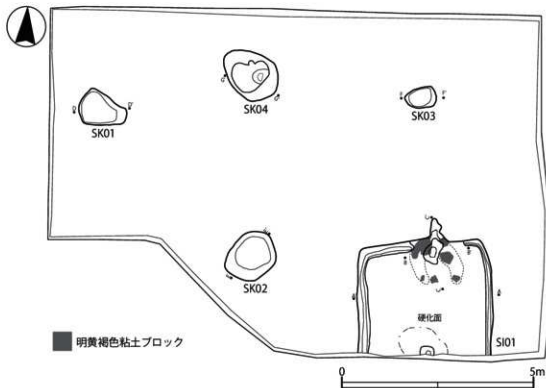


第112図 大串遺跡(第9地点)の位置

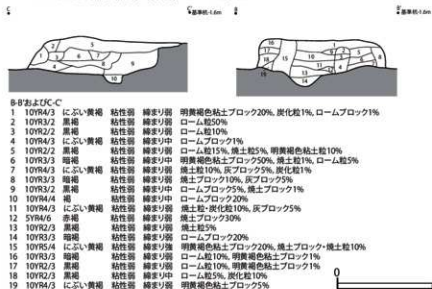
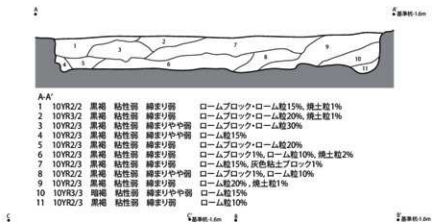


第113図 大串遺跡(第9地点)の本調査範囲

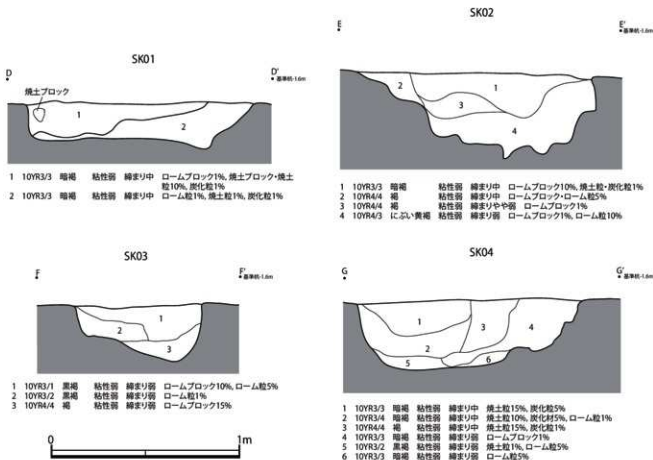
市道第8-1504号線



第114図 大串遺跡(第9地点)の本調査区遺構配置



第115図 大串遺跡(第9地点) SI01 土層断面



第116図 大串遺跡(第9地点)土坑土層断面

廃絶に伴い、破壊された可能性がある。明黄褐色粘土ブロックが部分的に残存しており、その分布から範囲を推定せざるを得なかった。竈は19層に分層された(第115図下段)。出土した土器から8世紀前葉頃のものとみられる。

(2) 第1号土坑(SK01)

検出されたのは調査区の西側で東西1.2m, 南北1m, 深さ40~50cmである。覆土は2層に区分され、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含む(第116図上段左)。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(3) 第2号土坑(SK02)

検出されたのは調査区の南側で東西1.35m, 南北1.3m, 深さ30~80cmである。覆土は4層に区分され、焼土粒・炭化粒を含む(第116図上段右)。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(4) 第3号土坑(SK03)

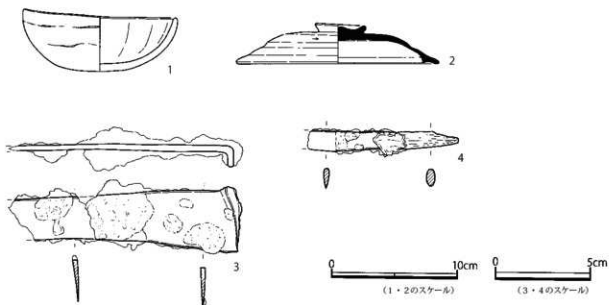
検出されたのは調査区の東側で東西0.5m, 南北0.85m, 深さ30~60cmである。覆土は3層に区分されるが、他の土坑とは異なり、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含まない(第116図下段左)。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(5) 第4号土坑(SK04)

検出されたのは調査区の北側で東西1.5m, 南北1.3m, 深さ24~34cmである。覆土は6層に区分され、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含む(第116図下段右)。自然堆積による埋没である。時期は不明である。(川口)

(6) 出土遺物

主体を占めるのはS101の時期である奈良時代の遺物であるが、縄文時代の遺物も少量ながら出土している。第117図-1~4はS101から出土した遺物である。1は土師器の坏である。外面に輪積み痕が残る。2は須恵器の蓋である。胎土に雲母を含んでいことから、かすみがうら市一丁田窯跡の製品とみられる。いずれも8世紀前葉の年代が与えられる。3・4は鉄製品である。3は鎌、4は刀子である。(色川)



第117図 大串遺跡（第9地点）本調査出土遺物



写真2 SI01 調査状況（北から）



写真3 SK01 土層断面（南から）



写真4 SK02 調査状況（南東から）



写真5 完掘状況（南東から）

3-2 大鋸町遺跡 (第10地点)

所在地 水戸市元吉田町 2280-9, 2280-10
調査面積 135.37㎡
調査期間 平成20年11月4日～11月19日
検出遺構 竪穴建物跡3, 溝跡2, 土坑5
出土遺物 縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器
調査担当 渥美賢吾
調査概要 試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレンチ



1で確認された竪穴建物跡と土坑を対象とした(第119図)。

(1) 第1号竪穴建物跡 (S101)

第118図 大鋸町遺跡 (第10地点) の位置

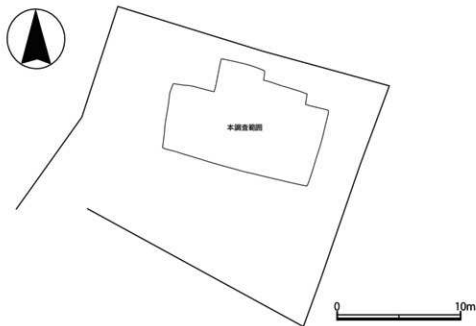
調査区の西部で検出された。確認出来た建物跡の規模は東西3.2m, 南北2.3mで、隅丸方形を呈するものとみられる。遺構確認面から床面までの深度は24cmである。覆土は6層に分層された(第121図上段左)。床面は平坦で全体的に硬化している。隅に近い位置には柱穴とみられるビット2基が検出されている(P1・P2)。掘方から出土した土師器には内面黒色処理が施されていたことから平安時代のものとみられる。

(2) 第2号竪穴建物跡 (S102)

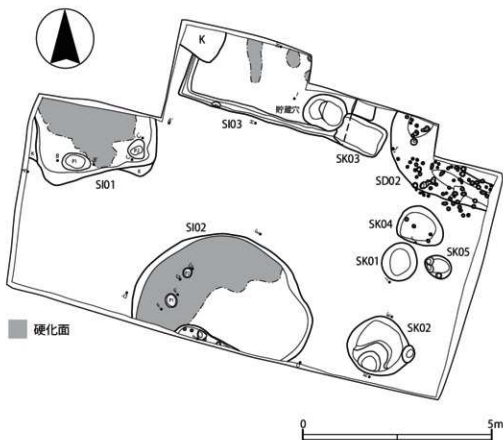
調査区の南部中央で検出された。確認できた建物跡の規模は東西4.8m, 南北3.3mで、円形もしくは楕円形のプランを呈すると推定される。遺構確認面から床面までの深度は24～32cmである。覆土は7層に分層された(第121図上段右)。掘方は南に向かって窪んでおり、西側では柱穴の可能性のあるビット2基が検出されている(P1・P2)。出土している土器には縄文時代中・後期の土器と弥生時代後期二軒屋式と十王台式のものがあるが、いずれの時期になるのかは不明である。

(3) 第3号竪穴建物跡 (S103)

調査区の北部中央で検出された。確認できた建物跡の規模は東西4.6m, 南北2mで、方形のプランを呈すると推定される。遺構確認面から床面までの深さは10～20cmである。覆土は3層に分層された(第121図下段左)。南側では第1号溝と東側では第3号土坑と重複している。南東隅では床面上より貯蔵穴とみられる土坑が検出さ



第119図 大鋸町遺跡 (第10地点) 本調査範囲



第120図 大鋸町遺跡（第10地点）の本調査区遺構配置

れており、内部から土師器が出土している。出土している土師器は6世紀前半のものであることから、古墳時代後期のものとみられる。

(4) 第1号溝 (SD01)

検出されたのは調査区の北西隅で、第3号竪穴建物跡と重複していたが、プランが浅く、規模は不明瞭であった。第3号竪穴建物跡から出土している土師器と同じ時期のものが出土しているが、本来は第3号竪穴建物跡に附属するものであった可能性が高い。時期は不明である。

(5) 第2号溝 (SD02)

検出されたのは調査区の北東側で、東西3.1m、南北1.8mである。時期は不明であるが、規模・構造から近世以降のものと思われる。

(6) 第1号土坑 (SK01)

検出されたのは調査区の北東側で、東西0.95m、南北1m、深さ4～16cmである。覆土は2層に区分され、(第121図上段中央)、ロームを含む。時期は不明である。

(7) 第2号土坑 (SK02)

検出されたのは調査区の南東隅で、東西1.85m、南北1.6m、深さ8～24cmである。覆土は2層に区分され、(第121図下段中央)、ロームを含む。時期は不明である。

(8) 第3号土坑 (SK03)

検出されたのは調査区の北側で、東西1.3m、南北0.9m、深さ16～24cmである。SI01を切っている。時期は不明である。

(9) 第4号土坑 (SK04)

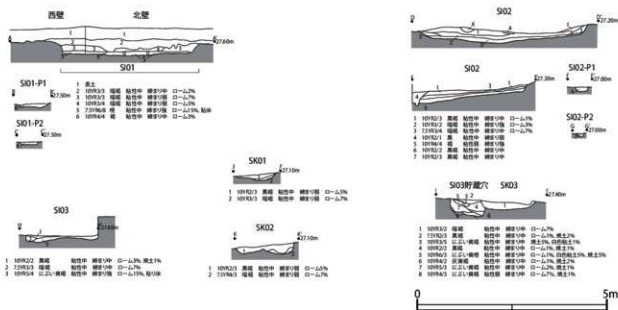
検出されたのは調査区の北東側で、東西1.25m、南北1.1mである。時期は不明である。

(10) 第5号土坑 (SK05)

検出されたのは調査区の東側で、東西0.7m、南北0.6mである。時期は不明である。

(渥美)

(11) 出土遺物



第121図 大鋸町遺跡(第10地点)遺構土層断面



写真6 S01土層断面(南東から)



写真7 S03・S01遺物検出状況(西から)

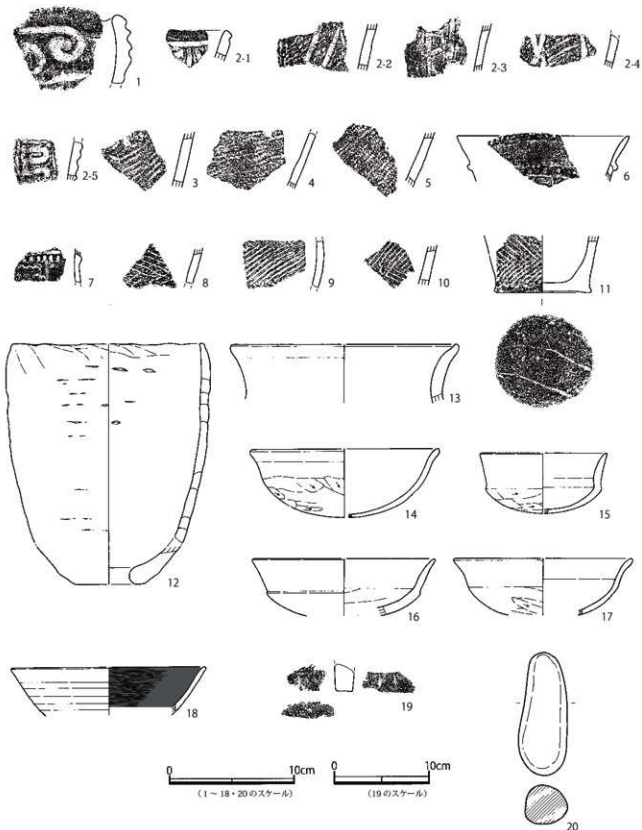


写真8 S02土層断面(北西から)



写真9 完掘状況(南東から)

第122図-1~5は縄文土器である。1は中期後半「加曾利E2式」、2は後期前半「堀之内2式」に位置付けられる。6~11は弥生土器である。6は口縁部が無文、口唇部に縄文原体による刻みが施されている。頭部の隆帯は1条で、指頭による押圧が施されている。胴上部は櫛歯状工具(3本?)による縦位区画文・波状文が施文されている。7は隆帯が1条以上で、棒状工具による押圧が施されている。胴上部は櫛歯状工具(3本)による縦位区画文・波状文が施文されている。8は付加条第2種R×RとL×L、9~11は付加条第1種LR+2RとRL+2Lで



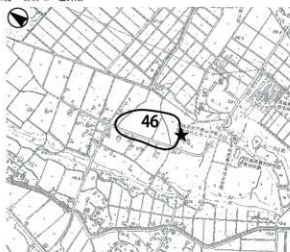
第122図 大塚町遺跡（第10地点）出土遺物

羽状縄文が構成されている。11は底面が木葉痕を呈する。6～8は後期後半「十王台式」、9～11は所謂「二軒屋式」に位置付けられる。12～18は土師器である。12は甕、13は甕、14～18は坏である。12～17は、出土状況から一括の可能性が高く、時期は6世紀前葉に位置付けられる。18は内面に研磨黒色処理が施されている。時期は9世紀に位置付けられる。19は凸面にヘラ削り調整が施された平瓦片である。20は磨石で、石材は砂岩である。
 (色川)

3-3 軍民坂遺跡（第3地点）

所在地 水戸市上国井町 3667-1, 3667-5
 調査面積 57.04 m²
 調査期間 平成 20 年 6 月 25 日～7 月 3 日
 検出遺構 土坑 3, 植栽痕 25
 出土遺物 縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器
 調査担当 川口武彦

調査概要 平成 19 年度に実施した試掘調査の際に遺構・遺物が確認されたが、その後事業者から申請建物については配置変更の申し入れがあった（第 124 図）。これを受けて 6 月 25 日に変更のあった箇所について、重機により全面表土掘削を行ったところ、西側に遺構が確認された。東側については、既存建物があった関係で攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。申請建物は柱状改良工事を加えるため、保存ができないとの観点からすぐに本発掘調査へ移行した（第 125 図）。確認された遺構は土坑とピットであったが、調査の過程でピットとしたものは現代の植栽痕であり、確実な遺構は土坑 3 基のみであった。



第 123 図 軍民坂遺跡（第3地点）の位置

(1) 第 1 号土坑 (SK01)

調査区の北東部で検出された。東西 1.5m, 南北 1.4m で、不整形円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは 12～48cm である。覆土は 4 層に分層された（第 126 図上段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

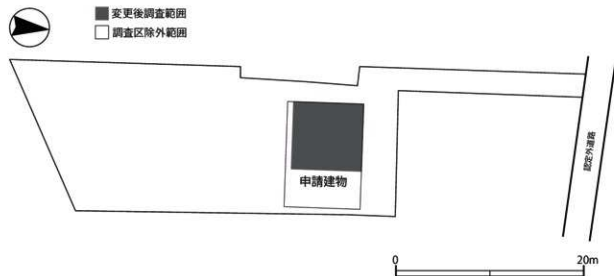
(2) 第 2 号土坑 (SK02)

調査区の南東部で検出された。東西 0.8m, 南北 0.75m で、不整形円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは 20～36cm である。覆土は単層である（第 126 図中段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

(3) 第 3 号土坑 (SK03)

調査区の中央部やや南よりの位置で検出された。東西 0.8m, 南北 0.75m で、不整形円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは 66～76cm である。覆土は 2 層に分層された（第 126 図下段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

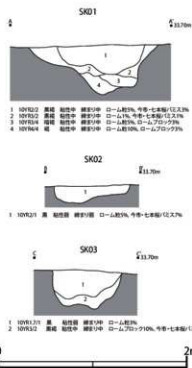
（川口）



第 124 図 軍民坂遺跡（第3地点）の本調査範囲



第125図 軍民坂遺跡（第3地点）の本調査区遺構配置



第126図 軍民坂遺跡（第3地点）土坑土層断面



写真10 SK01土層断面（北西から）



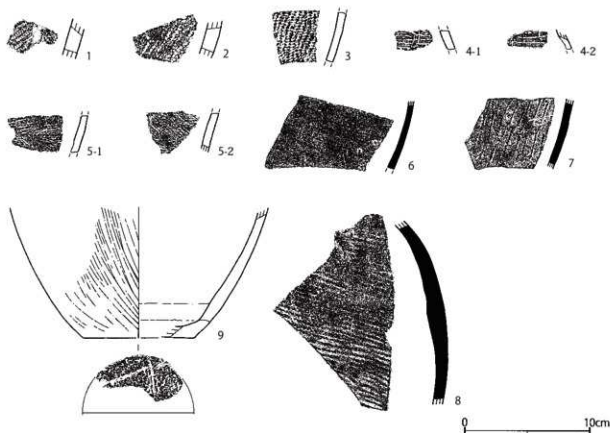
写真11 SK01完掘状況（北東から）



写真12 完掘状況（南東から）



写真13 完掘状況（東から）



第127図 軍民坂遺跡（第3地点）出土遺物

(4) 出土遺物

第127図1～3は縄文土器である。1は中期後半「加曾利E2式」、2は中期、3は後期に位置付けられる。4・5は弥生土器である。4は2本同時施文具により縦・横位に文様が施されている。5はRをS巻き（軸不明）した原体による縄文が施文されている。時期は中期後葉に位置付けられる。6～8は須恵器の甕である。外面に平行線文印きの痕跡が残されている。9は土師器の甕で、所謂「常総型甕」の範疇に入るものとみられる。時期は8世紀に位置付けられる。

（色川）

3-4 軍民坂遺跡（第4地点）

所在地 水戸市上国井町 3585-1

調査面積 66㎡

調査期間 平成21年1月22日～3月19日

検出遺構 竪穴建物跡1, 掘立柱建物跡1以上, 土坑・ピット45

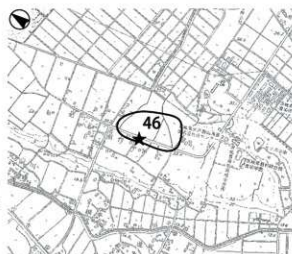
出土遺物 縄文土器, 土器片鏟, 石器, 礫, 土師器, 須恵器

調査担当 渥美賢吾

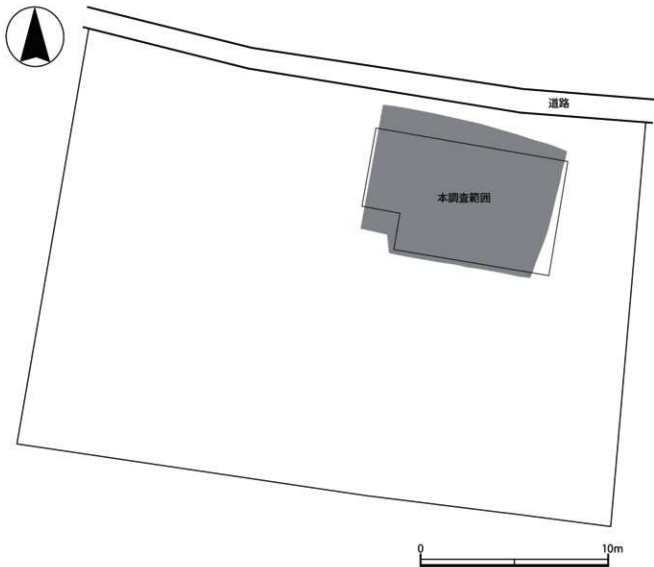
調査概要 試掘調査で確認されていた、縄文時代中期の竪穴状遺構2基と土坑3基を対象とするともに、申請建物により影響を受ける範囲を調査範囲とした（第129図）。

(1) 古代の遺構

調査区の南部で竪穴建物跡1棟（SI001）と調査区全体に



第128図 軍民坂遺跡（第4地点）の位置



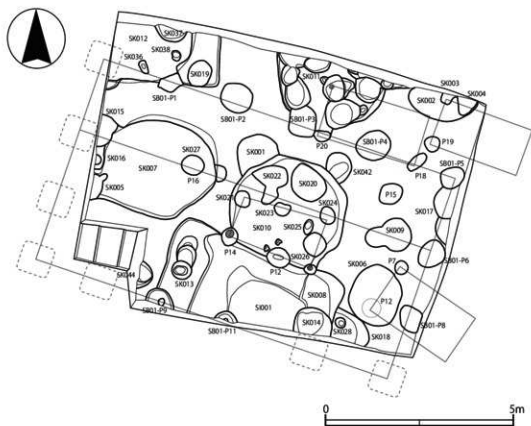
第 129 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）の本調査範囲

かかる形で掘立柱建物跡 1 棟 (SB001) が確認された (第 130 図)。竪穴建物跡は大半が調査区外に延びているが、北側に竈が構築されていた。掘立柱建物跡は複数棟あるものとみられるが、部分的に確認されているものが多く、正確な棟数については、今後、検討する必要がある。掘立柱建物跡のうち、SB001 は側柱構造のものとみられ、桁行 5 間、梁行 3 間と推定される。桁行の柱間は 1.8m (6 尺)、梁行 2.1m (7 尺)。SI001 が廃絶した後に SB001 が構築されており、SB001 の柱穴から 9 世紀中葉頃の須恵器無台杯が出土していることを考慮すると、SI001 は平安時代前葉頃に位置付けられるとみられる。

(2) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構はこれまで隣接する第 1 地点で中期の土坑群が、近傍の第 2 地点でも複数軒が確認されているが、当地点では、中期前半の土坑群とこれらを切る中期中葉の深い土坑群が確認された (第 130 図)。これらの土坑のひとつからは、胴部に大木 8b 式の影響を受けた文様が、口縁部～頸部に加曾利 E 式の文様が描かれた深鉢形土器も出土しており (原色図版 1 上段)、東北地方南部に隣接する水戸の地域色を示す遺物と言える。また、打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石/砥石類、凹石、石鏃、剥片、石核などの石器もまとめて出土した。当該期の竪穴建物跡は確認されなかったが、近傍に存在している可能性が高い。

以上が遺構・遺物の概略であるが、詳細については整理作業が完了した時点で改めて報告したい。 (渥美)



第130図 軍民坂遺跡（第4地点）の本調査区遺構配置



写真14 SB001-P2 遺物出土状況（南から）



写真15 SB001-P4 完掘状況（南から）



写真16 SI001 調査状況（北東から）



写真17 SK007 土層断面（南から）



写真 18 SK007 覆土遺物出土状況 (南西から)



写真 19 SK007 底面遺物出土状況 (南から)



写真 20 SK012 遺物出土状況 (東から)



写真 21 SK011 遺物出土状況 (南から)



写真 22 SK011 完掘状況 (南東から)



写真 23 調査風景 (南西から)



写真 24 調査区完掘状況 (西から)



写真 25 調査区完掘状況 (南から)

3-5 東大野遺跡（第1地点）

所在地 水戸市東大野 137-2
調査面積 45.6㎡
調査期間 平成20年9月4日～9月8日
検出遺構 溝跡1, 土坑1
出土遺物 土師器, 須恵器, 土師質土器, 磁器, 煙管
調査担当 川口武彦

調査概要 試掘調査の際にトレンチ2で確認されていた, 溝跡を調査対象とした(第132図)。

(1) 第1号溝跡 (SD01)

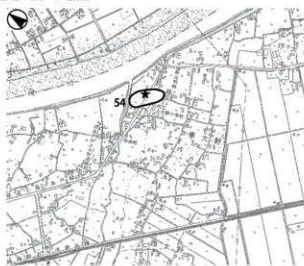
東西7.4m, 南北1.25mの範囲を確認できた。上面幅は1.0～1.25m, 底面幅は0.5～0.6m, 深さ50～60cmである。30cmほど覆土を掘削すると著しい湧水が認められ, 底面まで掘削することは困難であったが, 断面は逆台形を呈するものと考えられる。覆土は単層で自然堆積によるものと判断した。

(2) 第1号土坑 (SK01)

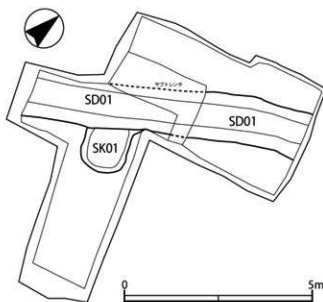
直径1.2～1.5mの円形で, 深さ20cmほどの皿状のプランを呈する。SD01に切られていることから, SD01よりは古いことが確認された。(川口)

(3) 出土遺物

第133図-1は須恵器の甕である。2は磁器の碗である。推定生産地は瀬戸・美濃, 推定年代は1810年以降とみられる。3はかわらけで, 時期は近世である。(色川)



第131図 東大野遺跡（第1地点）の位置



第132図 東大野遺跡（第1地点）本調査区遺構配置



写真 26 SD01・SK01 検出状況（南西から）



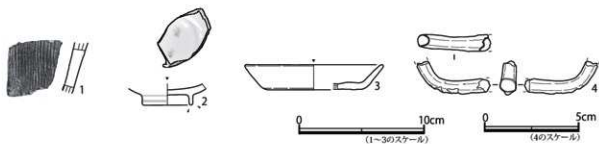
写真 27 SD01・SK01 土層断面（南西から）



写真 28 完掘状況（南西から）



写真 29 完掘状況（西から）



第 133 図 東大野遺跡（第 1 地点）出土遺物

第4章 開発に伴う工事立会調査

工事立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地内における試掘・確認調査の結果を受けて、工事立会が相当であるとされた案件について実施するが、範囲外であっても、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、事業者により協力を求めて実施した。立会調査は、事業者による工事の実施を妨げないよう配慮しながら、埋蔵文化財専門職員を掘削工事に立ち合わせ、遺物や遺構が確認された場合には検出状況の写真や簡易的な図面等による記録を作成し、遺物を回収した。

今年度は大塚新地遺跡（第6地点）および町付遺跡（第1地点）、水戸城跡（第20次）において計3件の工事立会調査を実施した。いずれも遺構は確認されず、遺物が出土したにとどまる。大塚新地遺跡（第6地点）および町付遺跡（第1地点）の遺物は図化できるものがないため、ここでは水戸城跡（第20次）の遺物を報告する。

4-1 水戸城跡（第20次）

所在地 水戸市三の丸1-6-29（旧弘道館）

調査期間 平成20年12月8日

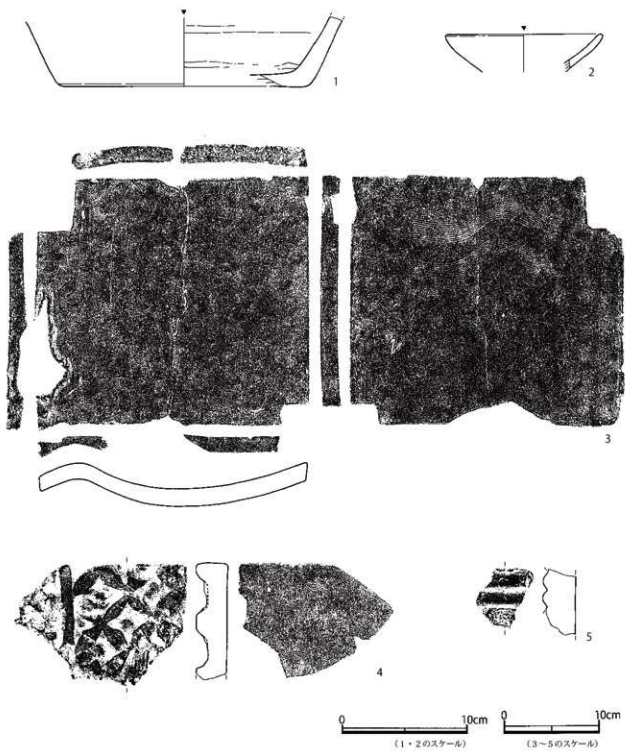
調査担当 深美賢吾

調査概要 今般の土木工事は、旧弘道館のある井戸屋形および孔子廟門の修理に伴う工事であり、井戸および孔子廟文の周囲を開削する際に立ち会った。その結果、近世～近代にかかる時期の瓦が多数出土したが、いずれも表土層からの出土であり、遺構に伴うものではなかった。（深美）

出土遺物 第135図-1は裏、2はかわらけである。3～5は近世瓦である。3は椀瓦の完形品である。表面左側縁には漆喰の付着が認められる。4は棟飾瓦、5は不明瓦であるが七宝文が貼り付けられている。これらの瓦は弘道館の屋根景観を復元していく上で貴重な資料である。（色川）



第134図 水戸城跡（第20次）の位置



第135図 水戸城跡（第20次）出土遺物

第5章 開発に伴う踏査と採集遺物

各種開発に伴い、現地踏査を実施した際に遺物が採集された地点がいくつかある。ここでは図化の可能であった周知外（河和田町 636 番地）および駒形端古墳群で採集された遺物について報告する。

5-1 周知外（河和田町 636 番地）

所在地 水戸市河和田町 636 番地

踏査日 平成 20 年 8 月 7 日

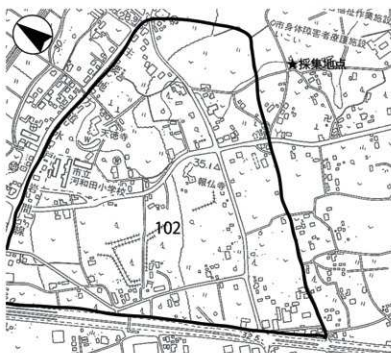
採集者 渥美賢吾

採集経緯 エヌ・ティ・ティ・ドコモ茨城支店から携帯電話通信基地局建設に伴う「埋蔵文化財野所在の有無およびその取扱いについて」の照会が提出された。開発対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「河和田城跡」に近接しているため（第 136 図）、現地踏査を行った。その際に開発対象地内で遺物が表面採集された。

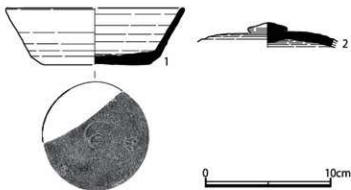
（渥美）

採集遺物 第 137 図は採集された 2 点の須恵器である。1 は須恵器の無台坏である。底面には回転ヘラ切りの痕跡が残されており、二次底面を持つ。胎土の特徴から水戸市木葉下窟跡群産の製品とみられる。技術的・形態的特徴から 8 世紀の年代が与えられる。

2 は須恵器の蓋である。筒みどりは宝珠形を呈し、胎土および色調の特徴から湖西産の製品とみられる。技術的・形態的特徴から 8 世紀中葉の年代が与えられる。 （色川）



第 136 図 周知外（河和田町 636 番地）の位置



第 137 図 周知外（河和田町 636 番地）採集遺物

5-2 駒形端古墳群

所在地 水戸市藤井町地内

踏査日 平成21年1月9日

採集者 渥美賢吾・金子千秋

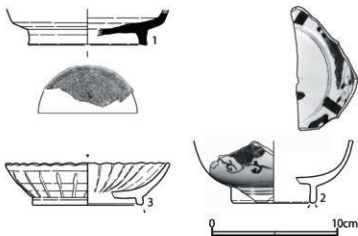
採集経緯 平成20年4月1日付茨住供発(宅事)第1号にて茨城県住宅供給公社理事長 福田克彦から茨城県教育委員会教育長へ十万原新住宅市街地開発事業地区(水戸ニュータウン)における埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて照会があった。これを受けて平成20年5月8日に茨城県教育庁文化課による試掘調査を実施した。その結果、竪穴建物跡1棟、古墳2基(いずれも円墳)、土坑4基、溝跡3条が確認されたため、その旨平成20年5月20日付文第261号にて回答され、水戸市教育委員会教育長あてに平成20年5月20日付文第262号において回答内容について通知があった。その後電話にて県文化課担当者より、試掘調査で確認された円墳2基のほかに、開発予定地の外側で遺跡地図に記載のない古墳が2基確認された旨の情報提供があった。これを受けて水戸市教育委員会事務局文化振興課(当時)にて現地での踏査確認を行った。(渥美)

踏査結果 従来遺跡地図に登載のあったものは、円墳1基(1号墳)と前方後円墳1基である。このうち前方後円墳として登載されていたものは、試掘調査で確認された円墳のうちの1基である(2号墳)。近接して発見された円墳は埋没古墳で新規発見によるものである(3号墳)。このほかに、水戸ニュータウン造成に伴って新たに取り付けられた道路を挟んで、西田川に面する台地突端部に2基の円墳を踏査により確認した(第138図)。突端部より少し奥に入った平坦面には直径3m、高さ0.5mほどの円墳があり(4号墳)、突端部には、径10m、高さ0.5mほどの円墳があった(5号墳)。この5号墳に近接して石碑があり、周辺には石棺石材と思しき破片が散乱する。石碑には、「追祀故人何某氏古墳」とあり、明治28年に石棺が発見され、内部から人骨と古刀(鉄製直刀カ)1振、矢根(鉄鎌カ)数本が発見されたとある。(渥美)

採集遺物 第139図・1～3は、2号墳周辺で採集された遺物である。1は須恵器の有台杯である。時期は9世紀前葉に位置付けられる。2は磁器の鉢である。推定生産地は肥前とみられる。3は陶器の皿で、菊皿である。(色川)



第138図 駒形端古墳群の位置



第139図 駒形端古墳群踏査採集遺物

第4表 土器・陶磁器・瓦観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
7	1	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ1・埋没内	縄文土器	—	—	—	条帯、角押文(1列)	—	余多・砂粒(白)	良好	にぶい・濃 (7.5YR5/4)・ にぶい・濃 (10YR5/3)	縄文時代中期後半「加得利1b式」
	2	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ1・埋没内	縄文土器	—	—	—	波状口縁、縄文R L	—	余多・砂粒(白多)	良好	赤黒(5YR4/6)	縄文時代中期後半「加得利1」～2式
	3	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ2・SX01	縄文土器	—	—	—	帯起線文、縄文R L	—	全	良好	にぶい・濃 (10YR5/4)・明 黒(7.5YR5/6)	縄文時代中期後半「加得利E2式」
	4	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ2・SX01	縄文土器	—	—	—	沈線文、縄文R L	—	砂粒(透)	良好	黒帯(2.5Y3/7)・ にぶい・濃 (7.5YR6/4)	縄文時代中期後半「加得利E2式」
	5	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ1・埋没内	縄文土器	—	—	—	沈線文、縄文L R	—	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい・濃 (10YR5/4)・灰 黄帯(10YR5/2)	縄文時代中期後半「加得利E3～4式」
	6	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ1・埋没内	縄文土器	—	—	—	沈線文、縄文L R、内面鈎線	—	砂粒(黒多・透多)	良好	にぶい・濃 (10YR5/3)	縄文時代中期後半「加得利E3～4式」
	7	片瀝跡 (第8地点)	トレンチ1・埋没内	縄文土器	—	—	—	条線文	—	砂粒(白・黒・透)	良好	にぶい・濃 (10YR5/3)・灰 黒(2.5Y6/2)	縄文時代中期後半「加得利E3～4式」
	8	片瀝跡 (第9地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	条帯	—	余多・砂粒(白)	良好	にぶい・濃 (10YR4/2)・ にぶい・濃 (10YR5/3)	縄文時代中期前半「阿玉台1b式」
	9	片瀝跡 (第9地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい・濃 (7.5YR6/4)・ 黒帯(10YR3/2)・ 明黒(7.5YR5/6)	縄文時代中期後半「阿玉台1b式」
11	1	合ノ出遺跡 (第1地点)	SI01上層	須恵器・無台杯	13.6	8.2	4.0	ロケ口水焼き成形	口径98% 底径100%	骨針、砂粒(白・透)	破損明瞭	灰(10Y6/1)	8世紀後半木葉下葉産
18	1	茨城高等学校遺跡 (第1地点・2次)	トレンチ1・表土	須恵器・陶磁器 灰黄	(10.2)	(4.1)	5.2	輪轆成形/染付/骨付無輪、内面口縁部二重鈎線、花文みみ一重鈎線、外面口縁部一重鈎線、山水文、高台部一重鈎線、高台部二重鈎線	1/2以下				在産地、19世紀以降
	2	茨城高等学校遺跡 (第1地点・2次)	トレンチ1・表土	須恵器・陶磁器 国民食器	(15.0)	10.2	5.4	輪轆成形/白土化新布心(包紙「緑」)/骨付無輪、内面口縁部二重鈎線、外面口縁部一重鈎線、底面に「萩原番子」	1/2以下				瀬戸・美濃、1941年代～1945年(戦時統制期)
	3	茨城高等学校遺跡 (第1地点・2次)	トレンチ1・表土	須恵器・仏具	—	3.8	(5.2)	輪轆成形/染付/表土無輪、外面口縁部二重鈎線	1/2以下				肥前
	4	茨城高等学校遺跡 (第1地点・2次)	トレンチ1・表土	陶器・陶磁器 白磁陶文器	9.7	3.6	5.3	輪轆成形、附り高竹ノ灰輪、白瓷・鈎線、骨付無輪/外面「梅枝文」/貫入あり	1/2以上				瀬戸・美濃
25	1	大塚遺跡 (第9地点)	表土	陶器	—	(5.6)	(2.7)	輪轆成形、系切底	1/2以下				近畿
30	1	大塚新地遺跡 (第6地点)	SI01	赤土土器	—	—	—	縄文Rを5番き(輪不明)	—	砂粒(白・黒)	良好	にぶい・濃 (10YR7/4)	弥生時代晩期
	2	大塚新地遺跡 (第6地点)	SI01	土師器・埴	(12.6)	—	(3.8)	外面口縁部ヨコナデ、内部「フ」削り、内面に「ミ」	口径7%	—	—	—	8世紀前期
	3	大塚新地遺跡 (第6地点)	SI01	土師器・埴	(12.0)	—	(5.1)	内外面ヨコナデ	口径5%	—	—	—	8世紀前期
	4	大塚新地遺跡 (第6地点)	SI01	土師器・埴	(19.4)	—	(2.9)	内外面ヨコナデ	口径10%	—	—	—	8世紀前期
35	1	大塚新地遺跡 (第9地点)	トレンチ2・SI02	赤土土器	—	—	—	縄文R×R	—	余多・骨針	良好	にぶい・濃 (10YR6/4)・灰 黄帯(10YR4/2)	弥生時代晩期後半「土台式」
39	1	釜神遺跡 (第4地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	条帯(押線あり)、縄文R L	—	砂粒(白・黒)	良好	にぶい・濃 (10YR6/4)	縄文時代晩期中葉「加得利B式」
	2	釜神遺跡 (第4地点)	トレンチ1・4層	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・透多)	良好	灰黄帯 (10YR4/2)・ にぶい・濃 (10YR6/4)	縄文時代晩期中葉「加得利B式」
	3	釜神遺跡 (第4地点)	トレンチ1・4層	縄文土器	—	—	—	帯系文?	—	砂粒(白・黒・透)	良好	にぶい・濃 (10YR5/4)・明 黒(7.5YR5/6)	縄文時代中期?
	4	釜神遺跡 (第4地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	波状口縁、沈線文	—	砂粒(白多・透多)	良好	黒(5Y2/1)・黒 帯(2.5Y3/1)	縄文時代晩期
	5	釜神遺跡 (第4地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文L R、外面に灰化物付着	—	砂粒(白・透多)	良好	黒(10YR2/1)・ にぶい・濃 (10YR4/3)	縄文時代晩期?
	6	釜神遺跡 (第4地点)	1号溝槽	平瓦	全長 (10.5)	厚さ 2.5	重量 273g	凹面布目瓦根、凸面長形明りき	—	砂粒(白多)	良好	灰オリーブ (5Y5/2)	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
40	8	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・陶 丸皿D	(8.4)	(3.6)	4.7	輪縁成形/染付/ 書付無施、アルミ ナリ付。内面口縁部 一重彫線。口縁 丸一重彫線。文様 あり。外面口縁部 一重彫線。底面 高台筋一重彫線。 高台筋二重彫線。	1/2 以下				前期。1740 年代～1860 年代
	9	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・陶 碗反碗D	(8.2)	(3.5)	4.5	輪縁成形/染付/ 書付無施。外面 黒染シ文	1/2 以下				瀬戸・美濃。 1840年代～ 1850年代
	10	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・陶 茶碗反碗B	(9.4)	(4.0)	4.8	輪縁成形/染付/ 内面口縁部 二重彫線。底 面文。足込一重 彫線。外面口縁部 一重彫線。草花文。 高台筋一重彫線。 高台筋二重彫線。	1/2 以下				前期。1830 年代～1870 年代
	11	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・器物 小坏形	(6.2)	(3.2)	2.8	輪縁成形/染付/ 書付無施。高受部 無施。外面口縁部 一重彫線。底面文 (格子文、斜格子 文)。高台筋一重 彫線。高台筋二重 彫線。	1/2 以下				前期
	12	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・皿 印形染付小皿	(10.0)	(5.6)	1.9	輪縁成形/染付/ 書付無施。内面口 縁部一重彫線。底 面文。外面底面文。 高台内底面文。	1/2 以下				在地産。19 世紀以降
	13	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・皿 変形型押文小皿	(13.8)	(6.9)	6.9	輪縁成形/染付/ 書付無施。足込山 形彫線文。外面 草染文。	1/2 以下				在地産。19 世紀以降
	14	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	磁器・皿 乾の白凹形高台 皿	—	—	(3.2)	輪縁成形/染付/ 書付無施。内面口 縁部一重彫線。底 面文。足込外底 面文。	1/2 以下				前期
	15	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・碗 裏面彫線	(9.6)	(4.5)	6.9	輪縁成形。刷付高 台/縁輪/高台無 施。	1/2 以下				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	16	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・碗 灰染反碗	(8.6)	(2.8)	4.5	輪縁成形。刷付高 台/灰輪/高台無 施。貫入あり	1/2 以下				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	17	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・小坏 腰形小坏	(6.2)	3.2	2.8	輪縁成形。刷付高 台/灰輪/高台無 施。	1/2 以下				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	18	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・仏教 具	(5.8)	—	(2.5)	輪縁成形/灰輪	1/2 以下				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	19	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・急須 蓋	最大径 7.2	受部径 5.1	高さ 3.2	輪縁成形。染付貼 付。刷付成孔(1) /灰輪。外面外特 に一重彫線。花文 。貫入あり。裏 面無施。滑蓋あり (存在文)	ほぼ 完形				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	20	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	陶器・土器 背土煎蓋	最大径 8.2	受部径 5.7	高さ 3.0	輪縁成形。刷付貼 付(染付)/縁輪。 裏面無施	ほぼ 完形				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	21	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	陶器・土器 背土煎蓋	最大径 8.6	受部径 6.3	高さ 3.5	輪縁成形。刷付貼 付(染付)/縁輪。 裏面無施	ほぼ 完形				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	22	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	焼陶器・燈火 受付皿	10.2	4.3	2.0	輪縁成形。糸切底 (凸) /灰輪/外 面彫線。底面輪 トナシ筋あり	完形				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	23	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	陶器・灯明皿	(7.2)	(3.0)	1.5	輪縁成形。糸切底 (凸) /縁輪。 足込外底面 彫線。外面底面 輪トナシ筋あり	1/2 以下				七瀬製陶所 産。1838年 ～
	24	釜神町遺跡 (第4地点)	1号遺構	土器・皿 小巾わらけ	5.4	4.5	0.7	輪縁成形。糸切底 (凸) /足込外 外周ナデ・甲突凸 状に残る	完形				在地産。近世 ～近代
43	1	瀬戸遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	沈隆文。縄文LR	—	砂粒(白・透 多)	普通	黄褐色(10YR5/6)。 に赤い斑點 (10YR5/4)・黒 点(10YR5/1)	縄文時代後期 前半「層之内 1式」
	2	瀬戸遺跡 (第1地点)	SD02	縄文土器	—	—	—	沈隆文。縄文RL	—	砂粒(白・黒)	良好	に赤い斑點 (10YR7/4)・黒 点(10YR3/1)	縄文時代後期 前半「層之内 1式」
	3	瀬戸遺跡 (第1地点)	SD01 拡張部	縄文土器	—	—	—	灰化付。刷線文 (刷みあり)。沈隆 文	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	に赤い斑點 (10YR7/4)・黒 点(10YR3/1)・黒 点(10YR7/6)・黄 褐色(10YR5/6)	縄文時代後期 前半「層之内 2式」
	4	瀬戸遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	沈隆文	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	に赤い斑點 (7.5YR5/4)・黒 点(10YR3/1)	縄文時代後期 前半「層之内 2式」
	5	瀬戸遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	沈隆文。縄文LR	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	に赤い斑點 (7.5YR5/4)・黒 点(10YR3/1)	縄文時代後期 前半「層之内 1式」
	6	瀬戸遺跡 (第1地点)	SD01	縄文土器	—	—	—	縄文LR。内面刷 線	—	余多砂粒(白 普通)	普通	明褐色 (7.5YR5/6)・ に赤い斑點 (10YR6/4)	縄文時代後期 前半「層之内 1式」

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
43	7	堀江遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文LR	—	砂粒(白多・透多)	良好	黄黒(2.5Y5/3)	縄文時代後期前半「堀之内」
	8	堀江遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	(8.1)	[3.4]	外面ナデ	底径19%	砂粒(白・黒・透多)	良好	にぶい・濃青(10YR7/4)・濃黄(2.5Y7/4)	縄文時代後期前半「堀之内」
	9	堀江遺跡 (第1地点)	SD01	平瓦	全長(5.7)	厚さ(2.4)	重量(99g)	凹面布目正直。凸面の4分の3が削付。再付無縁。外面口縁部環状凹面(「壺」身)。高台輪帯付文。高台部一帯磨輪。内面足込小輪。トコバルト突付「一貫ノ一林」等器底文。	—	骨針、砂粒(黒多・透多)	良好	にぶい・濃青(10YR7/4)	生産地不明、近代後期
49	1	別右橋遺跡 (第1地点)	表土	磁器・陶 丸形燗高b	(8.6)	(3.2)	4.7	磨輪成形/磨輪/削付無縁。外面口縁部環状凹面(「壺」身)。高台輪帯付文。高台部一帯磨輪。内面足込小輪。トコバルト突付「一貫ノ一林」等器底文。	1/2以下	—	—	—	生産地不明、近代後期
	2	別右橋遺跡 (第1地点)	表土	磁器・陶	11.6	4.1	5.6	磨輪成形/磨輪/削付無縁。外面口縁部環状凹面(「壺」身)。	1/2以上	—	—	—	生産地不明、近代後期
68	1	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	陳帯。縄文LR	—	余多。砂粒(砂)	良好	にぶい・濃青(10YR5/3)	縄文時代(中期「大木8a」8b式)
	2	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	表皮口縁。隆起線文。縄文RL	—	砂粒(黒多・透多)	良好	にぶい・濃青(10YR5/3)	縄文時代(中期後半「加賀川1式」)
	3	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	沈線文。縄文RL	—	砂粒(白・透)	普通	にぶい・濃青(10YR6/4)	縄文時代(中期後半「加賀川1式」)
	4	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文LR。外面に炭化物付着	—	粗。砂粒(良)	良好	黒濁(2.5Y3/2)	縄文時代(中期)
	5	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	土師器・有台杯	—	(7.2)	(2.1)	内面黒色処理。ヘラミカキ	底径10%	余多。砂粒(黒)	普通	にぶい・濃青(7.5YR7/4)・黒(10YR2/1)	9世紀中葉～後葉
	6	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・無台杯	(13.0)	(8.0)	3.9	ロクロ水挽き成形	口径18% 底径21%	砂粒(白)	硬質 磨輪	黄灰(2.5Y4/1)	8世紀中葉～後葉
	7	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	須恵器・無台杯	(14.2)	(8.2)	4.8	ロクロ水挽き成形	口径21% 底径19%	骨針。砂粒(砂)	硬質 磨輪	黄灰(2.5Y6/1)・灰黄(2.5Y6/2)	8世紀中葉～後葉
	8	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・杯	(14.4)	—	[3.9]	ロクロ水挽き成形	口径13%	砂粒(白多)	硬質 磨輪	灰(7.5Y5/1)・灰(7.5Y4/1)	9世紀前期葉
	9	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	須恵器・無台杯	—	(7.4)	[3.5]	ロクロ水挽き成形	底径39%	骨針。砂粒(砂)	硬質 磨輪	にぶい・濃青(10YR5/4)・黄黒(2.5Y5/3)	9世紀後葉
	10	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・有台杯	(13.2)	—	[4.6]	ロクロ水挽き成形	口径12%	骨針。砂粒(白・透多)	硬質 磨輪	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～後葉
	11	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・有台杯	—	7.2	[2.9]	ロクロ水挽き成形	底径66%	砂粒(白・透)	硬質 磨輪	灰(10Y4/1)・灰白(7.5Y5/2)	9世紀前期葉
	12	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・有台盤	(20.0)	(14.0)	3.2	ロクロ水挽き成形	口径14% 底径6%	砂粒(白)	硬質 磨輪	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～後葉
	13	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・有台盤	—	(15.6)	[2.0]	ロクロ水挽き成形。後面内面に磨輪あり。底外面に磨輪あり	底径11%	砂粒(白・透)	硬質 磨輪	黄灰(10YR6/1)	8世紀中葉～後葉
	14	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	須恵器・有台盤	—	(14.5)	[3.2]	ロクロ水挽き成形。外面に炭化物付着	底径23%	砂粒(白・黒)	硬質 磨輪	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～後葉
	15	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2	須恵器・有台盤	—	(10.6)	[2.9]	ロクロ水挽き成形	底径17%	砂粒(白)	硬質 磨輪	黄灰(10YR6/1)	9世紀前期葉
	16	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・有台盤	—	(14.4)	[3.9]	ロクロ水挽き成形	底径35%	骨針。砂粒(砂)	硬質 磨輪	黄灰(2.5Y6/1)	9世紀前期葉
69	17	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・高盤	—	—	[10.0]	ロクロ水挽き成形。四方透し?	—	骨針。砂粒(白・黒)	硬質 磨輪	灰(5Y5/1)	8世紀中葉～後葉
	18	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.2]	ロクロ水挽き成形	—	粗多・透	硬質 磨輪	黄灰(2.5Y5/1)・黄灰(2.5Y4/1)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	19	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[3.4]	ロクロ水挽き成形	—	骨針。砂粒(白・透)	硬質 磨輪	灰黄黒(10YR5/2)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	20	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.2]	ロクロ水挽き成形	—	砂粒(白)	硬質 磨輪	灰(7.5Y5/1)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	21	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・蓋	(22.0)	—	[3.2]	ロクロ水挽き成形	口径14%	砂粒(白・透)	硬質 磨輪	灰(5Y5/1)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	22	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・蓋	—	—	[1.9]	ロクロ水挽き成形。内面にヘラ削りあり	—	骨針。砂粒(砂)	硬質 磨輪	黄灰(2.5Y6/1)・黄灰(2.5Y4/1)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	23	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.7]	ロクロ水挽き成形	—	砂粒(白・透)	硬質 磨輪	明灰黄(2.5Y5/2)	8世紀前期葉～9世紀前期葉
	24	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ1・SD01 確認面	須恵器・蓋	—	—	—	外面平打線文型。内面に磨輪付。底面に磨輪付。高台部凹面布目正直	—	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい・濃青(10YR5/3)・にぶい・濃青(10YR5/3)	8世紀前期葉。多量磁石
	25	竹鹿里遺跡 (第43次)	トレンチ2・SD02 上層	軒丸瓦	全長(17.4)	厚さ(1.5)	重量(1.354g)	表文線帯付五弁蓋華文(3121型式)。底面に磨輪付。高台部凹面布目正直	—	砂粒(白多)	良好	黄(7.5YR7/6)	8世紀前期葉。多量磁石

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
					全長 (13.7)	厚さ 1.8	重量 44.6g						
69	26	竹屋町遺跡 (第43地点)	トレンチ1・ SD01 確認面	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27	竹屋町遺跡 (第43地点)	トレンチ2	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28	竹屋町遺跡 (第43地点)	トレンチ1・ SD01 確認	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29	竹屋町遺跡 (第43地点)	トレンチ1・ SD01 確認面	土器・内瓦土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
76	1	長谷山遺跡 (第3地点)	SK02 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	長谷山遺跡 (第3地点)	SK03 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	長谷山遺跡 (第3地点)	SK03 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 覆土	縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 覆土	土器・かわらけ	—	6.0	[1.0]	輪軸成形, 糸切底 (不明)	1/2 以下	骨針, 砂粒 (白・黒・赤)	良好	明黄緑 (10YR7/6)	中世・近世
	9	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 覆土	土器・かわらけ	—	4.4	[1.3]	輪軸成形, 糸切底 (不明)	1/2 以下	骨針, 砂粒 (白・赤)	良好	明黄緑 (10YR7/3)	中世・近世
	10	長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1	土器	—	(20.0)	[5.1]	輪軸成形	1/2 以下	砂粒 (黒)	良好	明黄緑 (10YR7/3)・明 黄緑 (10YR7/6)	近世か
79	1	寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	弥生土器	—	—	[4.0]	2本同時施文具 (3.5mm) による 縦施文, 横(しそ Z字巻き(輪不明)	—	砂粒 (白・赤)	良好	明黄緑 (10YR6/3)	弥生時代中期 後半～後前期
	2	寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ2	弥生土器	—	—	—	縦文しそ巻き (輪不明) → しそ Z字巻き(輪不明), 内面縦線	—	砂粒 (白・黒・赤)	良好	明黄緑 (10YR7/4)・浅 黄 (2.5Y7/4)	弥生時代後期 後半
	3	寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	弥生土器	—	—	—	縦文しそ巻き (輪不明)	—	砂粒 (黒多・赤多)	良好	明黄緑 (10YR6/4)・明 黄 (10YR4/1)	弥生時代後期 後半
	4	寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土師器・甕	(18.0)	—	[3.5]	報告口縁, 内外面 横穴ヘラナデ	口径 2%	骨針, 砂粒 (白多・赤多)	良好	明黄緑 (7.5YR6/4)・橙 (5YR6/6)	古墳時代前期
	5	寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ2	土師器・無付环	—	(9.4)	[1.6]	ロクロ水挽き成形	底径 26%	砂粒 (白・赤)	良好	明黄緑 (10YR6/4)・明 黄 (10YR4/1)	9世紀
90	1	舞山遺跡 (第5地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面骨針目文取 巻, 内面青波文	—	砂粒 (白)	破損 明顯	黄 (2.5Y2/1)・ 黄灰 (2.5Y4/1)	8～9世紀
95	1	風道跡 (第15地点)	SI01	土師器・甕	(23.0)	—	[3.9]	内外面ヨコナデ	口径 8%	砂粒 (白多・赤多)	良好	明黄緑 (10YR6/4)・黒 曜 (10YR5/1)・ 明灰 (10YR4/1)	8～9世紀
	2	風道跡 (第15地点)	表探	須恵器・無付环	—	(7.7)	[2.8]	ロクロ水挽き成形	底径 28%	骨針多, 砂粒 (白多)	破損 明顯	灰オリーブ (5Y5/2)	9世紀
102	1	向山遺跡 (第2地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	条痕文	—	繊維, 砂粒 (白 多)	良好	明黄緑 (10YR6/4)	縄文時代早期 後半
	2	向山遺跡 (第2地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縦文 L 形?	—	繊維, 砂粒 (白 多・赤多)	良好	明黄緑 (10YR4/2)	縄文時代前期 前半・弥生 文系土器部?
	3	向山遺跡 (第2地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縦文, 半輪骨質 土具上による黄灰文	—	繊維, 砂粒	良好	明黄緑 (10YR6/4)	縄文時代前期 後半・弥生 文系土器部?
111	1	渡野町遺跡 (第9地点)	トレンチ2 確認	縄文土器	—	—	—	沈灰文, 縦文 L R	—	砂粒 (白・黒)	良好	橙 (7.5YR7/6)	縄文時代中期 後半・加賀利 E2式
	2	渡野町遺跡 (第9地点)	トレンチ2・ SI01 確認面	土師器・甕	(20.0)	—	[8.1]	外面口縁部ヨコナ デ, 胴部縦穴ヘラ ナデ, 内面口縁部 ヨコナデ, 胴部縦 斜穴ヘラナデ	口径 22%	砂粒 (白・赤)	良好	明黄緑 (10YR7/4)	8世紀
	3	渡野町遺跡 (第9地点)	トレンチ2・ SD01 確認面	須恵器・無付环	(13.8)	(7.6)	4.4	ロクロ水挽き成形	口径 16% 底径 10%	骨針, 砂粒 (白・赤)	破損 明顯	灰 (10Y6/1)	9世紀後半
117	1	大車遺跡 (第9地点)	SI01	土師器・甕	12.2	—	4.9	口縁部骨針, 外面 に輪軸成形あり, 内面ヘラミガキ	口径 54%	砂粒 (白多・赤多)	良好	橙 (5YR6/6)・ 黒曜 (5YR3/1)	8世紀前半
	2	大車遺跡 (第9地点)	SI01	須恵器・甕	(16.0)	—	3.2	ロクロ水挽き成形	口径 25%	白多, 砂粒 (白多)	破損 明顯	明黄緑 (10YR6/6)	新石器(一丁 山部遺跡), 8世紀後半

図版	番号	遺跡名 (第10地点)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考	
					口径	底径	器高							
122	1	大淵町遺跡 (第10地点)	SI02 東方緩 下層	縄文土器	—	—	—	灰状口縁、辻線文	—	砂粒(白)	良好	赤い・黒 (7.5YR7/4)・橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期 後半「加普利 E2式」	
	2	大淵町遺跡 (第10地点)	SI02 西側覆 土	縄文土器	—	—	—	沈線文、縄文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	赤い・黒 (10YR8/2)・ 赤い・黄黒 (10YR4/3)	縄文時代後期 前半「繩之内 2式」	
	3	大淵町遺跡 (第10地点)	—	—	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白・透)	普通	赤い・黒 (10YR5/4)・黒 黒(10YR3/2)	縄文時代
	4	大淵町遺跡 (第10地点)	表土	縄文土器	—	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	暗赤 (2.5YR2/2)・赤い 黄(2.5YB/3)	縄文時代
	5	大淵町遺跡 (第10地点)	SD01 西側覆 土	縄文土器	—	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多)	良好	黒灰(10YR4/1) に赤い・黄黒 (10YR5/3)	縄文時代
	6	大淵町遺跡 (第10地点)	SD01	弥生土器	(13.4)	—	(3.6)	口唇部縄文痕跡に よる跡のみ、口縁部 灰文、胎土(胎土 による何れ)1条、 磨砕灰土具(3 本?)により縦位 →横位	—	砂粒(黒・透)	良好	灰黄緑 (10YR5/2)・ 赤い・黄黒 (10YR5/3)	弥生時代後期 後半「土台式」	
	7	大淵町遺跡 (第10地点)	SI02 北ベル ト	弥生土器	—	—	—	除部(棒状工具に よる押印)1条以 上、磨砕灰土具(3 本)により縦位→ 横位	—	砂粒(白)	良好	暗黒(10YR3/3) 黒(10YR4/4)	弥生時代後期 後半「土台式」	
	8	大淵町遺跡 (第10地点)	表土	弥生土器	—	—	—	—	縄文R×R→L× L	—	砂粒(白)	良好	赤い・黄黒 (5YR6/6)	弥生時代後期 後半「土台式」
	9	大淵町遺跡 (第10地点)	表土	弥生土器	—	—	—	—	縄文L R + 2 R → R L + 2 L、外面 に灰化物付着	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黄緑 (10YR4/2)・ 赤い・黄黒 (10YR5/3)	弥生時代後期 「二軒層式」
	10	大淵町遺跡 (第10地点)	SI03 内 SK06 覆土	弥生土器	—	—	—	—	縄文L R + 2 R → R L + 2 L、底面 木炭痕	—	砂粒(白)	良好	赤い・黄黒 (10YR6/3)	弥生時代後期 「二軒層式」
	11	大淵町遺跡 (第10地点)	SI02 縁部	弥生土器	—	7.5	(4.5)	—	縄文L R + 2 R → R L + 2 L、底面 木炭痕	底径 100%	砂粒(白多・ 透多)	良好	明黄緑 (7.5YR5/6)・ 赤い・黄黒 (10YR5/3)	弥生時代後期 「二軒層式」
	12	大淵町遺跡 (第10地点)	SI03 内 SK06 覆土	土師器・甕	(15.0)	(5.6)	10.0	内外面に輪轆みあり	口径 30% 底径 43%	砂粒(白多・ 透多)	良好	明黄緑 (10YR7/6)・ 赤い・黄黒 (10YR6/4)	6世紀前期	
	13	大淵町遺跡 (第10地点)	表土	土師器・甕	(18.0)	—	(4.7)	—	外面ヨコナデ、内 面縦位ヘラナデ	口径 6%	砂粒(白・黒・ 透)	良好	橙(5YR6/6)・ 赤い・黄黒 (5YR6/6)・黒 黒(2.5Y3/1)	6世紀前期
	14	大淵町遺跡 (第10地点)	SD01、 SK01、SK03	土師器・杯	(15.0)	—	5.5	外面口縁部ヨコナ デ、体部へつ削り、 内面ナデ?	口径 61%	砂粒(白多)	良好	橙(5YR6/8)	6世紀前期	
	15	大淵町遺跡 (第10地点)	SI03 覆土	土師器・杯	(10.0)	—	4.8	外面口縁部ヨコナ デ、体部へつ削り、 内面ナデ?	口径 17%	砂粒(白・透)	良好	橙(2.5YR6/8) →黒黒(5YR2/1)	6世紀前期	
	16	大淵町遺跡 (第10地点)	SD01	土師器・杯	(14.5)	—	4.5	外面口縁部ヨコナ デ、体部へつ削り、 内面口縁部ヨコナ デ	口径 7%	砂粒(白多・ 透多)	普通	明赤黒 (5YR5/6)・灰黄 黒(10YR4/2)	6世紀前期	
	17	大淵町遺跡 (第10地点)	SD01	土師器・杯	(14.0)	—	4.5	外面口縁部ヨコナ デ、体部へつ削り、 内面口縁部ヨコナ デ	口径 19%	砂粒(白)	良好	黒(7.5YR4/3)	6世紀前期	
	18	大淵町遺跡 (第10地点)	SI01 東方	土師器・杯	(15.4)	—	(3.8)	内面黒色刷毛、横 位ヘラミナデ	口径 18%	砂粒(白・黒・ 透)	良好	明黄緑 (10YR7/6)・黒 (10YR2/1)	9世紀	
	19	大淵町遺跡 (第10地点)	—	平瓦	全長 (2.8)	厚さ (2.0)	重量 35g	凸面へつ削り	—	砂粒(白)	良好	黒黒(10YR3/2)		
127	1	原民院遺跡 (第3地点)	SK01	縄文土器	—	—	—	踏起線文	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黄赤(2.5Y7/4)・ 黒多 (2.5Y6/3)	縄文時代中期 後半「加普利 E2式」	
	2	原民院遺跡 (第3地点)	確認面	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(黒・透)	良好	黄赤(2.5Y7/4)	縄文時代中期	
	3	原民院遺跡 (第3地点)	SK01	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白・透)	良好	黄赤(2.5Y5/3) に赤い・黄 (2.5Y6/3)	縄文時代後期	
	4	原民院遺跡 (第3地点)	基本層序2 層	弥生土器	—	—	—	2本同時焼付 (4.5cm)により 縦位→横位	—	針状	良好	赤い・黄 (2.5Y6/4)	弥生時代中期 後半	
	5	原民院遺跡 (第3地点)	基本層序2 層	弥生土器	—	—	—	縄文L RをS形き (輪不明)	—	砂粒(透多)	良好	黒黒(10YR3/2)	弥生時代中期 後半	
	6	原民院遺跡 (第3地点)	基本層序2 層	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文明き	—	砂粒(白・黒)	硬質 明緑	オリーブ黒 (7.5Y3/2)		
	7	原民院遺跡 (第3地点)	確認面	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文明き	—	砂粒(白・黒)	硬質 明緑	黄灰(2.5Y5/1)		
	8	原民院遺跡 (第3地点)	確認面	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文明き	—	砂粒(白・透)	冷冷 硬質	灰(N4/0)	木葉下産物	
	9	原民院遺跡 (第3地点)	—	土師器・甕	(8.8)	(10.3)	底径 28%	外面縦位ヘラミナ デ、内面ヘラナデ、 底面木炭痕、外面 に灰化物付着	—	黒多・砂粒(白 多)	良好	黄赤(2.5Y5/4)・ 赤い・黄黒 (10YR5/3)	明治産、8世 紀	
133	1	東大野遺跡 (第1地点)	確認面	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文明き	—	砂粒(黒)	硬質 明緑	灰(7.5Y4/1)・ 灰(5Y6/1)		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
133	2	東大野遺跡 (第1地点)	SD01	磁器・碗 不明	—	(4.0)	[1.7]	輪軸成形/染付/ 書付無施。内面見 えみ。二重脚線。一 年輪。外面高台 胎一重脚線。高台 胎二重脚線。	破片				瀬戸・美濃 1810年代以降
	3	東大野遺跡 (第1地点)	SD01	土器・かわらけ	(11.0)	(8.0)	2.1	輪軸成形。糸切足 (不明)	1/2 以下		良好	にぶい焼 (2.5Y6/4)	在地産。近世
135	1	水戸磁鉢 (第20次)	トレンチ	土器・甕	—	(20.0)	[5.4]		底径 21%	粗多。砂粒(白 多)	普通	にぶい噴焼 (10YR5/3)	近世以降
	2	水戸磁鉢 (第20次)	トレンチ	土器・かわらけ	(12.4)	—	[3.1]		口径 24%	砂粒(黒・透 多)	普通	明赤焼 (5YR5/6)・にぶ い焼(7.5YR6/4)	近世
	3	水戸磁鉢 (第20次)	片戸屋形 トレンチ1 程ウツゴテ	椀瓦	全長 26.7	厚さ 1.9	重量 2.150g			完形	破貫	灰(N4/)	江戸時代後期
	4	水戸磁鉢 (第20次)	孔子廟門土柱 トレンチ1	椀瓦	全長 (12.4)	厚さ 3.3	重量 625g	板作り成形。文様 彫刻付/格子目 文。文様内に漆線 による細行。打染 残存1ヶ所。漆喰 残存	—		破貫	灰(7.5Y5/1)	江戸時代後期
	5	水戸磁鉢 (第20次)	孔子廟門控 土柱 トレンチ1	不明	全長 (6.8)	厚さ 3.4	重量 97.5g		—		破貫	灰(7.5Y6/1)	江戸時代後期
137	1	周知内 (河越町 636番地)	表採	須恵器・無台杯	(14.2)	8.4	4.5	ロクロ水挽き成形	口径 2% 底径 63%	砂粒(白多)	破貫 型織	灰(7.5Y5/1)・ 黄灰(2.5Y5/1)	8世紀中葉 木置下遺産
	2	周知内 (河越町 636番地)	表採	須恵器・蓋	—	—	[2.0]	ロクロ水挽き成形	—	砂粒(白)	破貫 型織	暗灰(2.5Y5/2)・ 黄灰(2.5Y6/1)	8世紀前期 木置下遺産
139	1	駒形端古墳群	2号墳周辺 表採	須恵器・有台杯	—	(9.4)	[2.8]	ロクロ水挽き成形	底径 27%	骨針.. 砂粒 (白)	破貫 型織	灰(7.5Y6/1)・ 灰白(5Y7/1)	9世紀前期
	2	駒形端古墳群	2号墳周辺 表採	磁器・鉢	—	(6.7)	[4.0]	輪軸成形/染付/ 書付無施。内面区 曲文(花唐草文)。 見込の一重脚線 文様あり。外面花 唐草文。高台胎一 重脚線。高台胎二 重脚線。	1/2 以下				肥前
	3	駒形端古墳群	2号墳周辺 表採	陶器・皿 菊置	—	(13.0)	3.3	輪軸型押成形/灰 胎/書付無施。高 台内無施。外面散 粒状に化粧。買入 あり	1/2 以下				在地産

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

第4表 凡例

※「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」: 金色を呈する風化した黒雲母片(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

「銀」: 銀色を呈する風化した白雲母片(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

「青銅」: 白色針状物質とも表記される海綿骨針(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

「白」: 白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

「黒」: 黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

「透」: 透明で石英と考えられる粒子(さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する)。

第5表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
39	7	釜神町遺跡(第4地点)	トレンチ1・4層	分刺形打製石片	ホルンフェルス	94.5	71.0	14.5	96.89	
	6	寺内遺跡(第2地点)	トレンチ1	短長削片	珪質頁岩	63.0	58.5	26.0	28.25	
79	7	寺内遺跡(第2地点)	トレンチ2	削片	ガラス質黒色火山岩	23.0	36.5	8.5	3.47	
111	4	鹿野町遺跡(第9地点)	トレンチ2掘込	削片	ホルンフェルス	48.0	45.0	12.0	14.33	
122	20	大塚町遺跡(第10地点)	S303	磨石	砂岩	98.0	38.5	30.5	17.30	

第6表 金属器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
117	3	大車遺跡(第9地点)	S301	鎌	鉄	123.5	33.5	3.0	34.47	
	4	大車遺跡(第9地点)	S301	刀子	鉄	80.0	15.0	4.0	6.99	木質残る。
133	4	東大野遺跡(第1地点)	S001	樽首	真鍮	38.5	17.5	9.0	2.65	

第7表 銭貨観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	銭名・銭種	初鑄造年 (鑄造年)	外径	穿径	最大厚	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
7	10	江遺跡(第9地点)	トレンチ2	寛永通寶(新寛永)	寛文8(1668)年	2.2	0.7	0.1	2.1	割一文銭
40	25	釜神町遺跡(第4地点)	1号遺構	寛永通寶(新寛永)	寛文8(1668)年	2.3	0.1	4.0	2.1	割一文銭。緑青著しい
49	3	堀内橋遺跡(第1地点)	ローム土	寛永通寶(新寛永)	寛文8(1668)年	2.2	0.7	0.1	1.8	割一文銭

・計測値は、残存する状態で最大の値である。

第6章 釜神町遺跡（第4地点）出土黒地蒔絵箱物の保存処理と分析

第2章の「2-16 釜神町遺跡（第4地点）」において報告したように、第1号遺構から黒地蒔絵箱物とみられる漆製品が出土した。本資料は市内初の発見であり、水戸藩の武家の生活を具体的に物語る出土品として意義の深いものであることから、恒久的に保存し、公開・活用を図っていくためにも保存強化処理が急務であった。市教育委員会事務局は、株式会社京都科学と保存処理業務委託契約を締結し、展示等に耐えられるよう、2点の資料の補強処理を行った。以下では、保存処理の方法と保存処理方針の参考とするために実施した塗膜構造分析の結果を報告する。（関口）

6-1 保存処理の方法と経過

1. はじめに

釜神町遺跡出土の黒地蒔絵箱物は出土後、切取られて弊社施設内に搬入された。状態を確認すると、非常に脆弱だが表面の蒔絵文様が比較的よく残っており、所々に朱漆らしき残片と肌色の残片が散見された。乾燥または腐朽・劣化の促進を避けるため、湿潤状態を維持したまま冷暗所にて保管した。

保存処理方針の参考とするために、株式会社パレオ・ラボに塗膜構造の調査・分析を依頼した。特に肌色に見える膜状物質が何なのか知っておく必要があると考えた。その結果、下記の4点の事実が判明した（6-2参照）。

- ①木胎の大部分はすでに消失しているが、針葉樹である。
- ②肌色に見えた部分は下地（おそろい砥粉）である。
- ③外面が蒔絵で内面が朱漆の製品である。
- ④金蒔絵の上には漆が重ねられていない。

2. 保存処理

まず表面に付着した泥土を、筆とエタノールを使用して慎重に除去した。上記④より金部分の流出が懸念されたので、それを防ぐ目的で表面にアクリル樹脂（パラロイドB-72；ロームアンドハース社）を塗布した。樹脂表面が乾いた後、HPCシートを用いて表面を養生した。HPCシートとは和紙にヒドロキシプロピルセルロース（HPC）を浸み込ませて乾燥させたもので、少量のエタノールで対象物の表面に貼り付けることができるよう調整したシートである。その後遺物を反転させ裏面の土を丁寧に除去し、朱漆面を表出させた。

そして資料内部に僅かに遺存している木質部に保存処置を施すべく、糖アルコール溶液を塗布含浸した。

また裏面の土を除去していく過程で、一方は裏側が朱漆面の部材で、もう一方は黒漆面の部材であることが確認できた。この黒漆面を持つ部材は、金銅製の金具が取り付けられていることが判明した。出土時の状況から見ると、金銅製金具付き黒漆金彩製品の上に外面蒔絵内面朱漆製品が重なっていることになる。

この二製品を分離すべく、以下の手順で作業を進めた。

- i. 二製品間の土部分にメスを慎重に入れる。
- ii. できた隙間にシリコンシートを挟み込む。
- iii. 隙間にエタノールを少量注ぐ。
- iv. 再度メスを入れる

上記iからivを徐々に繰返して二製品を分離した。分離した後、土を除去して朱漆面と黒漆面を表出させた。土除去後の状態を観察すると、やはり木胎はほとんど遺存していなかったが、金銅製金具が取り付けられた場所のみ厚みが残っていた。これは銅成分が木質部分に浸潤したことで、金具付近のみ形状が保持されたと考える。しかしながら漆膜しか遺存していない箇所は強度がなく、取扱いに苦慮するので塩素未使用漂白の極薄和紙をアクリル樹脂で裏打ちし補強した。その後表面のHPCシートを慎重に外した。

内外面ともに漆膜がよく残っているため、両面を観察できる方法を模索した。非常に脆弱なため、亀裂部や空隙部に塩素未使用漂白極薄和紙をアクリル樹脂で裏打ち（表打ち）した。次に和紙を遺物の周囲に約3cm幅で掛け

クリル樹脂で接着し、擬土（裏面土+HPC）を約1.5cm幅で成形することで全体的な強化を試みた。

擬土を使用した理由として、

- ・製品の完形像が把握できていないこと
 - ・非常に脆弱なため周囲を固めないで取扱い時に危険度が増すこと
 - ・出土時の雰囲気に近い展示ができること
- が挙げられる。

周囲の擬土を成形後、余白状に残った和紙（幅約1.5cm）を塩ビ製の『ロ』の字形枠中にHPCで固着させた。それを透明アクリル板で挟み、ポリカーボネイト製のビスで固定した（原色図版2中段）。緩衝材として、アクリル板と和紙との間にシリコンシート（0.5mm）を挿入した。アクリル板に固定された状態で展示・保管できるので、実物に直接触れずに両面の観察が可能となり、取扱い時の危険性が軽減される。これを二部材分作製し、個々の部材で表裏を観察・展示できるようにした。

（株式会社京都科学製造部製造二課 平井孝憲）

6-2 塗膜分析

1. はじめに

釜神町遺跡（第4地点）第1号遺構から、江戸時代と推定される金の蒔絵を施した黒地蒔絵箱物出土した。ここでは、この黒地蒔絵箱物について光学顕微鏡観察による塗膜観察、X線分析および赤外分光分析を行い、塗膜の構造および材料を検討した結果を報告する。なお、塗膜の顕微鏡観察と赤外分光分析は藤根が担当し、X線分析は竹原が担当し、藤根がまとめた。

2. 試料と方法

分析試料は、箱状漆器の各々直交する部材2点（ここでは、試料No.1を部材A、試料No.2を部材Bと呼ぶ。）である（第8表、原色図版4の1a, 2a）。なお、その他の塗膜片について顕微鏡観察を行った（原色図版3）。

第8表 漆器内面付着黒色物と塗膜分析結果

試料No.	器種	部材	地点	遺構	時代	下地層	塗膜層
1	黒地蒔絵	A	第4地点	第1号遺構	江戸	b1・b2: 粘土, b3: 炭粉	c1: 水銀赤色, c1': 漆, c2: 金粉
2	箱物	B				b1・b2: 粘土, 炭粉	c1: 漆, c2: 金粉

分析は、光学顕微鏡による塗膜観察、X線分析および赤外分光分析を行った。薄片は、エポキシ樹脂で埋めした後、精密研磨フィルム2000～8000番を用いて研磨し、断面プレパラートを作製した。プレパラートは、光学実体顕微鏡による観察の後、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。

また、漆成分を調べるために、赤外分光分析を行った。試料は、塗膜の表面部分において手術用メスなどを用いて0.2mm角程度を薄く削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ1mm程度に切断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3. 結果および考察

箱状漆器は、出土状況から箱の各々直交する部材と推定されている。以下に、塗膜薄片の光学顕微鏡観察およびSEM反射電子像観察およびX線分析の結果について述べる。なお、各部材の代表的な塗膜のX線分析結果は第9表に示す。

部材A（試料No.1）は、厚さ約200 μ mであり、肉眼的に4層に区分された。塗膜薄片の光学顕微鏡観察では、下地層（b1～b3層）と塗膜層および金粉層からなる。下地層は、黒色の薄層を境にして、石英などの粒子を含む

シルト質粘土層の厚さ 20 μm 以下の b1 層, シルト質粘土層の厚さ約 100 μm の b2 層, 微細な炭粒子からなる 5 μm 以下の炭層の b3 層である。塗膜層は, 前述の下地層の下位層として水銀 (Hg) を含む赤色の厚さ約 20 μm の c1 層, 透明淡褐色の厚さ約 70 μm の塗膜層の c2 層, 不連続の金粉層からなる c3 層である (原色図版 4-1b)。なお, 金粉は原色図版 4 では含まれていなかったため, X線分析は表面の金部分について行った。金粉層は, 塗膜の表面に接しており, 塗膜により被覆されていない。木胎は, 腐朽したため残存しない。

一方, 部材 B (試料 No. 2) は, 厚さ約 380 μm であり, 肉眼的に 3 層に区分された。塗膜薄片の光学顕微鏡観察では, 下地層 (b1 ~ b3 層) と塗膜層および金粉層からなる。

第 9 表 塗膜の各層のエネルギー分散型 X 線分析結果

試料No.	部材名	点分析層	C	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	Cl	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	FeO	Au	HgO	合計	
1	A	① c2	96.02	0.29	2.85	0.15	—	—	—	—	—	—	0.70	—	—	100.01
		② b2-石 灰	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.00
		③ b2	—	10.11	81.43	1.33	—	2.62	—	—	—	4.52	—	—	—	100.01
		④ c1	48.58	2.85	7.56	12.16	—	—	—	—	—	—	1.83	—	27.02	100.00
		⑤ c3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	100.00
2	B	① c2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	100.00
		② c1	93.03	0.62	4.63	—	—	0.14	0.38	—	—	—	1.21	—	—	100.01
		③ b2	—	11.43	71.92	—	—	1.76	—	0.95	—	—	13.94	—	—	100.00
		④ b1	—	14.25	70.73	—	—	2.18	—	1.17	—	—	11.67	—	—	100.00
		⑤ (b1)	—	18.60	65.90	—	—	—	—	—	—	—	15.50	—	—	100.00

下地層は, 淡褐色酸化層を境にして最大 35 μm の粒子を含む厚さ 120 μm のシルト質粘土層の b1 層, 同様のシルト質粘土層の b2 層, 微細な炭粒子からなる厚さ 20 μm 以下の黒色層の b3 層である。塗膜層は, 透明淡褐色の塗膜層の c1 層, 不連続の金粉層の c2 層である (原色図版 4-2b)。金粉層は, 塗膜層の表面に接しており, 塗膜により被覆されていない。

なお, 木胎は, 試料 No. 1 と 2 のいずれにおいても腐朽し, 木材組織は確認されない。一方, 他の塗膜片では, シルト質粘土層に挟まれた薄い木胎が確認され, 光学顕微鏡では仮道管と放射柔細胞が確認できたことから針葉樹であった。部材 A (試料 No. 1) に見られた b1 層と b2 層の境にある黒色の薄層が木胎の痕跡と推測される。

部材 A (試料 No. 1) の塗膜 c2 層および部材 B (試料 No. 2) の塗膜 c1 層の赤外分光分析では, 漆の成分であるウルシオール吸収ピーク (No. 6 ~ No. 8) と一致したことから, 漆と同定された (第 140 図-1)。なお, 第 137 図-1 の赤外吸収スペクトル図は, 試料が実線, 生漆が点線で示し, 縦軸が透過率 (%R), 横軸が波数 (Wavenumber (cm⁻¹): カイザー) である。スペクトル図は, ノーマライズしてあり, 吸収スペクトルに示した数字は, 生漆の赤外吸収位置を示す (第 10 表)。なお, 下地層 (b1 または b2 層) の赤外分光分析では, 土成分のために明瞭ではないが, ウルシオールの一部の吸収が見られた (第 140 図-1 の b 層)。

以上の箱状塗膜片の検討から, 針葉樹を用いた木胎漆器であることが確認された。塗膜構造は, 外面が粘土下地に炭を塗った上に漆を塗り金の蒔絵を施し, 内面が水銀を混ぜた漆塗膜と推定された。ただし, 木胎の保存状態は悪く, 木胎の厚さは不明であった。

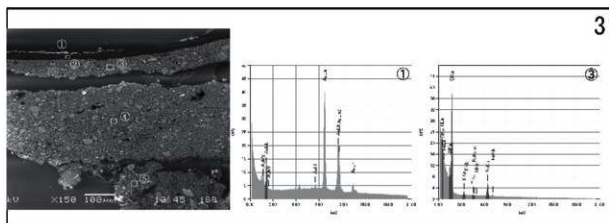
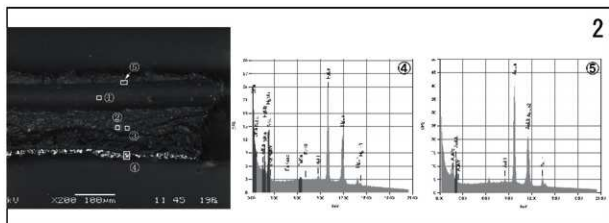
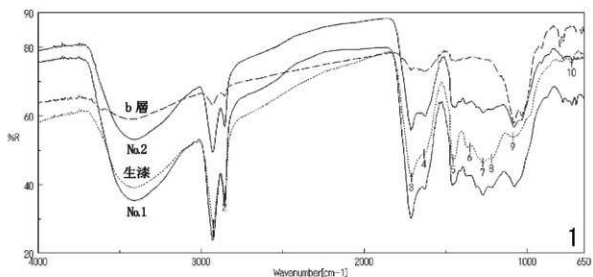
4. おわりに

黒地蒔絵箱物の塗膜片について顕微鏡観察等の塗膜分析を行った。その結果, 針葉樹を用いた木胎漆器であることが確認された。塗膜構造は, 外面が粘土下地に炭を塗った上に漆を塗り金の蒔絵を施し, 内面が水銀を混ぜた漆塗膜と推定された。ただし, 木胎の保存状態は悪く, 木胎の厚さは不明であった。

(株式会社パレオ・ラボ 藤根 久・竹原弘展)

第 10 表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	%R-6
7	1270.86	46.334	%R-6
8	1218.79	47.536	%R-6
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	



第 140 図 黒地時絵箱物塗膜の赤外線分光分析と X 線分析結果

1. 漆塗膜 (試料 No.1 の c2 層, 試料 No.2 の c1 層) および下地層 (b 層) の赤外分光スペクトル図 (縦軸は透過率, 横軸は波数を示す)
2. 試料 No.1 塗膜層の反射電子像と X 線スペクトル (番号は点分析位置を示す)
3. 試料 No.2 塗膜層の反射電子像と X 線スペクトル (番号は点分析位置を示す)

引用・参考文献

- 石丸敦史・渥美賢吾編 2009 『大館町遺跡（第8地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 堀遺跡一住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大館町遺跡（仮称）元古田第三住宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大館町遺跡発掘調査会
- 1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・夢沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 小川和博・大淵淳志編 2006 『台渡里遺跡一集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴編 2005 『大館町遺跡 グランディヒルズ元古田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・関口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『台渡里遺跡（第3地点）一市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 佐々木藤雄・林 邦夫編 2008 『台渡里遺跡（第39次調査）一公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 佐々木義明 2001 『茨城県における8・9世紀の須恵器喪概観』『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 高野浩之・米川暢敬編 2011a 『台渡里5一市道常磐123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第60次）一』水戸市教育委員会
- 2011b 『赤塚遺跡（第5地点）一河和田住宅建替事業（第5期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 外山泰久 1983 『常陸赤塚一国道50号水戸ハイパス道路建設に伴う発掘調査一』国道50号水戸ハイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡一内原町遺跡分布調査報告書一』内原町史編さん委員会
- 南田法正・渥美賢吾編 2009a 『町付遺跡（第1地点）一共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 宮田忠洋・渥美賢吾 2009 『雁沢遺跡（第1地点）一工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会・株式会社水戸理化ガラス・有限会社毛野考古学研究所

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうねんどみとしなにいせきはつつちようさほうこくしょ							
書名	平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第43集							
編集者名	川口武彦・色川順子・田中恭子・三浦健太							
著者名	川口武彦・色川順子・関口慶久・湯美賢吾・金子千秋・平井孝憲・藤根 久・竹原弘展							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111 (代)					
発行年月日	2011(平成23)年4月25日							
所収遺跡名	所在地	コ一下		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
江戸遺跡 (第8地点)	河和田3丁目2370-1	08201	015	36° 22' 23"	140° 24' 31"	2008.4.21	36.6	共同住宅建築
江戸遺跡 (第9地点)	河和田1丁目1615-1	08201	015	36° 22' 23"	140° 24' 24"	2008.7.9	86.15	個人住宅建築
土間遺跡 (第1地点)	大塚町字合ノ目709	08305	074	36° 22' 55"	140° 22' 03"	2008.11.6	17.51	個人住宅建築
一ノ宮遺跡 (第1地点)	牛伏町181-1外	08305	069	36° 34' 34"	140° 21' 44"	2008.6.2～6.5	124	墓地造成工事
稲荷町字地蔵 (第1地点)	大塚町1757	08201	221	36° 23' 23"	140° 23' 27"	2009.3.23	342	宅地造成工事
茨城高等学校校舎跡 (第1地点・2次)	八幡町9-54 (水戸八幡宮)	08201	062	36° 23' 16"	140° 27' 37"	2009.3.16	10	仮庁舎設置
上野遺跡 (第1地点)	栗崎町地内 (常盤8-1067号地)	08201	252	36° 20' 45"	140° 30' 55"	2008.10.28	3.04	潤滑新設工事
江戸前跡 (第3地点)	内照町639-1	08201	059	36° 22' 02"	140° 21' 46"	2009.3.23	15	個人住宅建築
大塚遺跡 (第9地点)	大塚町字源平598-2	08201	176	36° 00' 00"	140° 32' 31"	試掘 2008.5.12 本調査 2008.7.31～8.12	45.9 103.34	個人住宅建築
大塚遺跡 (第1地点)	大塚町字舟塚1277-1	08305	072	36° 23' 09"	140° 21' 48"	2008.6.5	23	個人住宅建築
大塚前地遺跡 (第6地点)	大塚町字表467	08201	222	36° 22' 51"	140° 23' 27"	2008.5.30	10	個人住宅建築
大塚前地遺跡 (第7地点)	大塚町544-10	08201	222	36° 22' 54"	140° 23' 18"	2008.6.23	13.8	個人住宅建築
大塚前地遺跡 (第8地点)	大塚町字表484	08201	222	36° 22' 22"	140° 23' 22"	2008.12.11	10.5	個人住宅建築
大塚前地遺跡 (第9地点)	元吉田町2339-4	08201	011	36° 21' 18"	140° 29' 01"	2008.12.11	26	店舗建設
大塚前地遺跡 (第10地点)	元吉田町2280-9、-10	08201	011	36° 18' 18"	140° 29' 09"	試掘 2008.8.6 本調査 2008.11.4～11.19	10 135.37	個人住宅建築
釜神町遺跡 (第1地点)	釜神町754-4、-11、-12	08201	020	36° 22' 24"	140° 17' 57"	2009.3.13	12	個人住宅建築
湯火遺跡 (第1地点)	元石川町字福沢908-1、 4、6、8、-12、910-1	08201	141	36° 20' 14"	140° 30' 23"	2009.6.9～6.13	475	伐後工事
河和田跡 (第6地点)	河和田町552	08201	102	36° 21' 55"	140° 25' 04"	2008.5.7	12.2	個人住宅建築
那れ橋遺跡 (第1地点)	内照町4304-33 (主要部地方道石岡常北線)	08305	158	36° 20' 24"	140° 22' 13"	2008.8.11、9.17、9.24、 9.25	12.04	街道拡幅工事
那れ橋遺跡 (第3地点)	上野開町3667-1、5	08201	046	36° 26' 29"	140° 26' 31"	2008.6.25～7.3	57.04	個人住宅建築
那れ橋遺跡 (第4地点)	上野開町3585-1	08201	046	36° 26' 35"	140° 26' 24"	試掘 2008.11.20 本調査 2009.1.22～3.19	10 66	個人住宅建築
小中前遺跡 (第2地点)	元石川町1892-1	08201	241	36° 19' 21"	140° 30' 08"	2008.4.16	16	個人住宅建築
山手遺跡 (第1地点)	赤根町字山手582-1	08305	180	36° 21' 52"	140° 22' 18"	試掘 2008.11.26 本調査 2009.2.9～3.11	7.5 66	個人住宅建築
山手遺跡 (第4地点・2次)	双葉台4丁目238	08201	066	36° 23' 46"	140° 24' 00"	2008.6.9～6.10	76.1	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元吉田町 2506 (安楽寺遺跡近接)	元吉田町 2506	08201	—	36° 21′ 27″	140° 29′ 06″	2009.2.2	12	個人住宅建築
新山遺跡 (第1地点-2次)	今関町 1366-1	08201	212	36° 25′ 20″	140° 22′ 36″	2008.7.28 ~ 8.1	219.4	吐水槽建設
松久内遺跡 (第2地点)	飯島町字明馬 527-4	08201	120	36° 23′ 24″	140° 25′ 38″	2008.9.12	9	個人住宅建築
竹渡早遺跡 (第43地点)	渡里町 3009-1	08201	276	36° 24′ 33″	140° 26′ 03″	2008.7.10	49.68	個人住宅建築
竹渡早遺跡 (第47地点)	渡里町字宿屋敷 2987-4, 14	08201	276	36° 24′ 33″	140° 25′ 58″	2008.10.9	24	共同住宅建築
竹渡早遺跡 (第50地点)	渡里町 3001-3	08201	276	36° 24′ 35″	140° 25′ 57″	2008.12.3	15.4	範囲確認
竹渡早遺跡 (第49地点)	渡里町 3058-3	08201	098	36° 24′ 36″	140° 25′ 54″	2008.10.31	8.24	個人住宅建築
長者山遺跡 (第3地点)	渡里町 3151-4, 3151-6	08201	276	36° 24′ 41″	140° 26′ 01″	2008.8.21 ~ 8.26	89.75	範囲確認
寺内遺跡 (第2地点)	大足町字寺前 1189-3, 4, 5, 1190-1, 2	08305	071	36° 23′ 15″	140° 22′ 01″	1次 2008.10.29 ~ 10.30 2次 2009.1.13 ~ 1.14	185.95	墓地造成
尾ノ上遺跡 (第2地点)	小林町字小林 1200-1	08305	123	36° 21′ 08″	140° 21′ 06″	2009.1.29	16.5	個人住宅建築
東前庭遺跡 (第1地点)	東前町 2-57, 60	08201	259	36° 20′ 23″	140° 31′ 49″	2008.11.11	71.5	個人住宅建築
中河内遺跡 (第3地点)	中河内町 194-1, -3, -4, 5, 6	08201	065	36° 24′ 25″	140° 27′ 34″	2009.2.13	7.5	個人住宅建築
東大野遺跡 (第1地点)	東大野 137-2	08201	054	36° 21′ 52″	140° 31′ 35″	試掘 2008.8.30 本調査 2008.9.4 ~ 9.8	37.5 45.6	個人住宅建築
舞台遺跡 (第5地点)	三淵町字舞台 466	08305	089	36° 22′ 21″	140° 20′ 50″	2008.9.24	9	個人住宅建築
聖遺跡 (第8地点)	榑町字馬場東 295	08201	064	36° 21′ 14″	140° 25′ 14″	2009.3.23	24.9	個人住宅建築
聖遺跡 (第13地点)	渡里町字野木 3324-1の一部分	08201	064	36° 24′ 36″	140° 25′ 26″	2008.4.9	29.25	個人住宅建築
聖遺跡 (第15地点)	榑町 327-1	08201	064	36° 24′ 35″	140° 25′ 26″	2008.7.11	21	個人住宅建築
水古屋遺跡 (第16次)	三の丸1丁目6 (三の丸小学校)	08201	172	36° 22′ 29″	140° 28′ 38″	2008.4.4	24	学校校舎改築
有賀町字中中原 483-2, 5	有賀町字中中原 483-2, 5	08305	082	36° 22′ 41″	140° 21′ 44″	1次 2008.8.26 2次 2008.10.31	6.87 7.5	個人住宅建築
山田遺跡 (第2地点)	大井町字原 121-7	08201	178	36° 20′ 17″	140° 32′ 07″	2008.8.20	14	個人住宅建築
東工院東遺跡 (第2地点)	元吉田町字東組 573-2, 10, 11, 12	08201	128	36° 21′ 35″	140° 29′ 42″	2009.1.28	82.5	宅地造成工事
谷田古墳群 (第9地点)	谷田町 805-3, 805-10	08201	069	36° 21′ 03″	140° 30′ 02″	2008.7.3, 7.15	16.4	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第11地点)	千波町字中道南 1502-14	08201	058	36° 21′ 13″	140° 28′ 08″	2008.9.9	15.4	個人住宅建築
渡里町遺跡 (第9地点)	渡里町 2568-1	08201	121	36° 24′ 20″	140° 26′ 27″	2009.1.15	76.3	共同住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
浮遺跡 (第8地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	性格不明遺構(縄文)		縄文土器、土師器、須恵器、陶器			
浮遺跡 (第9地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世			縄文土器、瓦葺			
古ノ山遺跡 (第1地点)	包蔵地	古墳・奈良・平安	窆穴建物跡 2 (奈良・平安)		土師器、須恵器			
一帯塚遺跡 (第1地点)	包蔵地	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安	窆穴建物跡 3 (奈良・平安)		土師器、須恵器			
榑原古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳群溝 1 (古墳)、溝跡 1 (不明)		土師器、須恵器、陶器			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
茨城高等学校遺跡 (第1地点・2次)	集落跡	縄文・平安・ 近世		陶器、磁器、土師質土器	
1跡遺跡 (第1地点)	集落跡	奈良・平安		カワラケ	
江戸前跡 (第3地点)	城跡跡	中世	井戸跡1(近代以降)		
大塚跡 (第9地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	竪穴建物跡1(奈良)、土坑4(縄文)	縄文土器、土師器、須恵系 鉄製品	第7地点で確認された官衙の遺 跡に伴う集落を構成するとみら れる竪穴建物跡が確認された。
大塚跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安		土師器、須恵器	
大塚跡遺跡 (第6地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安	竪穴建物跡1(古墳～奈良)	土師器、須恵器	
大塚跡遺跡 (第7地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安		土師器	
大塚跡遺跡 (第8地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安		土師器、須恵器、陶器	
大塚跡遺跡 (第9地点)	集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安	竪穴建物跡2(奈良、平安)	弥生土器、土師器、須恵器	
大塚跡遺跡 (第10地点)	集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	竪穴建物跡3(古墳1、平安1、不明1)、溝跡2(近 世)、土坑5(不明)	縄文土器、弥生土器、土師器、 須恵系、磨石、平瓦	
妻神町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・近世・ 近代	遺物包含層2(縄文、近世)	縄文土器、打製石片、陶器、 磁器、鉄器、漆製品	七面橋を含む多量の陶磁器など も、武家の調度品とみられる 黒漆柱箱留物の残片が出土した。
柳沢遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・中世	溝跡2(中世以降)	縄文土器、平瓦	
阿部川遺跡 (第6地点)	城跡跡	中世・近世		土師器、須恵器	
別所遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・古墳・ 奈良・平安	塚2(近世)	磁器、ガラス瓶、礎	
東原坂遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・奈良・ 平安・近世	土坑3(縄文3)、ピット25(近世)	縄文土器、土師器、須恵系、 磁器、礎	
東原坂遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・奈良・ 平安	竪穴建物1(平安)、竪立柱建物1(奈良)、土坑・ ピット45(縄文37、古代以降8)	縄文土器、土師器類、打製石 片、石皿、磨石/磨石類、石鏝、 土師器、須恵器、礎	
下長岡遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・古墳・ 平安		土師器、陶器	
下長岡遺跡 (第4地点・2次)	集落跡	縄文・古墳・ 近世	溝跡1(近世以降)	縄文土器	
屋敷内 (安楽寺遺跡近接)	—	—		縄文土器	
新田遺跡 (第1地点・2次)	集落跡	縄文・奈良・ 平安	竪穴建物跡(縄文)、土坑(縄文)、竪穴(縄文)、 ピット(縄文)	縄文土器、石鏝、磨製石片、 須恵系、礎	
松元内遺跡 (第2地点)	集落跡	弥生・古墳・ 奈良・平安		土師器	
台渡里遺跡 (第43次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	溝跡4(古墳～平安)、土坑1(奈良～平安)	縄文土器、土師器、須恵系、 軒丸瓦、平瓦	那賀郡新正倉院とみられる台渡 里廃寺跡長者山地区と同范の 3121 形式軒丸瓦が出土した。
台渡里遺跡 (第47次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	竪穴建物跡2(奈良～平安)、竪立柱建物跡2(奈良、 平安、中世)	土師器、須恵器	
台渡里遺跡 (第50次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世		土師器、瓦、陶器	
台渡里廃寺跡 (第49次)	寺院跡 集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世		土師器	
長者山遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	土坑4(縄文、古墳、中世)、竪立柱建物跡1(奈 良～平安)	縄文土器、土師器、須恵系、 土師質土器、陶器、磁器、礎	
寺内遺跡 (第2地点)	包蔵地	弥生・奈良・ 平安・中世	溝跡2(中世)	銅片、弥生土器、土師器	
塙ノ上遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・古墳・ 奈良・平安		土師器	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新田遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安		縄文土器	
山内内遺跡 (第3地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器、須恵器	
東大野遺跡 (第1地点)	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	溝跡1(近世)、土坑1(時期不明)	土師器、須恵器、陶磁器、標骨	
舞石遺跡 (第5地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安		須恵器	
屋遺跡 (第8地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師器、須恵器	
屋遺跡 (第13地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪立柱建物跡1(奈良～平安)、溝跡1(奈良～平安)、性格不明遺構1(奈良～平安)	土師器、須恵器	
屋遺跡 (第15地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴建物跡2(奈良～平安)	土師器、須恵器	
水戸城跡 (第16次)	城跡跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師質土器、陶器、磁器、五世瓦	
河原遺跡 (第6地点)	包蔵地	奈良・平安	溝跡1(奈良～平安)	灰釉陶器、土師器	
山田遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・平安	竪穴建物跡2(縄文)	縄文土器	
堀工段家遺跡 (第2地点)	集落跡	弥生・平安	竪穴建物跡4(弥生2、平安2)	弥生土器、土師器、須恵器	
杉田古墳跡 (第9地点)	古墳群	古墳		土師器、礎	
安原町遺跡 (第11地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世		土師器	
藤原町遺跡 (第9地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	竪穴建物跡1(平安)、溝跡1(時期不明)、土坑群(縄文)	縄文土器、割片、礎、土師器、須恵器	

※北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大塚町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大塚町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	坂遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	坂遺跡(第4地点) —プランタンコリヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点) —市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点) —住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点) —介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査) —公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点) —市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点) —市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年12月発行
第21集	台渡里1—平成18年度長者山地区範囲確認調査概報—	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2009年3月発行
第23集	吉田古墳Ⅲ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書—	2009年3月発行
第24集	町付遺跡(第1地点)—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行

第26集	荷鞍坂遺跡(第1地点)	—コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第27集	大塚町遺跡(第8地点)	—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第28集	雁沢遺跡(第1地点)	—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第29集	渡里町遺跡(第7地点)	—市道常磐23, 31, 307号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年6月発行
第30集	台渡里2	—市道常磐283号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第51次)—	2009年6月発行
第31集	若林遺跡(第1地点)	—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年8月発行
第32集	堀遺跡(第16地点)	—市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2009年10月発行
第33集	堀遺跡(第18地点)	—市道渡里31, 41号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年11月発行
第34集	堀遺跡(第17地点)	—市道渡里35号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年12月発行
第35集	平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2010年3月発行
第36集	笠原水道	—第6次・10次・11次発掘調査報告書—	2010年3月発行
第37集	台渡里3	—平成19～21年度長者山地区範囲確認調査概報—	2011年1月発行
第38集	台渡里4	—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第64次)—	2011年1月発行
第39集	堀遺跡(第3地点第2次調査)	—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2011年1月発行
第40集	台渡里5	—市道常磐123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第60次)—	2011年1月発行
第41集	堀遺跡(第16地点)	—市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2011年1月発行
第42集	赤塚遺跡(第5地点)	—河和田住宅建替え事業(第5期)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2011年1月発行
第43集	平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2011年4月発行
<hr/>			
水戸城跡	三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書		2006年9月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告 第43集

平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成23年4月25日

発行 平成23年4月25日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 コトブキ印刷株式会社

〒310-0851 水戸市千波町2398-1

TEL 029-241-1000(代)